

2002 年度 修士計画

那覇市国際通りニライカナイプラン

～沖縄文化の視点からの街づくり～

The Nirai-Kanai plan of Kokusai-dori Street, Naha

- Urban planning from the viewpoint of the Okinawa culture -

2003 年 1 月

指導教員 大谷英人

高知工科大学大学院
社会システム工学コース
1055035 大久保 圭

那覇市国際通りニライカナイプラン ～沖縄文化の視点からの街づくり～

The Nirai-Kanai plan of Kokusai-dori Street, Naha
- Urban planning from the viewpoint of the Okinawa culture -

高知工科大学大学院 工学研究科 基盤工学専攻 社会システム工学コース 1055135 大久保 圭

1. 沖縄における「場所の力」「共生」の視点

1.1 「場所の力」の視点

従来の街づくりは、産業・経済を優先に行われ、また、都市計画法や建築基準法に代表される法制度を頼りに、全国一律の基準にしたがった画一的な手法でつくられたために、全国どこへ行っても同じような街が出現して地域の個性が失われてきた。このような状況から、現在では地域からの発想を大切に住民参加による街づくりの重要性が認識されるようになってきている。

「場所の力」とは、歴史的に連続と続くその場所に関わる市民一人ひとりの生活によって紡ぎだされる社会的な記憶の集積である。そしてその場所に秘められた力を顕在化させ、市民自らがアイデンティティを持つことにより、都市生活の意味や可能性を再考していくことが必要である。〔ドロレス、2002：24-36〕

1.2 「共生」の視点

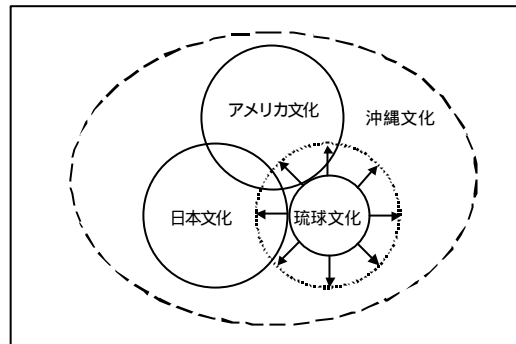
近年の沖縄文化は、国や基地への依存型経済の影響からか、急速にヤマト化、アメリカ化しており、那覇市国際通りは、その典型的な一例である。これは文化の視点からいえば極端な「同化」の進行であり、琉球文化は肥大化してきたアメリカ文化・日本文化によって独自性を喪失する可能性が高くなっている(図1参照)。

「共生」とは、『沖縄文化』は内包する琉球文化・アメリカ文化・日本文化という異質な文化の「差異」を認めながら、自由と平等の理念に基づく「共生」による新しい価値観を導く視点のひとつである。

1.3 本計画における街づくりの視点

したがって本計画は、この「場所の力」と「共生」

図1 現代の沖縄文化の状況と本計画の視点



の視点を用いる。琉球文化の独自性を拡大すること(場所の力)により、チャンプルー文化(共生)としての新しい沖縄文化を創出することを重点として、那覇市国際通りの計画づくりを行う。

2. 那覇市及び国際通りの位置と課題

2.1 那覇市の位置と課題

2.1.1 主要統計からみた那覇市の位置

主要統計からみる那覇市は、沖縄県のなかでも重要な役割を担い、特に第3次産業の就業者数は沖縄県全体の4分の1を占める規模を誇っている(表1参照)。

表1 那覇市の主要統計

主要指標	沖縄県	那覇市	市/県
面積(km ²)	2271.3	38.63	1.70%
人口(人)	1,318,220	301,032	22.80%
世帯数(戸)	446,286	111,788	25.00%
高齢者人口比率(%)	13.80%	14.00%	-
第1次産業就業者数(人)	34,156	944	2.80%
第2次産業就業者数(人)	104,221	17,338	16.60%
第3次産業就業者数(人)	412,355	105,007	25.50%
小売商店数(戸)	17,904	5,004	27.90%
従業者数(人)	69,959	19,917	28.50%
販売額(百万円)	963,453	281,724	29.20%
卸売商店数(戸)	3,302	1,188	36.00%
従業者数(人)	27,561	9,433	34.20%
販売額(百万円)	1,545,852	639,160	41.30%

2.1.2 観光からみた那覇市の位置

那覇市は空港・港湾の拠点擁することから、沖縄の玄関として、観光ショッピングの拠点として沖縄観光の中心的な役割を果たしている。平成12年の那覇市の入域観光客は425万人あまりとなり、平成元年と比較すると62.5%と激増している。このような伸びの増加要因としては、低料金のバック旅行の増加、修学旅行などの需要の掘り起こしや、新規航空路線の開設、那覇まつり、NAHAマラソンなどイベントの定着などが考えられる。また、首里城等が2000年11月にユネスコの世界遺産に登録されたことも挙げられる。

2.1.3 観光的視点からみた那覇市の課題

(1) 玄関口の整備

那覇市は、那覇空港と那覇港という沖縄県の玄関口をもち、沖縄への旅行者のほとんどが那覇を訪れることになる。したがって那覇市には、旅行者が求める沖縄らしさが求められる。

(2) 県都としての中心性の強化

近年、全国の都市でみられるように、那覇市においても同様にモータリゼーションにより北谷町のハンビータウンのような商業施設が周辺市町村へ流出しており、中心市街地の活性化が求められている。

(3) 沖縄の顔としての県都の形成

人口の減少は商業の停滞につながり、またそれによって様々な集客施設も郊外へ流出することから、人々の交流の機会も減少する。那覇市は、観光と住民の生活の両面からみても重要な都市であり、沖縄の顔としての県都の形成が求められる。

2.2.1 国際通りの位置

国際通りは、那覇空港から東に約4km、那覇市のほぼ中央に位置する。那覇市の中心的な商業地域である。国際通りの周辺には、マチグラーと呼ばれ親しまれている市場や、壺屋焼で有名な壺屋などがあり、近代化した国際通りとは違う一面もある。しかし、昭和62年に全面返還された在沖米軍基地跡地に整備されつつある新都心へと、集客施設の流出が続いている。

2.2.2 国際通りの課題

(1) 都市機能の流出による空洞化

国際通りは、戦後那覇市の復興の象徴的な通りであり、沖縄を代表するシンボルである。観光客の多くも国際通りを訪れ、マチグラー等の南国の雰囲気を楽しんでいる。

しかし、近年の新都心の開発により、一大商業地であったこの通りも約1割が空き店舗となっている。

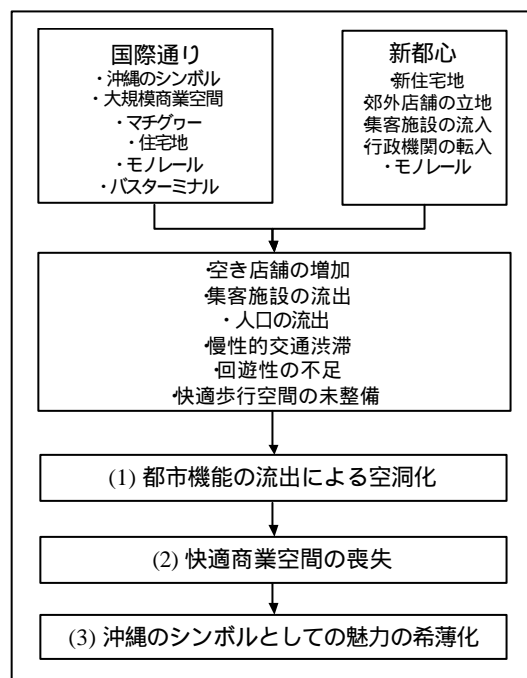
(2) 快適商業空間の喪失

国際通りには、マチグラー等の沖縄特有の商業空間が一部残っているものの、その多くは経済優先で、ゆとりの少ない空間となってしまっている。また、慢性的な交通渋滞により、排気ガス、騒音による快適な歩行空間が形成されていない。さらに、回遊性の不足が指摘されている。

(3) 沖縄のシンボルとしての魅力の希薄化

「奇跡の1マイル」と呼ばれ、発展してきた国際通りも、周辺地域への流出により、住民からも観光客からも魅力を喪失しつつある。それは、沖縄らしさと賑わいが交錯するような魅力が減少しつつあるためといえる。

図2 国際通りの課題



3. 沖縄文化の視点からの街づくりの方向

3.1 沖縄人気を生かし、沖縄の人材を活用する

沖縄にはチャンプルー文化という独特の文化がある。さらに、沖縄への観光客の増加にみられるように沖縄人気は上昇している。最近では県外における「沖縄病」と呼ばれる沖縄のファンになってしまった人たちも増えている。これを生かす街づくりを行う。

沖縄県の平成 13 年度の完全失業率は 8.4%と全国平均の 4.9%を大きく上回っている。しかし、この余剰人材の中には沖縄文化の担い手も多く、これらの人材を利用し、沖縄文化をより発展させる。

沖縄文化の発展は、さらなる沖縄ファンを生み、観光客の増加、商業の発展、さらに地域への愛着へとつながる。

3.2 沖縄らしい生活拠点をつくる

国際通りの生活拠点の活性化を推進するためには、新都心とは異なる魅力をもたせることが必要である。そこで、那覇市の復興の歴史を物語る存在として、国際通りを『沖縄のシンボルとなる街』として再構築し、沖縄の庶民の『生活に密着した街』を形成する。

さらに、住民と観光客等の来街者とは「集い」「楽しむ」ことができる『交流がある街』をめざし、誰にも安心して歩ける『快適に歩ける街』を形成する。

3.3 沖縄文化を重視した観光拠点化を図る

沖縄観光は、余暇時間の増加や航空料金の低下などを追い風に、今後さらに増加傾向にある。さらに、リゾート中心であった沖縄観光は、観光客のホンモノ志向と全国的に増えつつある沖縄病患者のニーズにより、ホンモノの沖縄を体験するということに変化してきている。

ホンモノの沖縄を体験するために求められるのは観光客のための街ではなく、住民の生活に密着した街である。そうした街を形成すると、「住民」「観光客」「事業者」「来街者」が集う街に発展し、地域と観光客のニーズに応えられる街となる。

この観光拠点は、商業の活性化をもたらす、雇用の増大させる。これを、さらなる沖縄文化の発展へとつな

げる。

4. 那覇市国際通りニライカナイプラン

4.1 世界のニライカナイへ

ニライカナイとは沖縄地方で信じられている楽土、桃源郷であり、海上や海底にあるとも、地の底やはたまた天空にあるとも言い伝えられ、人びとは理想の邦への憧れや豊穡の感謝をもって接してきた。

本計画は、沖縄の象徴的存在ではあるが、現在は周辺地域におされ競争力を失いつつある国際通りを、現代の「ニライカナイ」とするため、『沖縄の顔となり、様々な交流が発生する街の形成』を目的に、「ニライカナイプラン」を策定する。

4.2 ニライカナイプランへむけての方針

現代の「ニライカナイプラン」は、那覇市国際通りの独自性を伸ばし、日本の人びとのみならず、アジアを始めとする世界の人びとが、憧れる街となるようにする。

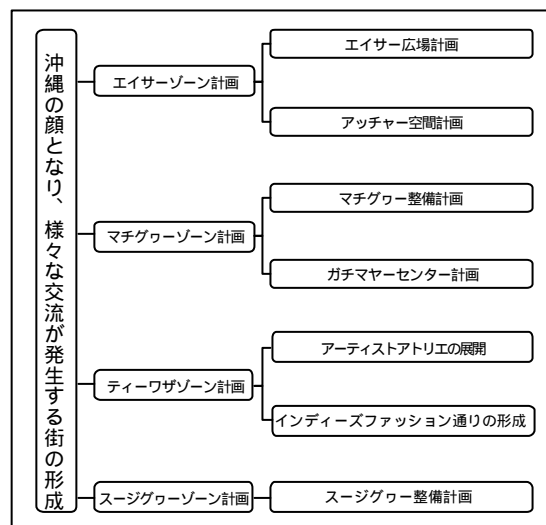
ニライカナイプランへむけての方針

- ・ 生活に密着した街づくり
- ・ 沖縄のシンボルとなる街づくり
- ・ さまざまな交流のある街づくり

4.3 那覇市国際通りニライカナイプランの体系

ニライカナイプランは、4つゾーンと7つの計画を行う。

図3 ニライカナイプランの体系



4.4 国際通りニライカナイプラン全体計画

那覇市国際通りニライカナイプランの全体計画は、表2のとおりであり、全体の配置は、図4のとおりである。また、観光面からみた各ゾーンの位置づけは図5のとおりである。

表2 国際通りニライカナイプラン全体計画内容

計画	内容	整備事項
快適商業空間整備	アミューズメント性、文化性、情報発信性等の多面的な機能の創出し、「生活に密着」し、さらに「沖縄のシンボル」となる快適商業空間の整備を行う。	・商業基盤施設を誘致する。 ・文化施設を設置する。 ・コミュニティ施設を設置する。
歩行空間整備	来街者や身体障害者など、誰にでも歩きやすい歩行空間の整備を行う。	・観光情報を含む誘導サインを設置する。 ・ポケットパークの設置。 ・電柱を地中化する。 ・電灯を設置する。 ・ベンチを設置する。 ・カラー舗装を整備する。
交流空間整備	公共施設整備計画との連携を図り、利便性とコミュニティ性を考慮した「交流」を柱とした整備を行う。	・空き地、空き店舗をりようした、交流空間の整備。

図4 国際通りニライカナイプランの全体図

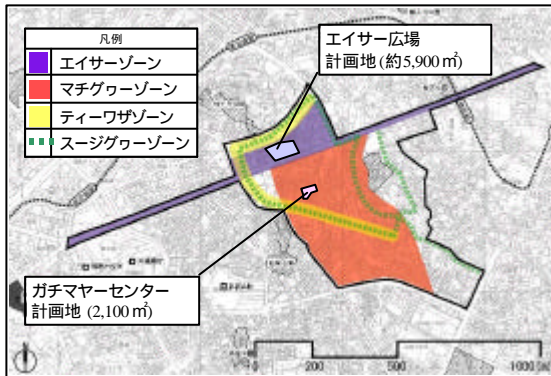
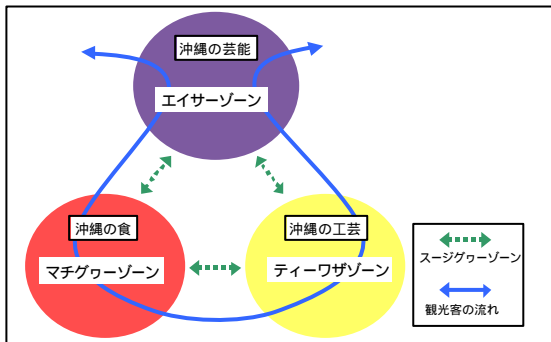


図5 観光面からみた各ゾーンの位置づけ



5. ゾーン別計画

5.1 エイサー（踊り）ゾーン計画

(1) エイサーゾーン計画のねらい

- ・エイサーに代表される沖縄の芸能を体験できる空間整備をする。
- ・沖縄の芸能の発信地となる地域の顔の役割を果たす通りを形成する。
- ・エイサー、カチャーシーが踊れる空間を整備し、エンターテインメント性を強化する。
- ・快適な歩行空間を整備し、国際通りの商業空間の魅力と集客力を向上させる。
- ・来街者（観光客）と地元との交流を図り、賑やかな通りを形成する。

(2) エイサーゾーン計画内容

エイサー広場計画

那覇市牧志1丁目 旧沖縄山形屋跡地

エイサー広場計画では、表3の4つの施設を設置する。ここでは、沖縄の芸能の発信地としての機能をもたせ、このゾーンの核として整備する。

表3 エイサー広場計画内容

計画	内容	整備事項
エイサー広場	イベント・祭り等で、エイサー、カチャーシーが踊れる広場を整備し、平時は露店を出店させ、店舗を持たないアーティストと消費者のコミュニケーションが図れる空間とする。	・石畳とする。 ・街路樹はデイゴとする。
アシピナーセンター	沖縄の芸能を発展させる核として、また発信する核として利用度の高い施設を設ける。	・多目的ホール（100席） ・スタジオ、練習ホール（2室） ・コミュニティFM施設 ・各種店舗の設置
アマハジ広場	市民や観光客が屋外での食事・休憩等ができるよう沖縄の住居に見られる広い庇を持つ東屋で日陰をつくる。	・テーブル、ベンチを設置する。 ・水道の設置する。
ブーゲンビリア広場	パーゴラによる日陰を設置する。	・ブーゲンビリアのパーゴラを設置する。

図6 エイサー広場計画地現況図

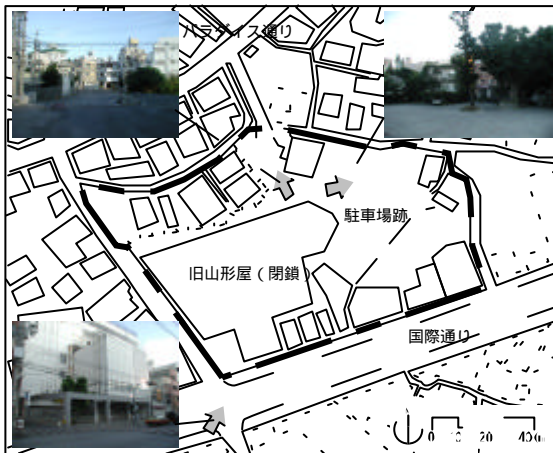
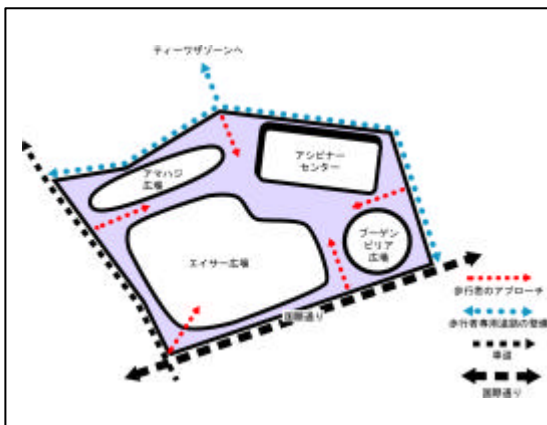


図7 エイサー広場計画のゾーニング図



アッチャー（歩行者）空間整備計画

那覇市国際通り

アッチャー空間整備計画は、表4の2つの整備を行う。沖縄の目抜き通りとして、地域の核となる快適歩行空間へと整備する。

表4 アッチャー空間整備計画内容

計画	内容	整備事項
歩道	地域の顔となる通りとしてトランジットモール化による快適な歩行空間を拡大する。	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインを基本とする。 石畳とする。 街路樹はデイゴとする。 電柱を地中化する。
（低床式路面電車） LRV	LRVを導入し、那覇バスターミナルと新都心を結ぶ。停車場は国際通りの主要施設の前に設ける。	<ul style="list-style-type: none"> 許可車両（搬入車）以外、終日乗り入れ禁止（歩行者天国）とする。

5.2 マチグラー（市場）ゾーン計画

(1) マチグラーゾーン計画のねらい

- ・沖縄の食文化を体験できるゾーンとする。
- ・沖縄のもつマチグラーを活かした整備を行う。
- ・観光客や修学旅行生などが沖縄の食文化を体験できる施設を配置する。
- ・誰でも入りやすいゾーンとし、集客力を高める。
- ・地元のおジィ、オバアとの交流が楽しめる街にする。

(2) マチグラーゾーン計画内容

マチグラー整備計画

マチグラー整備計画では、表5の整備を行う。国際通りの魅力の一つであるマチグラーであるが、内部は迷路のように入組んでいる。初めて訪れる人も安心、快適に買い物ができるように整備する。

表5 マチグラー整備計画

計画	内容	整備事項
誘導サイン	迷いやすいマチグラーを歩きやすいように、誘導サインを設置する。	<ul style="list-style-type: none"> 観光情報を載せた誘導サインの設置する。 ユニバーサルデザインを基本とする。
空き店舗の利用	空き店舗を利用したマチグラーのおジィ、オバアと観光客が交流できるスペースや、ギャラリーを設置する。買い物に疲れても休憩でき、ウチナータイムを体験できるスペースを整備する。	<ul style="list-style-type: none"> 空き店舗利用による休憩スペースを設置する。 ギャラリーを設置する。

ガチマヤー（食いしん坊）センター計画

那覇市牧志2丁目 旧第2牧志公設市場跡地

ガチマヤーセンター計画では、沖縄の食を体験するための施設を計画する。センター施設に調理実習室を設けることにより、食べるだけではなく、食材からつくるところまで体験できる施設となっている。

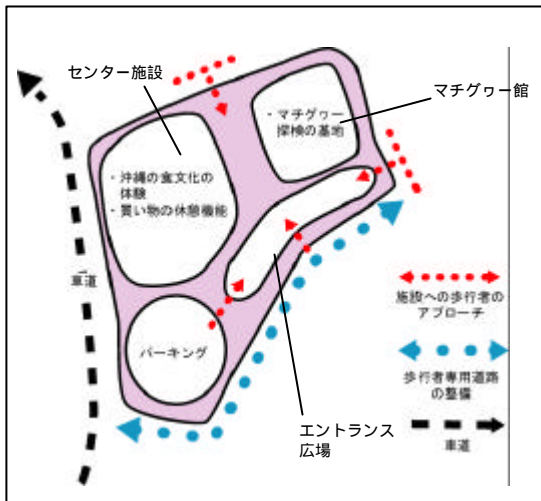
表6 ガチマヤーセンター計画内容

計画	内容	整備事項
センター施設	「沖縄の食文化の体験」を柱に観光客、修学旅行生などが沖縄の食材および料理について体験学習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習台 10 程度の調理室実習室を設置する。 ・50 席程度の食堂を設置する。 ・沖縄の料理屋食材を紹介するコーナーを設置する。
	「買い物の休憩機能」を柱に休憩ができるカフェや荷物を預けて買い物ができるコインロッカーを設置する。	<ul style="list-style-type: none"> ・マチグー歴史コーナーを設置する。 ・マチグー案内コーナーを設置する。
マチグー館	「沖縄のマチグー探検の基地」を柱に迷路のように入組んだマチグーの見所を紹介、マチグーの歴史の学習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェを設置する。 ・コインロッカーを設置する。

図8 ガチマヤーセンター計画地現況図



図9 ガチマヤーセンター計画ゾーニング図



5.3 ティーワザ（工芸）ゾーン計画

(1) ティーワザ計画のねらい

- ・沖縄の工芸（焼物、琉球ガラス、漆器、紅型、織物、銀細工）とTシャツアート等のファッションをテーマとした若者を対象とした通りを形成する。
- ・現在の空き店舗の解消のため、若いインディーズファッションの店舗や、アーティストのアトリエ兼店舗として定着させる。

(2) ティーワザゾーン計画内容

アーティストアトリエの展開

沖縄は、「芸術の島」と呼ばれるほど、さまざまな芸術価値の高い工芸を生み出してきた。沖縄の工芸芸術をさらに高めるためにも、若いアーティストを育てる地盤づくりが求められる。その核となるアトリエ群を、空き店舗を利用し展開させる。

表7 アーティストアトリエの展開

計画	内容	整備事項
アーティストアトリエ	沖縄の工芸をつくるアーティストのためのアトリエを空き店舗を利用し展開させ、市民や観光客などがアーティストと交流する空間とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には既存の空き店舗を利用する。 ・アーティストのためのギャラリーを設置する。 ・製作風景が通りから見えるように配慮する。
沖縄工芸紹介	実物の工芸品と映像を用いて沖縄の工芸を紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> ・展示室と映像室をわける。 ・座席 20 程度とスクリーンを設置する。 ・落ち着いた雰囲気にする。 ・休憩スペースも設ける。
工芸製作体験	工芸製作を体験できるスペースを設置し、沖縄の工芸をより深く体験できるように図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・工芸ごとにスペースを設ける。

インディーズファッション通りの形成

現在、ティーワザゾーン地区に、若い店主による若者向けファッションの店が建ち並びつつある。この動きを助け、若者ファッションの発信地となるように、表8の整備を行う。

表8 インディーズファッション通りの形成

計画	内容	整備事項
ファッション通りの形成	若者のファッションの発信地となるインディーズファッションの通りを形成する。	・基本的には既存の空き店舗を利用する。
快適歩行空間	早く歩いて買い物ができる楽しさのある通りをめざす。	・石畳とする。 ・ポケットパークを設置する。 ・街路樹はデIGOとする。 ・電灯を配置する。 ・電柱を地中化する。

ソフト面からの仕掛けづくり

現在、空き店舗が目立つティールワザゾーンを、賑やかなゾーンとするために、表9のソフト面からの仕掛けづくりをおこなう。

表9 ソフト面からの仕掛けづくり

計画	内容	整備事項
空き店舗対策	空き店舗を減らし、にぎやかな通りを演出する。	・工芸のアーティストや若いファッション関連店舗の経営者の募集。 ・アーティスト、店舗経営者に対する店舗賃貸料の補助。
イベントの開催	工芸市、ファッションショーなどのイベントの開催。	・イベントを企画・運営する団体の育成。 ・イベント開催費の補助
情報の発信	工芸、ファッション、イベントの情報を発信する。	・アンテナショップを設置する。 ・web等で情報を発信する。
工芸者の育成	工芸の製作を観光客等に指導できる人材の養成、確保。	・工芸のアーティストからの募集。 ・養成講座の開催。

5.4 スージグワー（路地）ゾーン計画

(1) スージグワーゾーン計画のねらい

- ・歩行者の国際通りと周辺の通りとの回遊性を向上させる。
- ・地域の人々が「コンタク」を楽しめるゆとりある道を創出する。
- ・地元根ざしたアーティストの発表の場となる道となるように、ベンチ、外灯等のストリートファニチャーには、アーティストの作品を配置する。

古くから沖縄の生活路であり、コミュニケーションの場であったスージグワーとして、国際通り一帯の回遊路を表10のように整備する。

表10 スージグワーゾーン計画内容

計画	内容	整備事項
車道および歩道	沖縄の古くからあるコミュニケーションの場であったスージグワーでさまざまな交流が発生する空間とする。	・石畳とする。 ・街路樹はデIGOとする。 ・ベンチを設置する。 ・サインの充実。
コンタク	コンタク（おしゃべり）ができる涼しい木陰をもつポケットパークを整備する。	・空き地の利用 ・四季折々の花が咲きそろうスペースとする。

おわりに

今回のニライカナイプランでは、コンセプト及び整備内容を計画した。残された課題としては、本計画を行うための事業可能性の検討（事業主体の設定、事業費の算出、事業プログラムの設定等）がある。

これらについては、沖縄のコンサルタントに就職し、沖縄のまちづくりを行っていくことが決定しており、これらは、私自身の今後のテーマとしたいと思っている。

参考文献

- ・粟田房穂（2002年）最先端観光企業・ディズニーテーマパーク 一色清『AERA Mook 観光学がわかる。』朝日新聞社
- ・池澤夏樹（1992年）ニライカナイ ナイチャーズ『沖縄いろいろ辞典』新潮社 p90-91 猪爪範子（1989年）『まちづくり文化産業の時代』ぎょうせい
- ・大谷英人（2002年）『テキストまちづくり入門』若竹まちづくり研究所
- ・大濱聡（1998年）『沖縄・国際通り物語 - 「奇跡」と呼ばれた1マイル - 』ゆい出版
- ・寛計画編（2002年）『観光振興のための中心市街地活性化方策の検討調査報告書』寛計画
- ・酒田哲（1991年）『地方都市・21世紀への構想』日本放送出版協会
- ・白幡洋三郎（2002年）都市観光古代ギリシャからの観光の王道 一色清『AERA Mook 観光学がわかる。』朝日新聞社
- ・高草木光一（1999年）共生空間の変容 慶応義塾大学経済学部編『変わりゆく共生空間』弘文堂 序論：3-22
- ・ドロレス・ハイデン（2002年）『場所の力』学芸出版社
- ・那覇市企画部文化振興課（1987年）『那覇市史 資料篇第3巻1 戦後の都市建設』那覇市役所
- ・比屋根照夫（2000年）近代沖縄における同化と自立 太田朝敷・伊波普猷を中心に 慶応義塾大学経済学部編『マイノリティからの展望』弘文堂 第部：157-176
- ・和宇慶朝太郎（1999年）『近世・近代那覇における商空間の成立と展開に関する研究』和宇慶朝太郎

Abstract

Recent state in Japan, when we visit somewhere, there are many urban cities that have same kind of design or planning. Therefore, almost urban city having been lost their property. Because, the conventional urban planning is performed to priority in “ Industry ” and “ Economy ” , and they are built with the uniform technique according to the Building Standard Law.

After that, because of such situations, it is emphasized the necessity of the urban planning by the citizens' participation or their way of thinking.

“ Historical power of place ” means that it is an accumulation of social memory that made from the individual life related to a place, historically. And, it needs to reconsider a possibility or meaning of urban life and have citizen ' s identity with clearing the original attract of the place.

“ Symbiosis ” means that the one of viewpoint that leads to new worth because of modern culture ' s “ assimilation ” based on freedom and impartiality while considering the difference of cultures, Ryukyu culture, American culture, and Japanese common culture.

However, recent Okinawa culture is rapidly changing to Tokyo-style or American style, like Kokusai-dori Street in Naha city. It means that it is the becoming “ assimilation ” , extremely; it is possible for Ryukyu culture to lose the originality because of the influence of expanding of American culture and Japanese common culture.

Therefore, the main topic in this research is that the restore of originality of Ryukyu culture and the progress of fascinating in Kokusai-dori street in Naha city by using “ Historical power of place ” and “ Symbiosis ”

目次

計画編

1. 沖縄における「場所の力」「共生」の視点	15
1.1 「場所の力」の視点	15
1.2 「共生」の視点	16
1.3 本計画における街づくりの考え方	17
2. 那覇市及び国際通りの位置と課題	18
2.1 那覇市の位置と課題	18
2.1.1 那覇市の位置	18
2.1.2 観光からみた那覇市の位置	20
2.1.3 観光的視点からみた那覇市の課題	23
2.2 国際通りの位置と現況・課題	24
2.2.1 国際通りの位置	24
2.2.2 国際通りの課題	27
3. 沖縄文化の視点からの街づくりの方向	28
3.1 沖縄人気を生かし、沖縄の人材を活用する	28
3.2 沖縄らしい生活拠点をつくる	29
3.3 沖縄文化を重視した観光拠点化を図る	30
4. 那覇市国際通りニライカナイプラン	31
4.1 世界のニライカナイへ	31
4.2 ニライカナイプランへむけての方針	31
4.3 那覇市国際通りニライカナイプランの計画範囲とプランの体系	32
4.4 那覇市国際通りニライカナイプラン全体計画	34
5. ゾーン別計画	35
5.1 エイサーゾーン計画	35
5.2 マチグワゾーン計画	39
5.3 ティーワザゾーン計画	41
5.4 スージグワゾーン計画	43
おわりに	45

資料編

1 . 那覇市の現況	49
1.1 自然条件	49
1.2 社会条件	51
2 . 国際通りの現況	53
2.1 国際通りの沿革	53
2.2 来街者通行量及び意識調査	54
3 . 関連計画からみた国際通りの整備方針	60
3.1 那覇市都市計画マスタープラン	60
3.2 那覇市観光コンベンション振興計画	61
4 . 観光の動向と特性	63
4.1 沖縄観光の動向	63
4.2 沖縄観光の特性	71
4.3 全国的な観光動向	72
5 . 現地写真	73
5.1 エイサー広場計画地 那覇市牧志1丁目 旧沖縄山形屋跡地	73
5.2 ガチマヤーセンター計画地 那覇市牧志2丁目 旧第2牧志公設市場跡地	74
引用・参考文献	75
謝辞	76

計画編 図・表・写真一覧

図 1.1	本計画における「場所の力」の考え方	15
図 1.2	現代の沖縄文化の状況	16
図 2.1	地理的条件からみた那覇市の位置	20
図 2.2	那覇市の課題	23
図 2.3	国際通りの位置	24
図 2.4	国際通りの商店街と集客施設	25
図 2.5	国際通りの4つの通り会	26
図 2.6	国際通りの店舗構成	26
図 2.7	国際通りの課題	27
図 3.1	沖縄文化による街づくりの動き	28
図 3.2	沖縄らしい生活拠点の活性化方向	29
図 3.3	観光拠点としての発展	30
図 4.1	那覇市国際通りニライカナイプラン計画範囲	32
図 4.2	那覇市国際通りニライカナイプランの体系図	33
図 4.3	那覇市国際通り整備計画の全体図	34
図 4.4	観光からみた各ゾーンの位置づけ	35
図 4.5	住民からみた各ゾーンの位置づけ	35
図 5.1	エイサーゾーンの計画位置図	36
図 5.2	エイサーゾーンの位置づけ	36
図 5.3	エイサー広場計画の現況図	37
図 5.4	エイサー広場計画のゾーニング図	38
図 5.5	トランジットモールのイメージ	39
図 5.6	LRVの駐車場の配置	39
図 5.7	マチグワゾーン的位置図	40
図 5.8	マチグワゾーン的位置づけ	40
図 5.9	ガチマヤーセンター計画地現況図	42
図 5.10	ガチマヤーセンター計画ゾーニング図	42
図 5.11	ティーワザゾーン的位置図	43
図 5.12	ティーワザゾーン的位置づけ	43
図 5.13	スージグワの位置図	46
図 5.14	スージグワゾーン的位置づけ	46
表 2.1	那覇市の主要統計	18
表 2.2	那覇市における気温・降水量(1971年～2000年平均)	18
表 2.3	那覇市の年別入込み観光客数	20
表 2.4	沖縄県の観光客入域状況	21
表 2.5	観光客一人当たりの県内消費額	21
表 2.6	年次別観光客一人当たり県内消費額の過去の推移	21
表 2.7	那覇市における主なイベント(平成14年度)	22
表 2.8	那覇市における主な文化財	22
表 4.1	国際通りニライカナイプラン全体計画図	34
表 5.1	エイサー広場の整備方向	37
表 5.2	アッチャー空間整備計画内容	39
表 5.3	マチグワ整備計画	41
表 5.4	ガチマヤーセンター計画内容	41
表 5.5	アーティストアトリエの展開	44
表 5.6	インディーズファッション通りの形成	44
表 5.7	ソフト面からの仕掛けづくり	45
表 5.8	スージグワゾーン計画内容	47

資料編 図・表・写真一覧

図 1-1	那覇市の人口及び世帯数、世帯人員の推移	52
図 2-1	通り別通行量	54
図 2-2	年代別来街者構成	55
図 2-3	来街手段	56
図 2-4	購買品目	56
図 2-5	購買理由	57
図 2-6	商店街のイメージ1	57
図 2-7	商店街のイメージ2	58
図 2-8	商店街のイメージ3	58
図 2-9	商店街への要望	59
図 4-1	年次別観光客数及び観光収入	63
図 4-2	沖縄県の観光収入と個人消費額	65
図 4-3	観光客1人当たり県内消費額内訳の推移	66
図 4-4	県外客の年代別滞在日数	67
図 4-5	県外客の年代別旅行目的	68
図 4-6	沖縄観光の印象	70
表 1-1	那覇市の気象	51
表 1-2	那覇市の沿革	51
表 1-3	那覇市の人口及び世帯数、世帯人員の推移	52
表 1-4	那覇市における年齢別人口の推移	52
表 2-1	国際通りの沿革	53
表 3-1	那覇市都市計画マスタープランからみた国際通りの整備方針	60
表 3-2	国際通り整備の施策(ハード施策)	61
表 3-3	国際通りの整備の施策(ソフト施策)	62
表 4-1	沖縄観光の推移	64
表 4-2	沖縄県の観光収入と個人消費額	65
表 4-3	観光客1人当たり県内消費額内訳の推移	66
表 4-4	県外客の年代別滞在日数	67
表 4-5	県外客の年代別旅行目的	69
表 4-6	沖縄観光の印象	70
表 4-7	沖縄観光市場の特徴	71
表 4-8	全国的な観光動向	72

計画編

1. 沖縄における「場所の力」「共生」の視点

1.1 「場所の力」の視点

(1) 産業・経済優先の街づくりからの脱却

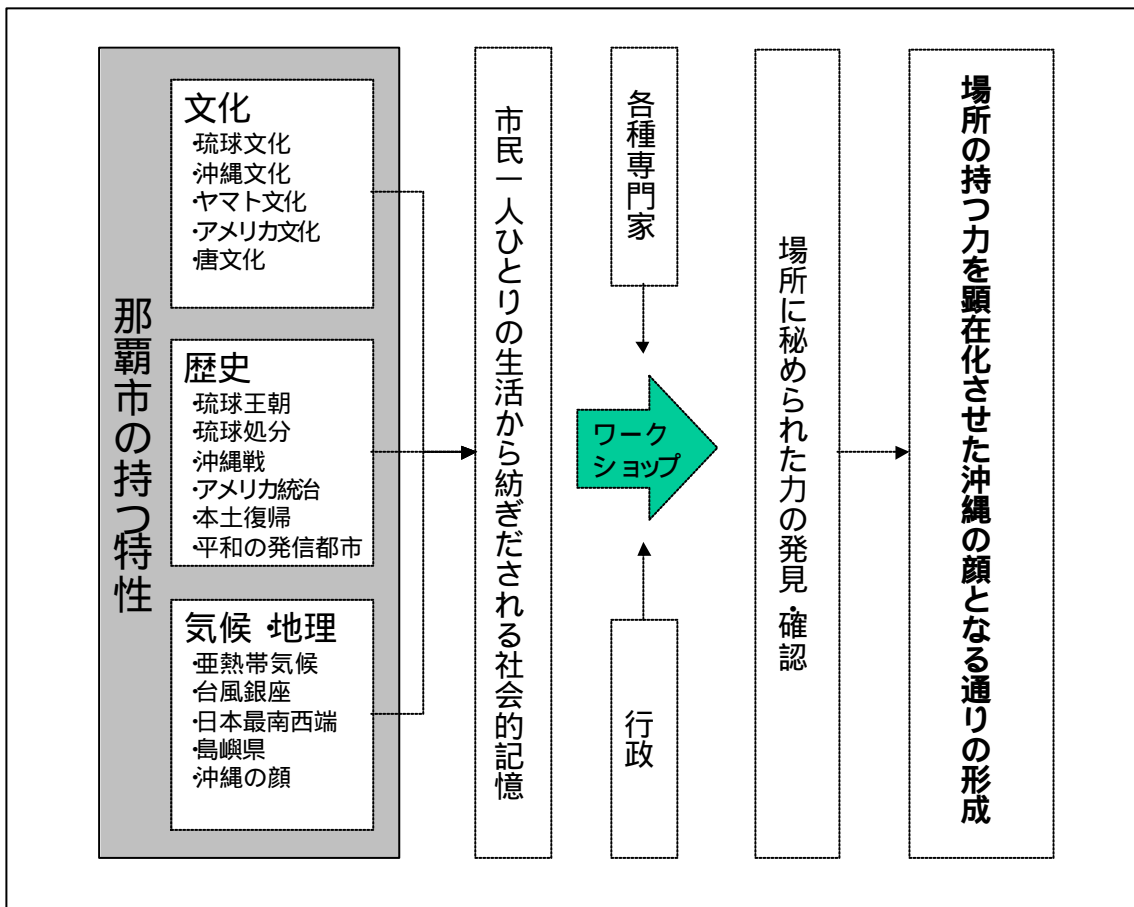
従来の街づくりは、産業・経済を優先に行われ、また都市計画法や建築基準法に代表される法制度を頼りに、全国一律の基準にしたがった画一的な手法でつくられたために、全国どこへ行っても同じような街が出現して地域の個性が失われてきた。このような状況から、現在では地域からの発想を大切に住民参加による街づくりの重要性が認識されるようになってきている。

(2) 「場所の力」とはなにか

「場所の力。それはごく普通の都市のランドスケープに秘められた力であり、共有された土地の中に共有された時間を封じ込め、市民が持つ社会の記憶を育む力である。」〔ドロレス，2002：24-36〕としている。「場所の力」とは、歴史的に連綿と続くその場所に関わる市民一人ひとりの生活によって紡ぎだされる社会的な記憶の集積である。そしてその場所に秘められた力を顕在化させ、市民自らがアイデンティティを持つことにより、都市生活の意味や可能性を再考していくことが必要である。

本計画では、この「場所の力」のもちいて、沖縄独自の街を形成する。

図 1.1 本計画における「場所の力」の考え方



1.2 「共生」の考え方

(1) 沖縄文化の独自性の喪失

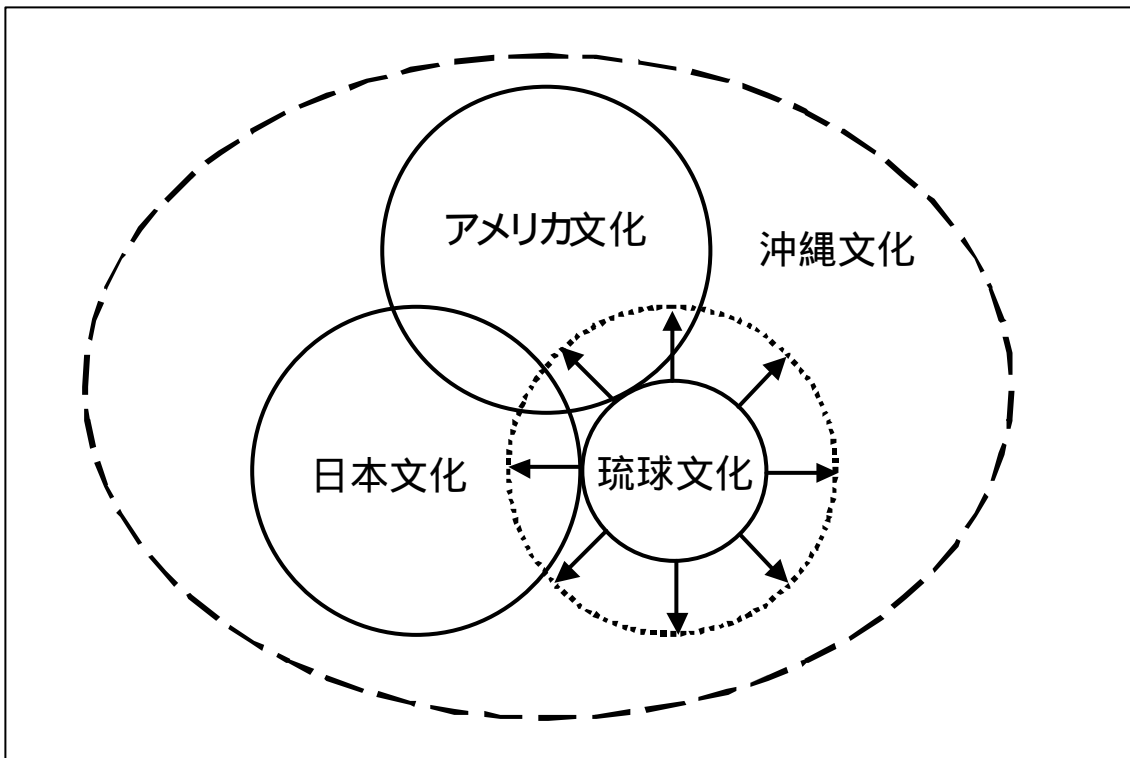
沖縄では、14世紀から16世紀にかけての大交易時代において地理的特性を生かし、中国や東南アジア諸国と親密な交流を行っていた歴史があり、その歴史のなかで独自の文化を生みだし、染織物、漆器、陶器、芸能など、沖縄独特の文化圏を築いてきた。沖縄の文化は、他の地域の文化を取り込み独自の文化とする「チャンプルー文化」と呼ばれ、明治政府の琉球処分後、また戦後アメリカの統治下でも行われてきた。

しかし近年の沖縄文化は、国や基地への依存型経済の影響からか、急速にヤマト化、アメリカ化しており、那覇市国際通りはその典型的な一例である。これは文化の視点からいえば極端な「同化」の進行であり、琉球文化は肥大化してきたアメリカ文化・日本文化によって独自性を喪失する可能性が高くなっている。

(2) 「共生」とはなにか

「共生」とは、「それは「異質な他者との共存」であり、「同化」と「差別」に対する決定的なアンチ・テーゼである。」とし、さらに、「共生」が「異質な他者との共存」であるという原義に立ち帰ってみれば、「差異」を前提としない「共生」はありえない。〔高草木光一，1999：3-22〕としている。したがって、「共生」は『沖縄文化』が内包する琉球文化・アメリカ文化・日本文化という異質な文化の「差異」を認めながらも、自由と平等の理念に基づく近代文化の「共生」による新しい価値観を導く視点のひとつである。

図 1.2 現代の沖縄文化の状況



1.3 本計画における街づくりの視点

したがって本計画は、この「場所の力」と「共生」の視点を用いる。琉球文化の独自性を拡大すること（場所の力）により、チャンプルー文化（共生）としての新しい沖縄文化を創出することを重点として、那覇市国際通りの計画づくりを行う。

2. 那覇市及び国際通りの位置と課題

2.1 那覇市の位置と課題

2.1.1 那覇市の位置

(1) 主要統計からみた那覇市の位置

主要統計からみる那覇市は、表 1 のとおりであり、沖縄県のなかでも重要な役割を担い、特に第 3 次産業の就業者数は沖縄県全体の 4 分の 1 を占める規模を誇っている。

表 2.1 那覇市の主要統計

主要指標		沖縄県	那覇市	市 / 県	資料
土地	面積 (km ²)	2271.3	38.63	1.7%	「都市計画課推計面積」 平成12年10月1日現在
	人口				
人口	人口 (人)	1,318,220	301,032	22.8%	平成12年国勢調査
	世帯数 (戸)	446,286	111,788	25.0%	
	高齢者人口比率 (%)	13.8%	14.0%	-	
産業構造	第 1 次産業就業者数 (人)	34,156	944	2.8%	平成12年国勢調査
	第 2 次産業就業者数 (人)	104,221	17,338	16.6%	
	第 3 次産業就業者数 (人)	412,355	105,007	25.5%	
農業	農家数 (戸)	27,088	167	0.6%	平成12年「農業事業体調査」
	専業農家数 (戸)	7,939	47	0.6%	
	経営耕地面積 (a)	3,032,273	6,592	0.2%	
漁業	漁業世帯数 (戸)	4,280	252	5.9%	「平成12年海面漁業生産統計調査」
	漁船隻数 (隻)	3,668	121	3.3%	
工業	事業所数 (件)	1,454	227	15.6%	平成11年度「工業流計調査」 (従業者4人以上の事業所)
	従業員数 (人)	25,593	3,927	15.3%	
	製造品出荷額等 (百万円)	646,418	108,918	16.8%	
商業	小売商店数 (戸)	17,904	5,004	27.9%	平成9年度「商業統計調査」
	従業者数 (人)	69,959	19,917	28.5%	
	販売額 (百万円)	963,453	281,724	29.2%	
	卸売商店数 (戸)	3,302	1,188	36.0%	
	従業者数 (人)	27,561	9,433	34.2%	
	販売額 (百万円)	1,545,852	639,160	41.3%	

表 2.2 那覇市における気温・降水量 (1971 年～2000 年平均)

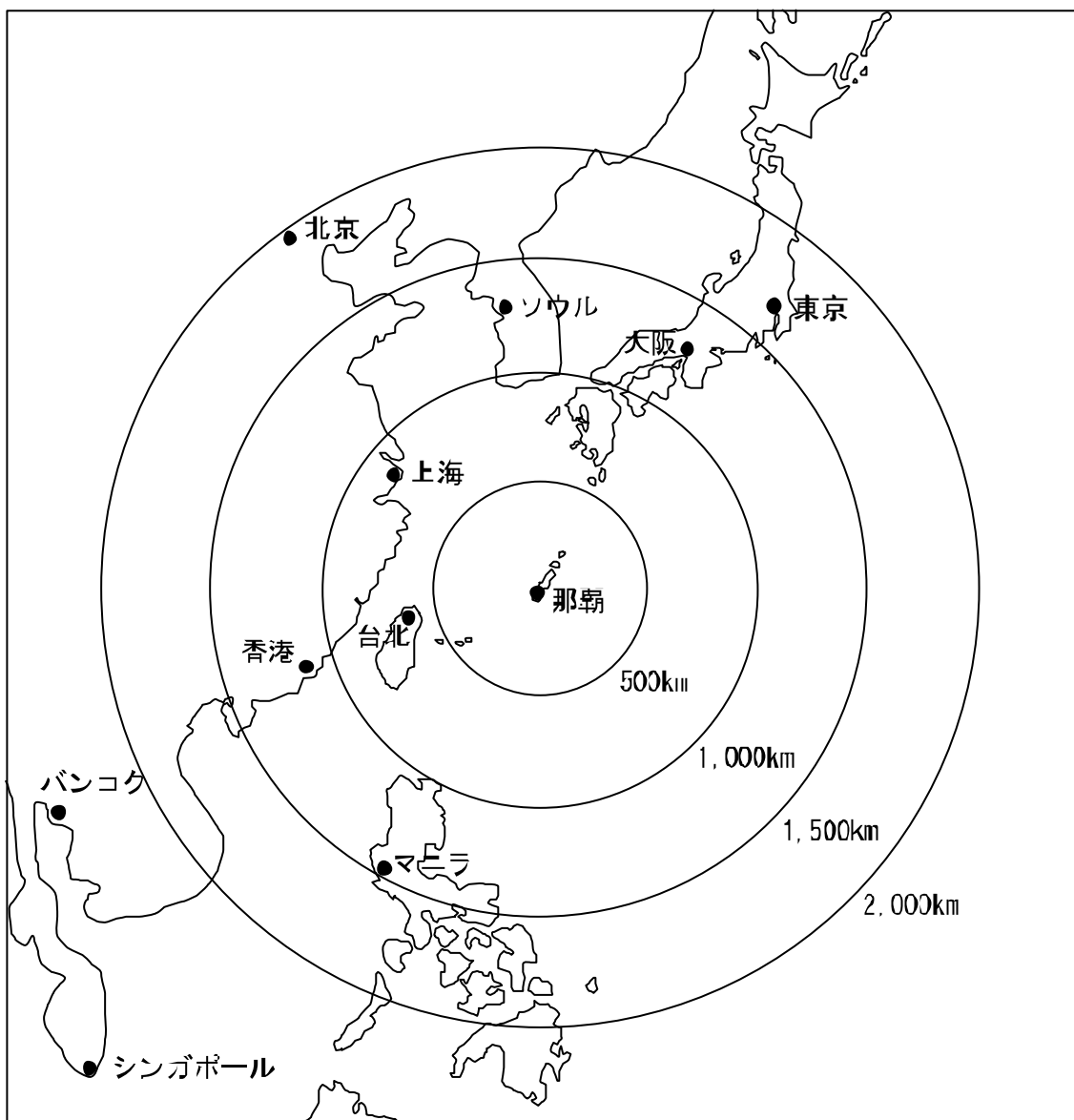
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平均気温 ()	16.6	16.6	18.6	21.3	23.8	26.6	28.5	28.2	27.2	24.9	21.7	18.4
降水量 (mm)	114.5	125.2	159.6	180.7	233.8	211.6	176.1	247.2	200.3	162.9	124.1	100.7

資料：沖縄気象台

(2) 地理的条件からみた那覇市の位置

那覇市は、沖縄県最大の島である沖縄本島の南部に位置する。また、那覇市は鹿児島と台北のほとんど中間にあり、那覇を中心とする1,500kmの円周域には、東京、ピョンヤン、香港、ソウル、北京、マニラなどの主要な都市があり、交通通信機能の上からも東南アジアの各都市を結ぶ要衝の地点であり、日本の南の玄関として地理的に好条件の位置にある。

図 2.1 地理的条件からみた那覇市の位置



2.1.2 観光からみた那覇市の位置

那覇市は空港・港湾の拠点性を擁することから、沖縄の玄関として、観光ショッピングの拠点として沖縄観光の中心的な役割を果たしている。また、最近では1万人エイサー踊り隊や那覇祭の大綱引などイベントも多く開催されるようになり、一大観光地として期待される。このため那覇市の活性化にとって観光の役割は大きいものと考えられ、観光客にとって魅力的な街づくりが求められている。平成12年の那覇市の入域観光客は425万人あまりとなり、平成元年と比較すると62.5%と激増している。このような伸びの増加要因としては、低料金のパック旅行の増加、修学旅行などの需要の掘り起こしや、新規航空路線の開設、那覇まつり、NAHAマラソンなどイベントの定着などが考えられる。また、首里城等が2000年11月にユネスコの世界遺産に登録されたことも挙げられる。

表 2.3 那覇市の年別入込み観光客数

区分	県外客	外国客	観光客総数
昭和49年	787,722	17,533	805,255
" 50年	1,523,918	34,141	1,558,059
" 51年	820,780	15,328	836,108
" 52年	1,186,507	14,649	1,201,156
" 53年	1,472,842	29,568	1,502,410
" 54年	1,770,238	37,703	1,807,941
" 55年	1,746,778	61,258	1,808,036
" 56年	1,849,745	80,278	1,930,023
" 57年	1,802,876	95,340	1,898,216
" 58年	1,784,379	67,615	1,851,994
" 59年	1,965,900	87,600	2,053,500
" 60年	1,999,700	82,200	2,081,900
" 61年	1,965,000	63,800	2,028,800
" 62年	2,178,800	71,900	2,250,700
" 63年	2,316,000	79,400	2,395,400
平成元年	2,546,000	114,500	2,660,500
" 2年	2,769,700	154,300	2,924,000
" 3年	2,788,900	192,500	2,981,400
" 4年	2,900,600	198,700	3,099,300
" 5年	2,934,900	173,900	3,108,800
" 6年	2,906,500	150,900	3,057,400
" 7年	3,002,300	138,200	3,140,500
" 8年	3,178,500	141,900	3,320,400
" 9年	3,469,500	191,500	3,661,000
" 10年	3,743,530	139,400	3,882,930
" 11年	4,177,200	223,000	4,400,200
" 12年	4,059,300	197,700	4,257,000

資料：平成12年度那覇市観光統計

表 2.4 沖縄県の観光客入域状況

年月	合計			県外			外国		
	計	空路	海路	計	空路	海路	計	空路	海路
平成3年	3,014,500	2,913,500	101,000	2,822,000	2,739,600	82,400	192,500	173,900	18,600
平成4年	3,151,900	3,048,700	103,200	2,953,200	2,871,200	82,000	198,700	177,500	21,200
平成5年	3,186,800	3,080,400	106,400	3,012,900	2,930,500	82,400	173,900	149,900	24,000
平成6年	3,178,900	3,090,700	88,200	3,028,000	2,958,100	69,900	150,900	132,600	18,300
平成7年	3,278,900	3,197,400	81,500	3,140,700	3,078,700	62,000	138,200	118,700	19,500
平成8年	3,459,500	3,383,600	75,900	3,317,600	3,259,800	57,800	141,900	123,800	18,100
平成9年	3,867,200	3,745,300	121,900	3,675,700	3,621,200	54,500	191,500	124,100	67,400
平成10年	4,126,500	4,033,300	93,200	3,985,800	3,931,000	54,800	140,700	102,300	38,400
平成11年	4,558,700	4,391,400	167,300	4,335,700	4,286,000	49,700	223,000	105,400	117,600
平成12年	4,521,200	4,388,000	133,200	4,323,500	4,277,400	46,100	197,700	110,800	87,100
平成13年	4,433,400	4,305,600	127,800	4,242,000	4,197,000	45,000	191,400	108,600	82,800

資料：沖縄県観光企画課調べ

表 2.5 観光客一人当たりの県内消費額

	県内消費単価	観光収入
平成 12 年度	91,757 円	4,148.5 億円
13 年度	85,298 円	3,781.6 億円
差異	6,459 円	366.9 億円
H13 年 / H12 年	93.0%	91.2%

資料：沖縄県観光企画課調べ

表 2.6 年次別観光客一人当たり県内消費額の過去の推移

年次	実数								対前年比 (%)		
	観光客数 (人)	観光客一人当たり県内消費額 (円)						観光収入 (百万円)	観光客 数	観光客 消費額	観光 収入
		総額	宿泊 交通費	土産 買物代	飲食費	入場 娯楽費	その他				
昭和50年	1,558,059	80,727	32,816	21,289	10,803	8,017	7,802	125,777	193.5	112.7	218.0
55年	1,808,036	99,600	47,500	21,400	13,800	10,200	6,700	180,080	100.0	100.8	100.8
60年	2,081,900	111,900	56,100	21,000	15,900	12,100	6,800	232,965	101.4	100.4	101.8
平成元年	2,671,100	109,600	52,500	21,100	16,300	12,800	7,000	292,753	111.5	100.0	111.5
2年	2,958,200	110,700	53,100	21,000	16,500	13,100	7,000	327,473	110.7	101.0	111.9
3年	3,014,500	111,400	53,100	20,900	16,800	13,500	7,100	335,815	101.9	100.6	102.5
4年	3,151,900	109,200	52,500	19,100	16,600	13,900	7,100	344,187	104.6	98.0	102.5
5年	3,186,800	107,800	51,600	18,600	15,700	14,500	7,400	343,537	101.1	98.7	99.8
6年	3,178,900	107,500	48,000	19,200	17,500	15,000	7,800	341,732	99.8	99.7	99.5
7年	3,278,900	108,100	48,600	19,100	17,700	15,400	7,300	354,449	103.1	100.6	103.7
8年	3,459,500	108,200	48,600	18,900	17,900	15,700	7,100	374,318	105.5	100.1	105.6
9年	3,867,200	107,900	48,500	18,800	17,800	15,500	7,300	417,271	111.8	99.7	111.5
10年	4,126,500	106,600	46,200	18,500	17,700	16,700	7,500	439,885	106.7	98.8	105.4
11年	4,558,700	102,600	45,900	17,900	17,400	16,500	4,900	467,723	110.5	96.2	106.3
12年	4,521,200	91,757	58,798	17,906	9,358	3,666	2,030	414,852	99.2	89.4	88.7

資料：沖縄県観光企画課調べ

表 2.7 那覇市における主なイベント（平成 14 年度）

名称	催行日（2002 年度）	場所
波の上ビーチ海びらき	4/7	波の上ビーチ
那覇ハーリー 5月3日～5日	5/3	那覇港新港埠頭
ピース・ラブ・マチグワ - & 壺屋まつり	8/19	平和通り・壺屋周辺
那覇シーサイドドリームフェスタ	7/27・7/28	那覇市若狭海浜公園
1万人のエイサー踊り隊 夏祭り in 那覇	7/28～8/4	国際通り
おきなわ・那覇の観光写真コンテスト	8/1～8/5	リウボウホール
青年ふるさとエイサーまつり	9/7・9/8	奥武山運動公園
首里城公園観月会「琉球王朝中秋の宴」	9/20～9/22	首里城公園下之御庭
那覇まつり・那覇大綱引き	10/12～10/14 (大綱引きは10/13)	国際通り・奥武山運動公園
首里城祭	11/2～11/4	首里城公園・那覇市・国際通り
サントピア沖縄・ふれあいフェスタ	11/24～12/22	那覇市・浦添市・沖縄市外
NAHA マラソン	12/1	沖縄本島南部地区一帯

表 2.8 那覇市における主な文化財

分類	名称	所在地	指定	備考
重要文化財 (建造物)	旧円覚寺放生橋	那覇市首里当蔵町2丁目1	国	
	天女橋	〃 首里当蔵町1丁目2	国	
	園比屋武御嶽石門	〃 首里真和志町1丁目7	国	世界遺産
	旧崇元寺第一門及び石牆	〃 泊1丁目9の1	国	
	玉陵墓室石牆	〃 首里金城町1丁目3	国	
史跡	首里城跡	那覇市首里当蔵町3丁目	国	世界遺産
	円覚寺跡	〃 首里当蔵町1丁目、同2丁目	国	
	玉陵	〃 首里金城町1丁目	国	世界遺産
	末吉宮跡	〃 首里末吉町1丁目	国	
名勝	識名園	那覇市字真地御殿原	国	世界遺産
	伊江殿内庭園	那覇市首里当蔵町2丁目	国	
有形文化財 (建造物)	末吉宮礎道	那覇市首里末吉町	県	
	龍淵橋	〃 首里当蔵町	県	
	ヒジ川橋及び取付道路	〃 字真地	県	
	旧首里城守礼門	〃 首里当蔵町	県	
	旧円覚寺総門	〃 〃	県	
	壺屋の荒焼のぼり窯附石牆	〃 壺屋1丁目	県	
名勝	首里金城町石畳道	那覇市首里金城町	県	
史跡	龍潭及びその周辺	那覇市首里真和志町1丁目	県	
	園比屋武御嶽	〃 〃	県	
	崎樋川貝塚	那覇市字天久	県	
	弁ヶ嶽	那覇市首里鳥堀町4丁目	県	
	仲島の大石	那覇市泉崎	県	
	首里金城町石畳道	那覇市首里金城	県	
	山下町第一洞穴	〃 山下町1丁目	県	
	国学・首里聖廟石垣	那覇市首里当蔵町1丁目	県	

2.1.3 観光的視点からみた那覇市の課題

(1) 玄関口の整備

現在、沖縄を訪れる観光客数は米国同時多発テロで一時的に減少したが、その後増加傾向にある。那覇市は、那覇空港と那覇港という沖縄県の玄関口をもち、沖縄への旅行者のほとんどが那覇を訪れることになる。したがって那覇市には、都市のアメリカナイズ、ヤマト化により希薄化した沖縄らしさが求められる。

(2) 県都としての中心性の強化

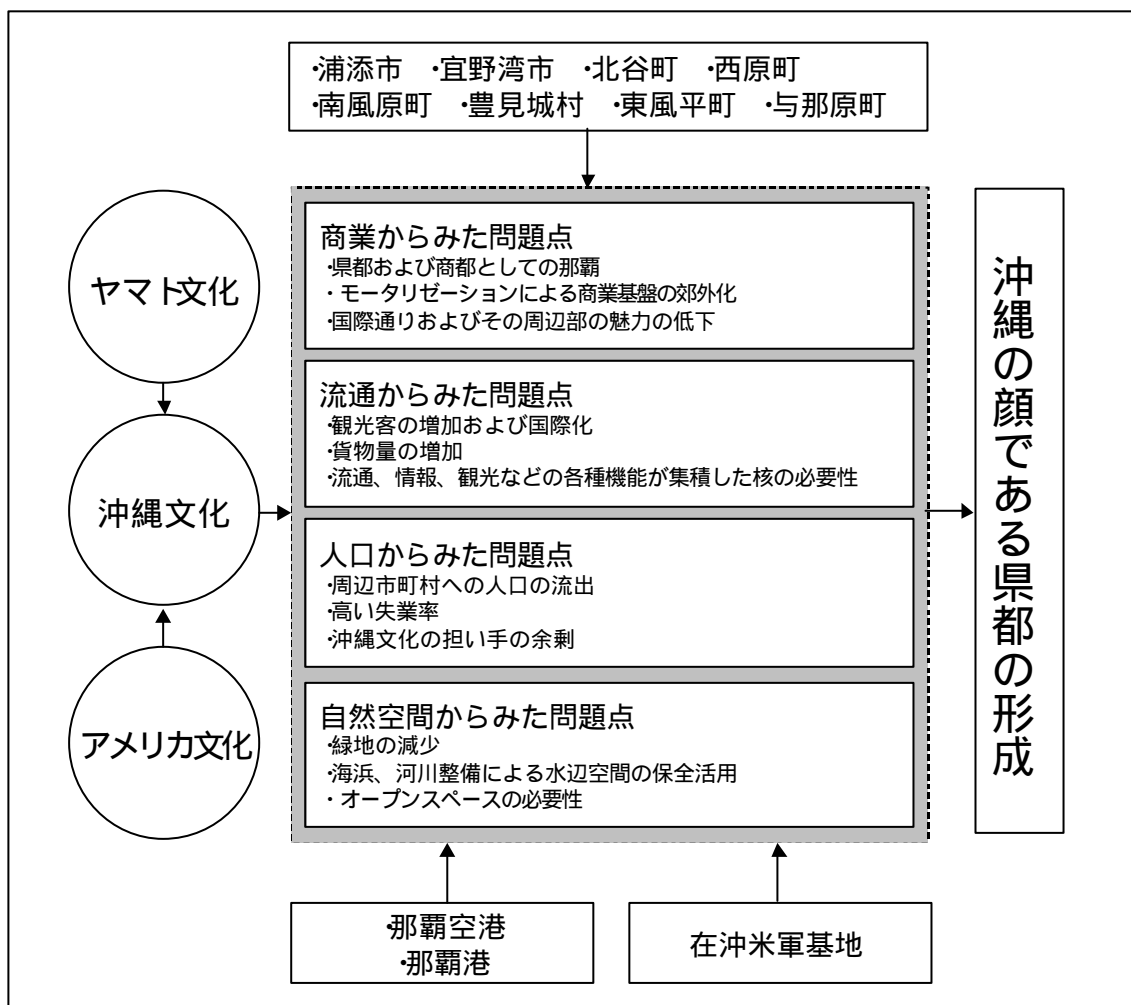
近年、全国の都市でみられるように、那覇市においても同様にモータリゼーションにより北谷町のハンビータウンのような商業施設が周辺市町村へ流出している。人口の増減でみても沖縄県では増加しているにもかかわらず那覇市では横ばいに推移している。

(3) 沖縄の顔としての県都の形成

人口の減少は商業の停滞につながり、またそれに伴って様々な集客施設も郊外へ流出することから、人々の交流の機会も減少する。那覇市は、観光と住民の生活の両面からみても重要な都市であり、沖縄の顔としての県都の形成が求められる。

那覇市における課題は、以下のとおりである。

図 2.2 那覇市の課題



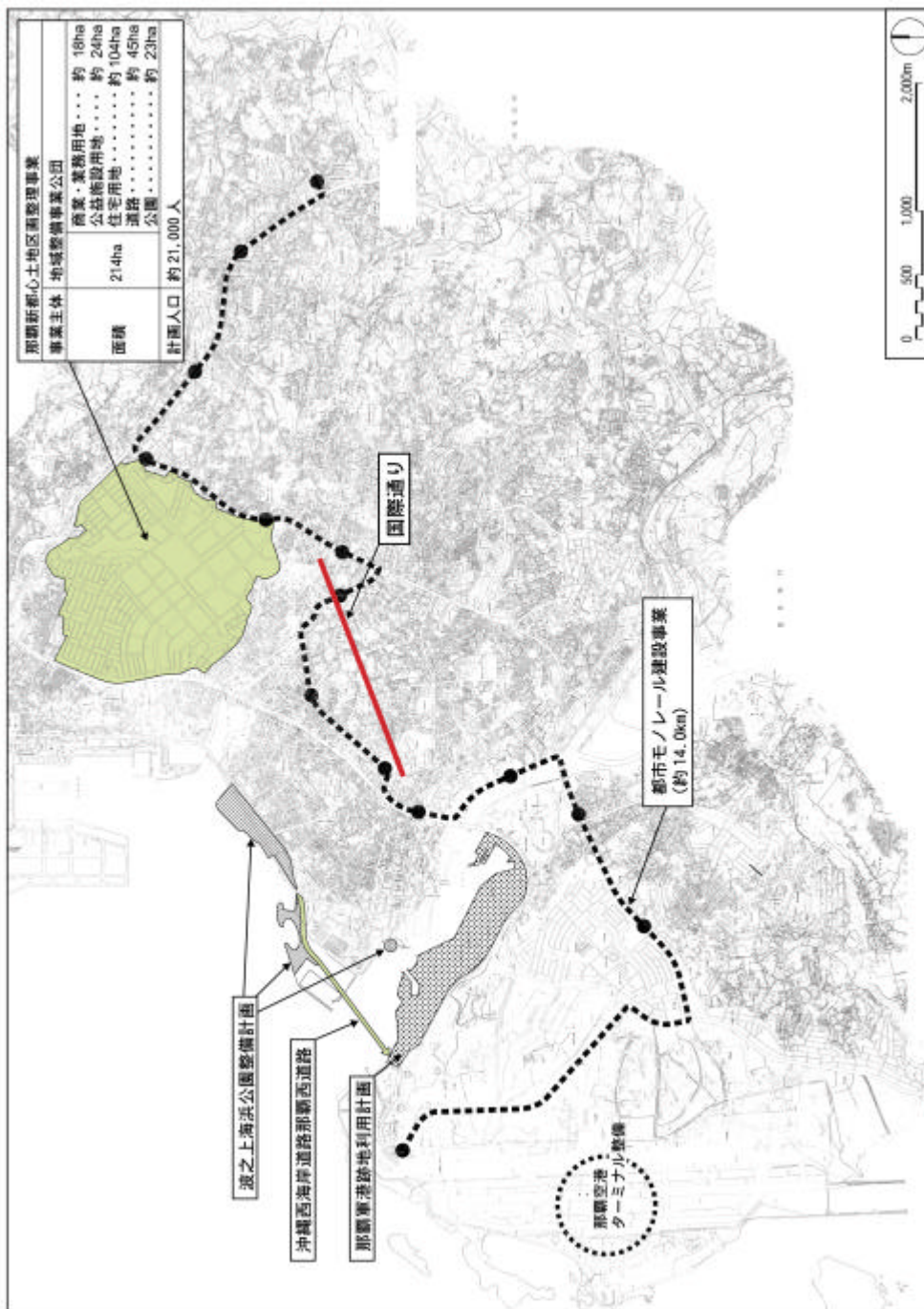
2.2 国際通りの位置と現況・課題

2.2.1 国際通りの位置

(1) 位置

国際通りは、那覇空港から東に約 4 km、那覇市のほぼ中央に位置する。那覇市の中心的な商業地域である。国際通りの周辺には、マチグラーと呼ばれ親しまれている市場や、壺屋焼で有名な壺屋などがあり、近代化した国際通りとは違う一面もある。しかし、昭和 62 年に全面返還された在沖米軍基地跡地に整備されつつある新都心へと、集客施設の流出が続いている。

図 2.3 国際通りの位置



国際通りの商店街と集客施設は以下のとおりである。

図 2.4 国際通りの商店街と集客施設

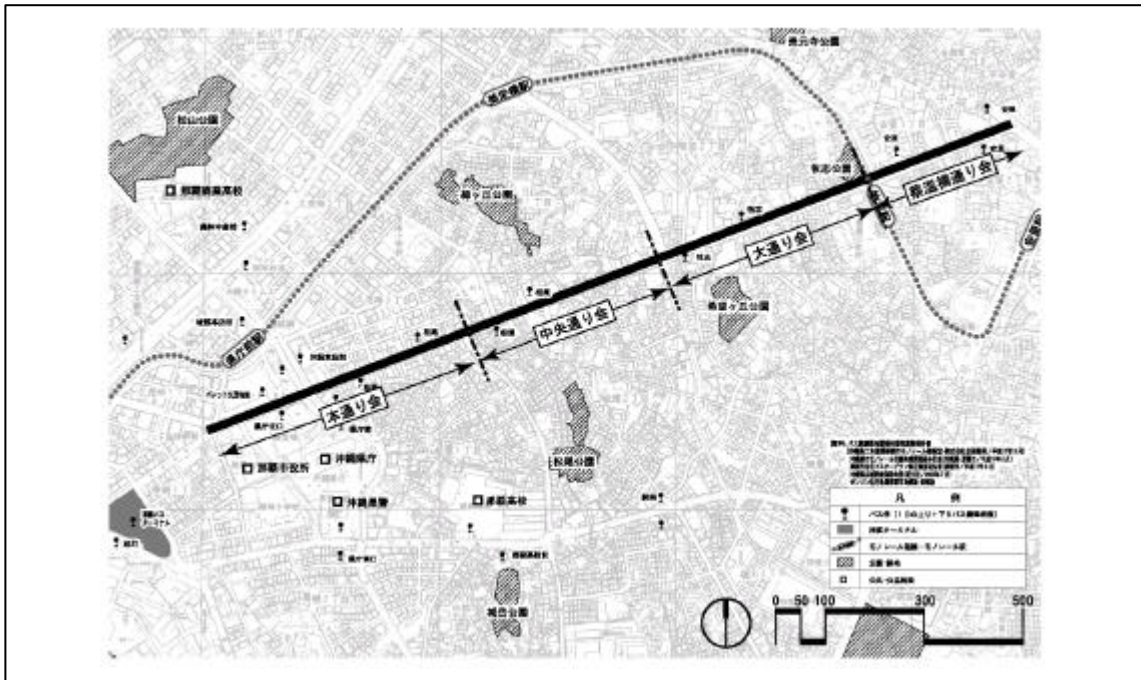


(2) 国際通りの通り会と店舗構成および空き店舗

4つの通り会

国際通りは4つの通り会からなり、西側（久茂地方面側）から順に、「本通り会（パレット久茂地～松尾消防署通り）」、「中央通り会（松尾消防署～沖映通り）」、「大通り会（沖映通り～蔡温橋）」、「蔡温橋通り会（蔡温橋～安里三叉路）」があり、それぞれ全長が約570m、約450m、約480m、約300mとなっており、これらは通称「奇跡の1マイル」といわれている。

図 2.5 国際通りの4つの通り会

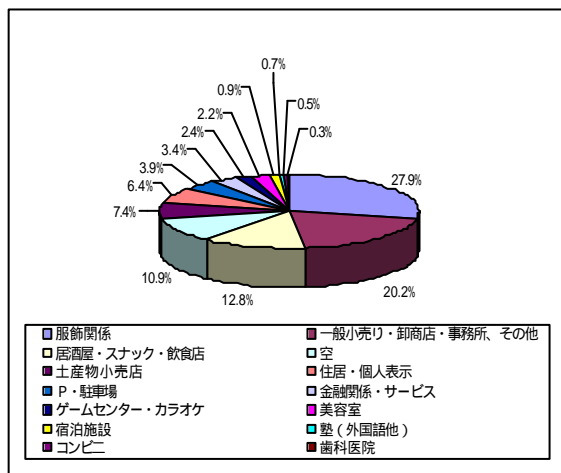


国際通りの店舗構成および空き店舗

国際通り全体の店舗業種構成をみると、約3割が「服飾関連小売業」で最も多い。次いで「一般小売・卸商店、事務所等」「居酒屋・スナック・飲食店」「土産物小売店」となっており、それぞれ2割、1割弱、1割未満となっている。

また、国際通りにおける空き店舗の割合は全店舗の10.9%となっている。これを通り会別で見ると、「本通り会」が3.4%と最も低く、「中央通り会」が11.9%、「大通り会」13.7%となっている。さらに、「蔡温橋通り会」では26.7%と最も高い割合となっており、国際通りを安里方面に進むほど、空き店舗が目立つようになってくる。

図 2.6 国際通りの店舗構成



2.2.2 国際通りの課題

(1) 都市機能の流出による空洞化

国際通りは、戦後那覇市の復興の象徴的な通りであり、沖縄を代表するシンボルである。観光客の多くも国際通りを訪れ、マチグラー等の南国の雰囲気を楽しんでいる。

しかし、近年の新都心の開発により、国際通りから集客施設の移転が相次いでいる。一大商業地であったこの通りも約1割が空き店舗となっている。

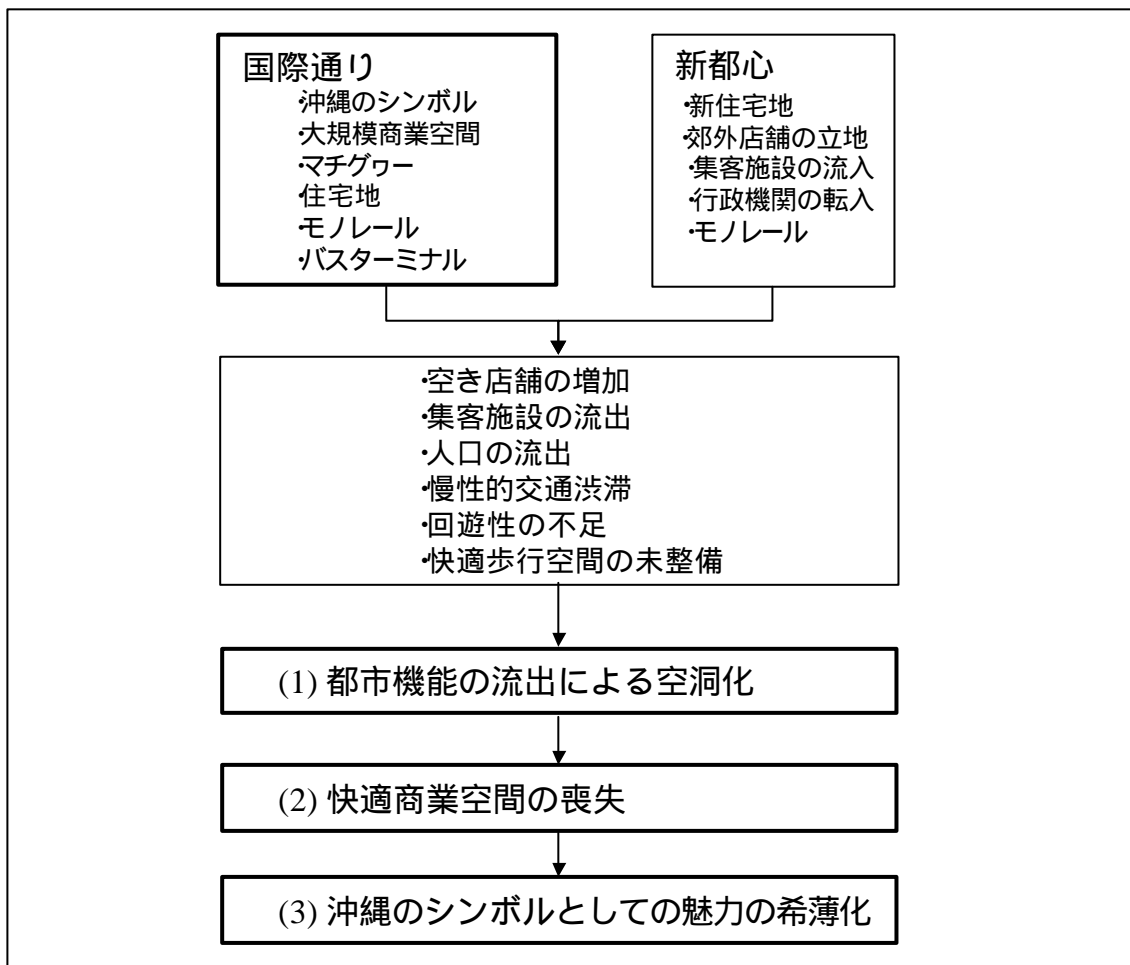
(2) 快適商業空間の喪失

国際通りには、マチグラー等の沖縄特有の商業空間が一部残っているものの、その多くは経済優先のゆとりの少ない空間となってしまっている。また、慢性的な交通渋滞により、排気ガス、騒音による快適な歩行空間が形成されていない。さらに、回遊性の不足により国際通りのメインストリートから離れた通りは、誘客することができない。

(3) 沖縄のシンボルとしての魅力の希薄化

「奇跡の1マイル」と呼ばれ発展してきた国際通りも、周辺地域への流出により、住民からも観光客からも魅力を喪失しつつある。それは、沖縄らしいゆとりと賑わいが交錯するような魅力が減少しつつあるためといえる。

図 2.7 国際通りの課題



3. 沖縄文化の視点からの街づくりの方向

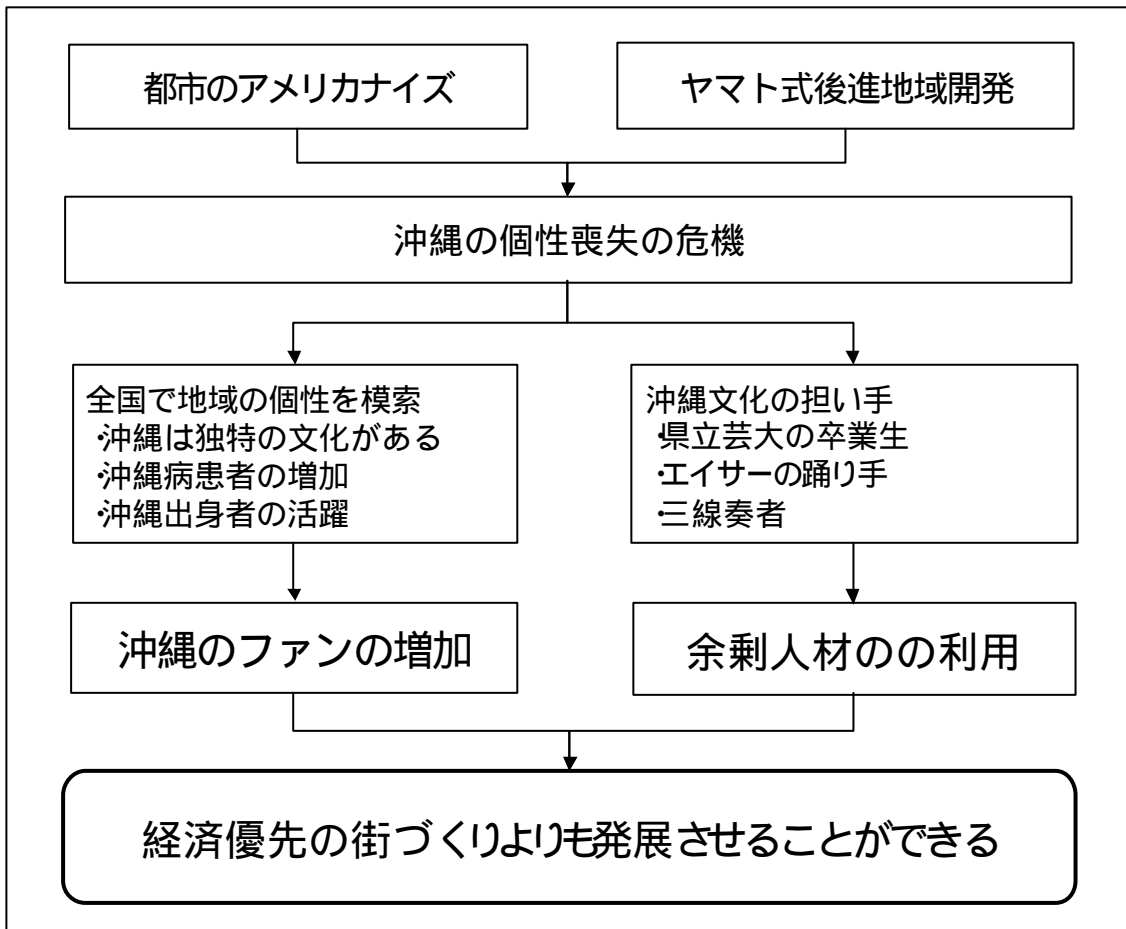
3.1 沖縄人気を生かし、沖縄の人材を活用する

沖縄にはチャンプルー文化という独特の文化がある。さらに、沖縄への観光客の増加にみられるように沖縄人気は上昇している。最近では県外における「沖縄病」と呼ばれる沖縄のファンになってしまった人たちも増えている。これを生かす街づくりを行う。

沖縄県の平成13年度の完全失業率は8.4%と全国平均の4.9%を大きく上回っている。しかし、この余剰人材の中には沖縄文化の担い手も多く、これらの人材を利用し、沖縄文化をより発展させる。

沖縄文化の発展は、さらなる沖縄ファンを生み、観光客の増加、商業の発展、さらに地域への愛着へとつながる。

図 3.1 沖縄文化による街づくりの動き

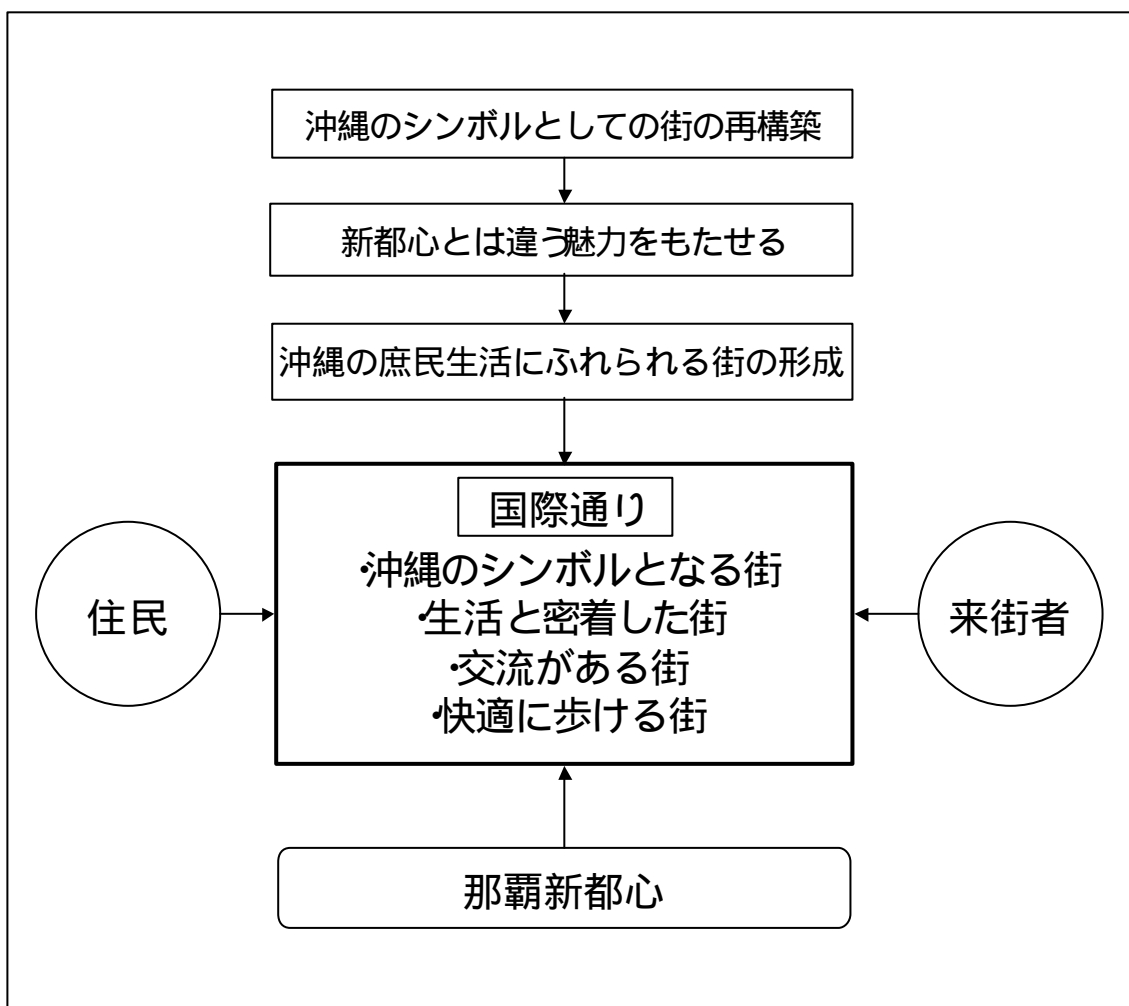


3.2 沖縄らしい生活拠点をつくる

国際通りの生活拠点の活性化を推進するためには、新都心とは違う魅力をもたせることが必要である。そこで、那覇市の復興の歴史を物語る存在として、国際通りを『沖縄のシンボルとなる街』として再構築し、沖縄の庶民の『生活に密着した街』を形成する。

さらに、住民と観光客等の来街者とが「集い」「楽しむ」ことができる『交流がある街』を目指し、誰にも安心して歩ける『快適に歩ける街』を形成してゆく。

図 3.2 沖縄らしい生活拠点の活性化方向



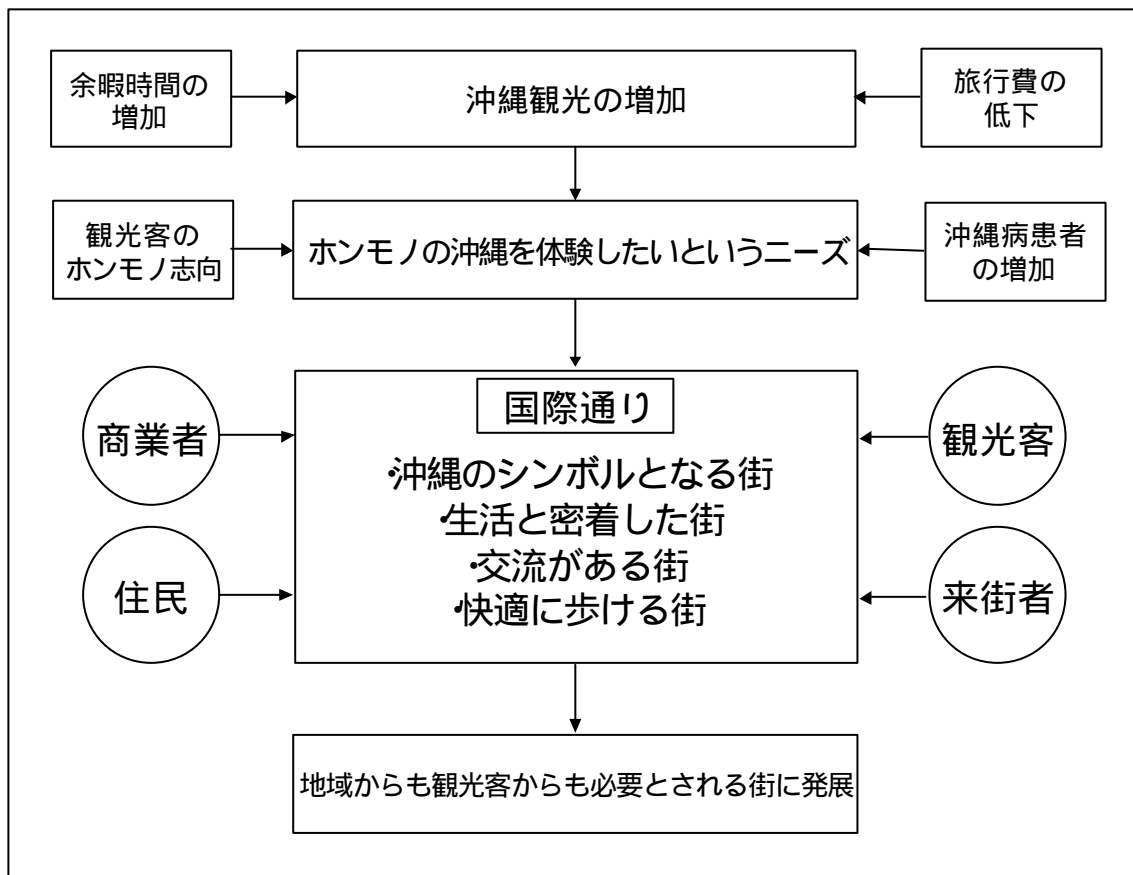
3.3 沖縄文化を重視した観光拠点化を図る

沖縄観光は、余暇時間の増加や航空料金の低下などを追い風に、今後さらに増加傾向にある。さらに、リゾート中心であった沖縄観光は、観光客のホンモノ志向と全国的に増えつつける沖縄病患者のニーズにより、ホンモノの沖縄を体験するということに変化してきている。

ホンモノの沖縄を体験するために求められるのは観光客の為の街ではなく、住民の生活に密着した街である。そうした街を形成すると、「住民」「観光客」「商業者」「来街者」が集う街に発展し、地域と観光客のニーズに応えられる街を形成してゆく。

沖縄文化による街づくりにより、沖縄の生活に密着した街を形成することができ、それにより、ホンモノを求める観光客による観光拠点へと発展する。この発展は、住民と観光客などの来街者との交流をもたらし、人が「集う」「楽しむ」街になり、商業の活性化をもたらし、雇用の増大、そしてさらなる沖縄文化の発展へとつなげる。

図 3.3 観光拠点としての発展



4 . 那覇市国際通りニライカナイプラン

4.1 世界のニライカナイへ

ニライカナイとは沖縄地方で信じられている楽土、桃源郷であり、海上や海底にあるとも、地の底やはたまた天空にあるとも言い伝えられ、人びとは理想の邦への憧れや豊穡の感謝をもって接してきた。

本計画は、沖縄の象徴的存在ではあるが、現在は周辺地域におされ競争力を失いつつある国際通りを、現代の「ニライカナイ」とするため、『沖縄の顔となり、様々な交流が発生する街の形成』を目的に、「ニライカナイプラン」を策定する。

ニライカナイとは

- ・ 奄美（あまみ）・沖縄地方で信じられている、海の彼方あるいは海の底・地の底にあり、年ごとに神が訪れ、豊穡を約束してくれるとされる楽土。〔『新辞林』三省堂〕
- ・ 対語として用いられた類語 Nirai と Kanai の複合。海のかなたの常世〔楽土〕あの世。〔『琉球語辞典』大学書林〕
- ・ 日本の古代文学に現れる常世の国や根の国とは深い関わりがあるし、『古事記』の山幸彦が行った綿津見の神の宮や浦島太郎が行った竜宮もニライカナイの一つの形と考えられる。〔池澤夏樹『沖縄いろいろ辞典ナイチャーズ編』新潮社〕

4.2 ニライカナイプランへむけての方針

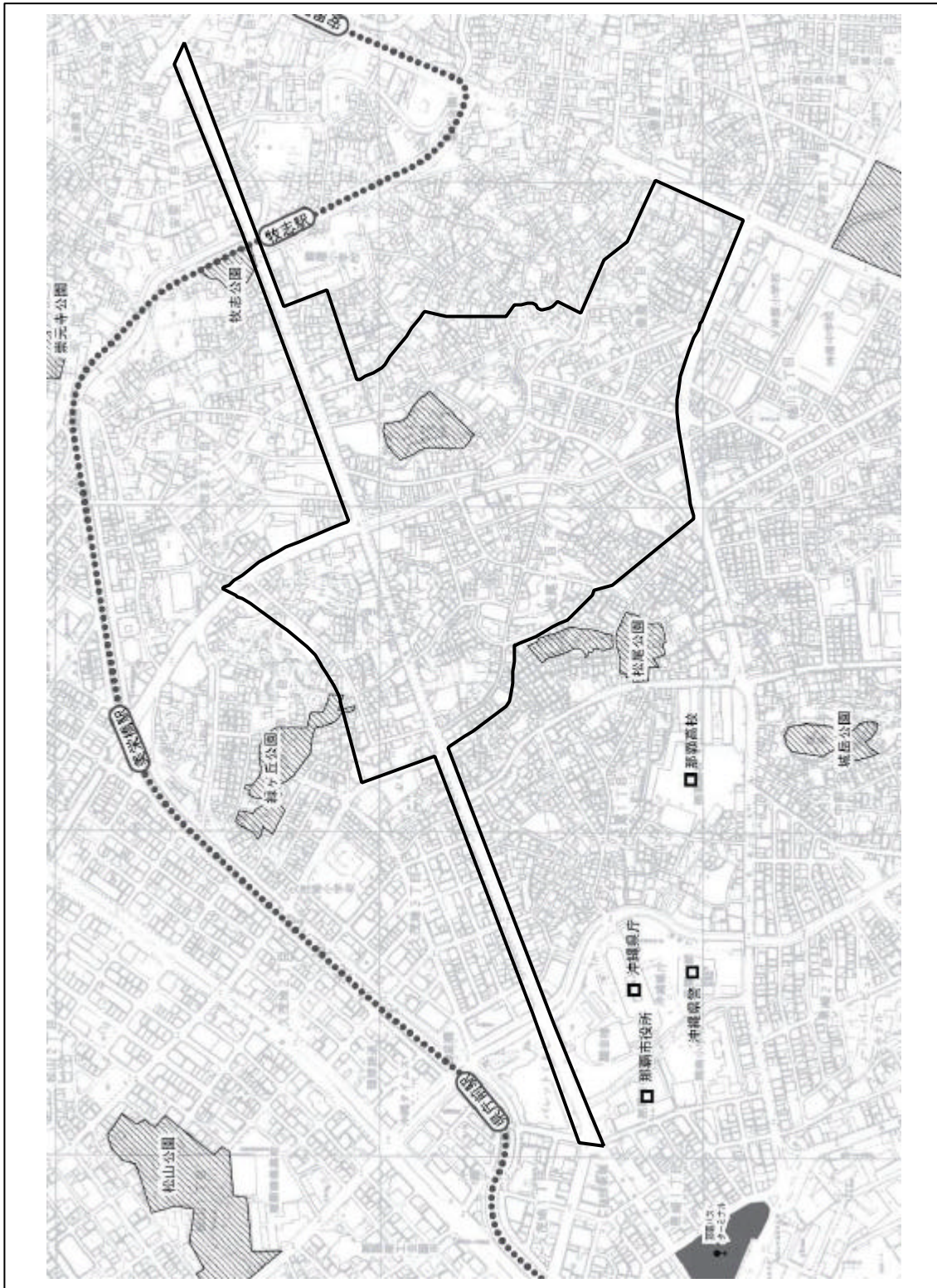
現代の「ニライカナイプラン」は、那覇市国際通りの独自性を伸ばし、日本の人びとのみならず、アジアを始めとする世界の人びとが、憧れる街となるようにする。

- ・ 生活に密着した街づくり
地域の生活に密着し、観光客にも沖縄の生活を感じさせることができる街づくりを行う。
- ・ 沖縄のシンボルとなる街づくり
国際通りは「奇跡の1マイル」と呼ばれ、沖縄の戦後復興の象徴であった。現在、失いつつある沖縄独自の文化の発信地、また、停滞している沖縄経済の復興のシンボルとなるような街づくりを行う。
- ・ さまざまな交流のある街づくり
那覇は商都として古くから中国や東南アジアなどと交易を続けてきた街であり、現在もアジアや環太平洋地域に近いという地理を生かし、さまざまな交流がある。この交流が市民のレベルにまで広がるような街づくりを行う。

4.3 那覇市国際通りニライカナイプランの計画範囲とプランの体系

那覇市国際通りニライカナイプランの計画区域は次の範囲、約60haである。

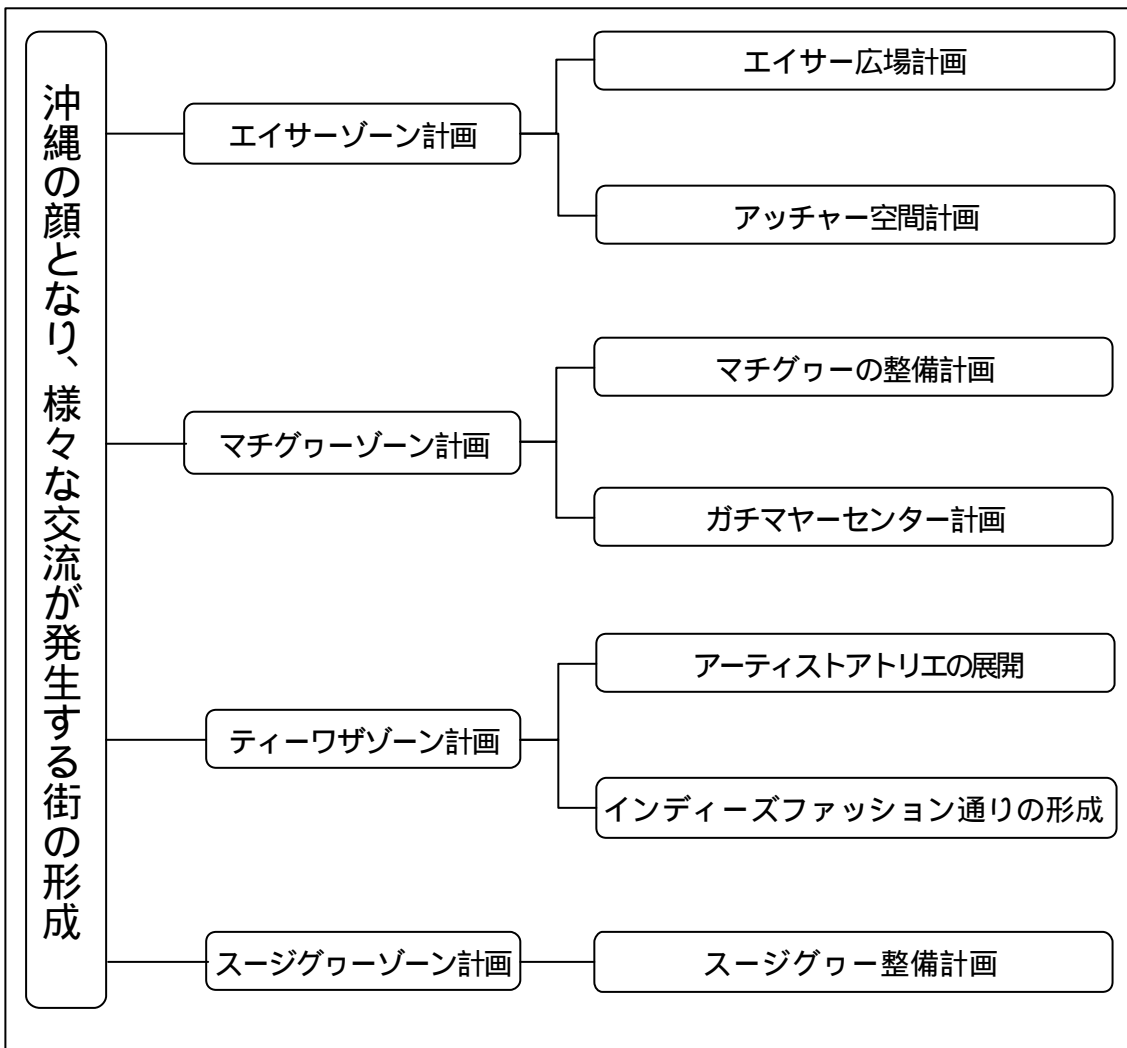
図4.1 那覇市国際通りニライカナイプラン計画範囲



ニライカナイプランは『沖縄の顔となり、様々な交流が発生する街の形成』を計画の視点に、『エイサー（踊り）ゾーン』『マチグワー（市場）ゾーン』『ティーワザ（工芸）ゾーン』『スージグワー（路地）ゾーン』の4つの柱からなり、『エイサー広場計画』『アッチャー（歩行者）空間計画』『マチグワー整備計画』『ガチマヤーセンター計画』『アーティストアトリエの展開』『インディーズファッション通りの形成』『スージグワー整備計画』という7つの計画をすすめる。

那覇市国際通りニライカナイプランの体系図は図4.2のとおり。

図4.2 那覇市国際通りニライカナイプランの体系図



4.4 那覇市国際通りニライカナイプラン全体計画

那覇市国際通りニライカナイプランの全体計画は、表 4.1 のとおりであり、全体の配置は、図 4.3 のとおりである。また、観光面からみた各ゾーンの位置づけは図 4.4 のとおりである。

表 4.1 国際通りニライカナイプラン全体計画図

計画	内容	整備事項
快適商業空間整備	アミューズメント性、文化性、情報発信性等の多面的な機能の創出し、「生活に密着」し、さらに「沖縄のシンボル」となる快適商業空間の整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・商業基盤施設を誘致する。 ・文化施設を設置する。 ・コミュニティ施設を設置する。
歩行空間整備	来街者や身体障害者など、誰にでも歩きやすい歩行空間の整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・観光情報を含む誘導サインを設置する。 ・ポケットパークの設置。 ・電柱を地中化する。 ・電灯を設置する。 ・ベンチを設置する。 ・カラー舗装を整備する。
交流空間整備	公共施設整備計画との連携を図り、利便性とコミュニティ性を考慮した「交流」を柱とした整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・空き地、空き店舗をりようした、交流空間の整備。

図 4.3 那覇市国際通り整備計画の全体図

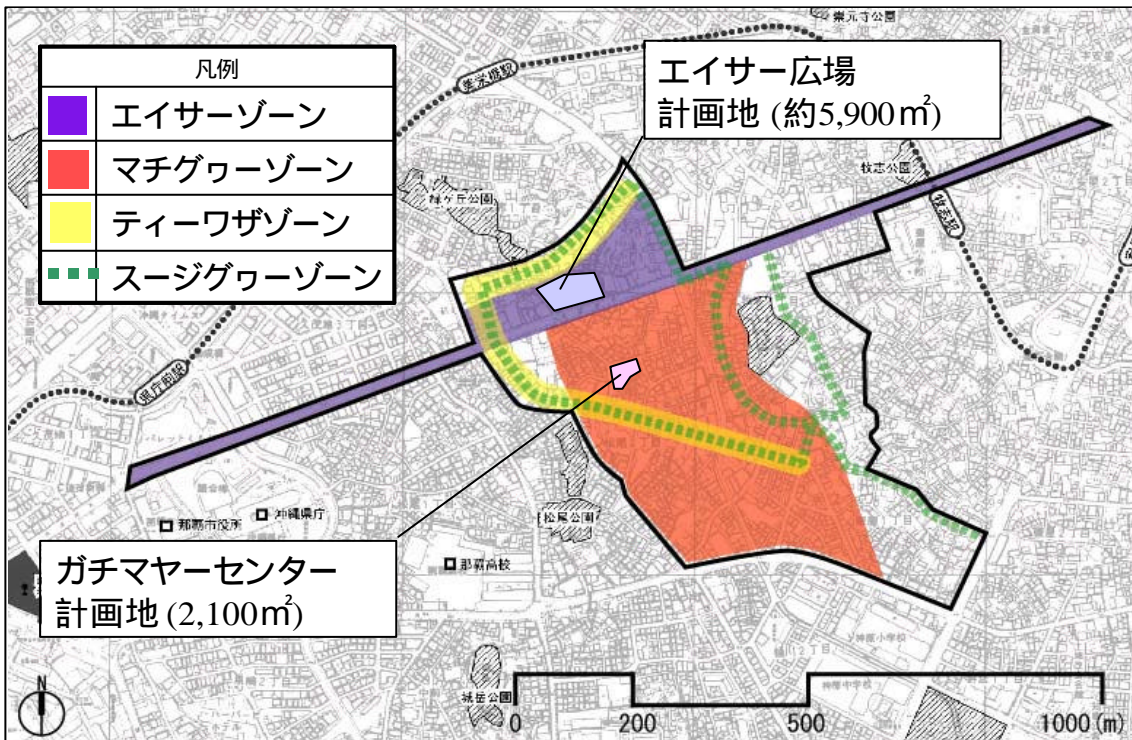


図 4.4 観光からみた各ゾーンの位置づけ

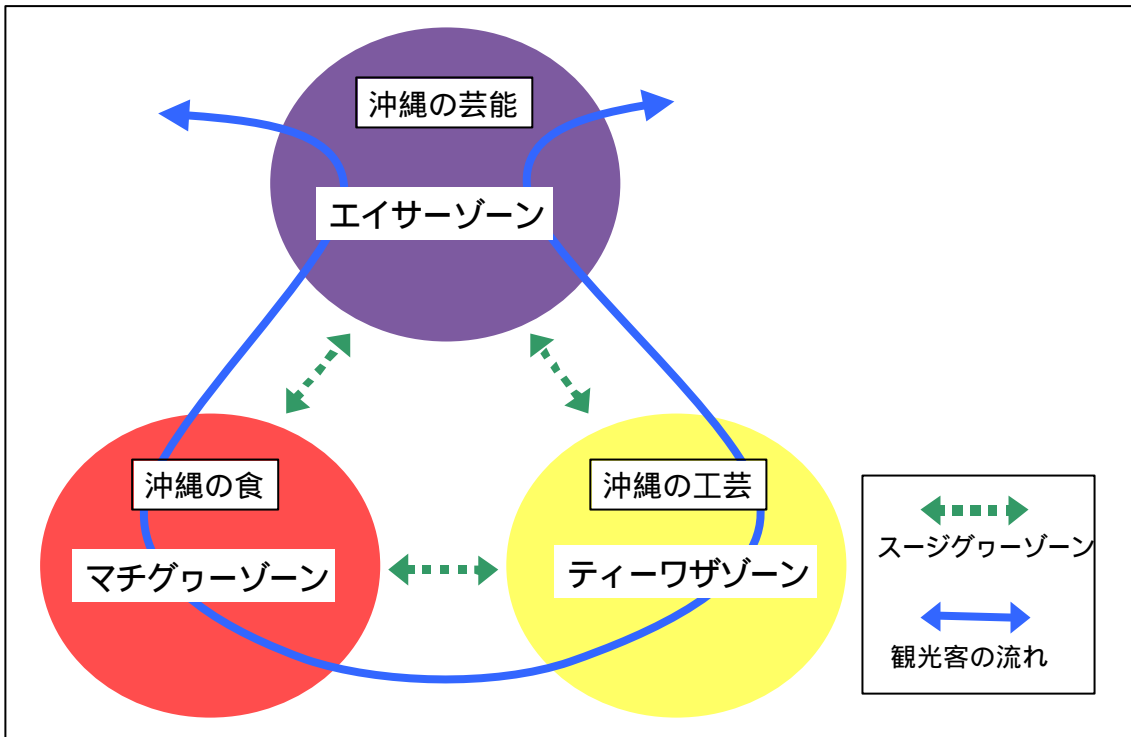
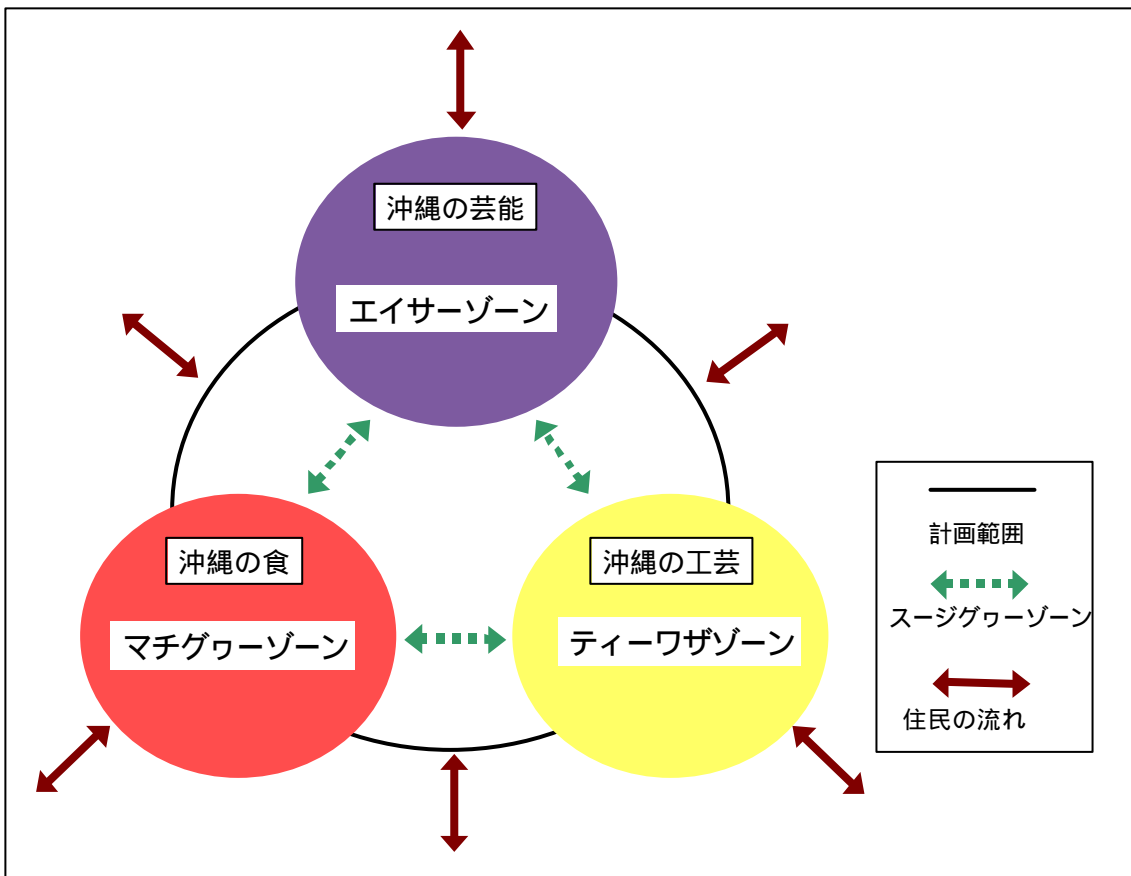


図 4.5 住民からみた各ゾーンの位置づけ



5. ゾーン別計画

5.1 エイサー（踊り）ゾーン計画

(1) エイサーゾーン計画のねらい

- ・ エイサーに代表される沖縄の芸能を体験できる空間整備をする。
- ・ 沖縄の芸能の発信地となる地域の顔の役割を果たす通りを形成する。
- ・ エイサー、カチャーシーが踊れる空間の整備し、エンターテインメント性を強化する。
- ・ 快適な歩行空間を整備し、国際通りの商業空間の魅力と集客力を向上させる。
- ・ 来街者（観光客）と地元との交流を図り、賑やかな通りを形成する。

(2) エイサーゾーン計画位置

エイサーゾーンの計画位置は図 5.1 のとおりである。

図 5.1 エイサーゾーンの計画位置図

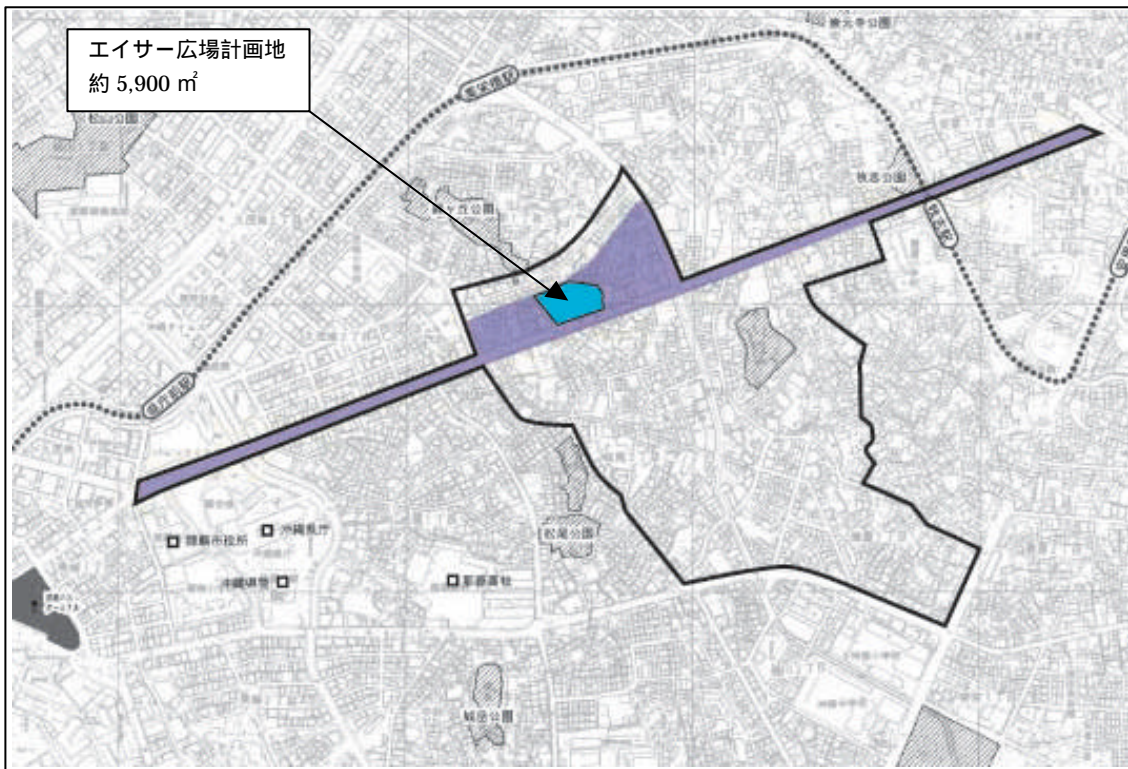
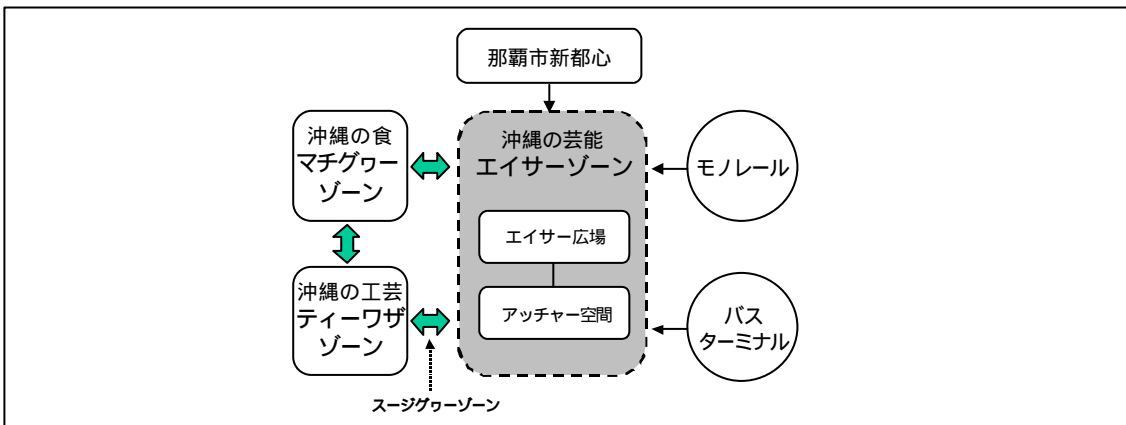


図 5.2 エイサーゾーンの位置づけ



(3) エイサーゾーン計画内容

エイサー広場計画 那覇市牧志1丁目 旧沖縄山形屋跡地

エイサー広場計画では、表5.1の4つの施設を設置する。ここでは、沖縄の芸能の発信地としての機能をもたせ、このゾーンの核として整備する。

表 5.1 エイサー広場の整備方向

計画	内容	整備事項
エイサー広場	イベント・祭り等で、エイサー、カチャーシーが踊れる広場を整備し、平時は露店を出店させ、店舗を持たないアーティストと消費者のコミュニケーションが図れる空間とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・石畳とする。 ・街路樹はデイゴとする。
アシビナーセンター	沖縄の芸能を発展させる核として、また発信する核として利用度の高い施設を設ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・多目的ホール（100席） ・スタジオ、練習ホール（2室） ・コミュニティFM施設 ・各種店舗の設置
アマハジ広場	市民や観光客が屋外での食事・休憩等ができるよう沖縄の住居に見られる広い庇を持つ東屋で日陰をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・テーブル、ベンチを設置する。 ・水道の設置する。
ブーゲンビリア広場	パーゴラによる日陰を設置する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ブーゲンビリアのパーゴラを設置する。

図 5.3 エイサー広場計画の現況図

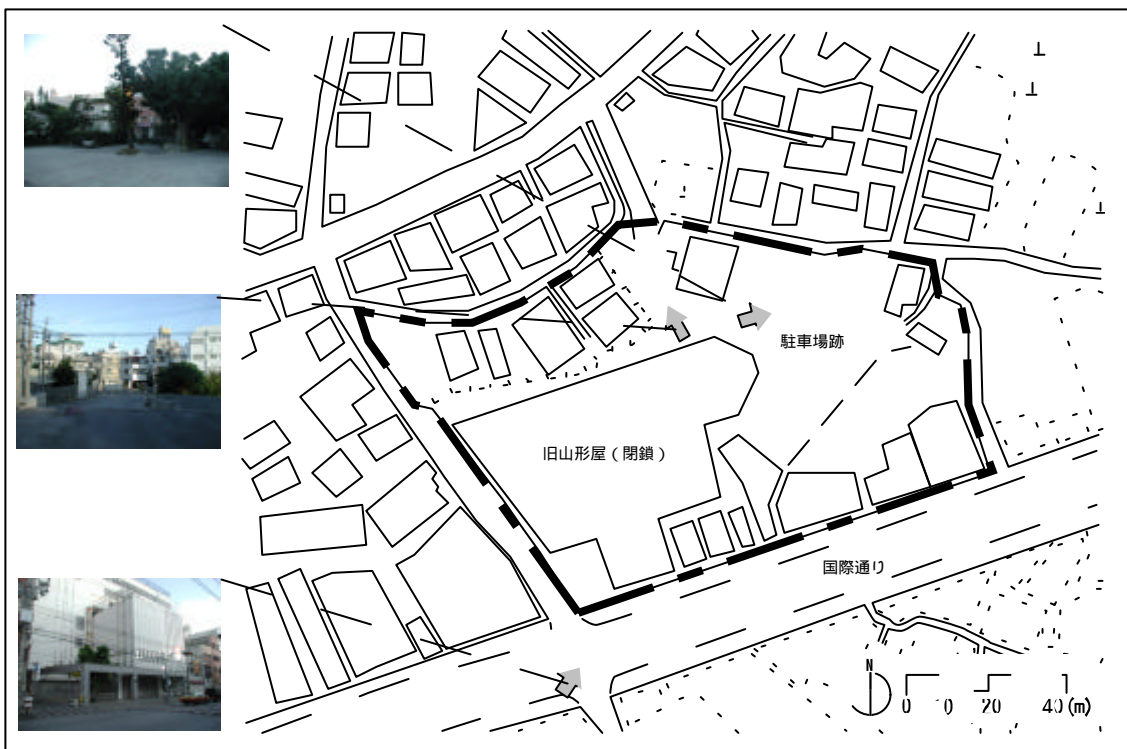


図 5.4 エイサー広場計画のゾーニング図



アッチャー（歩行者）空間整備計画 那覇市国際通り

アッチャー空間整備計画は、表5.2の2つの整備を行う。沖縄の目抜き通りとして、地域の核となる快適歩行空間へと整備する。

表 5.2 アッチャー空間整備計画内容

計画	内容	整備事項
歩道	地域の顔となる通りとしてトランジットモール化による快適な歩行空間を拡大する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインを基本とする。 ・石畳とする。 ・街路樹はデイゴとする。 ・電柱を地中化する。
LRV (低床式 路面電車)	LRVを導入し、那覇バスターミナルと新都心を結ぶ。停車場は国際通りの主要施設の前に設ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・許可車両（搬入車）以外、終日乗り入れ禁止（歩行者天国）とする。

アッチャー空間のイメージ



写真 1 通りで踊るエイサー

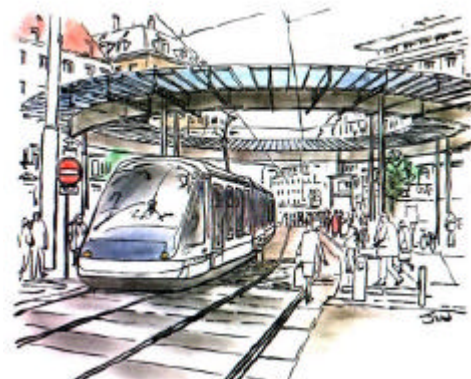
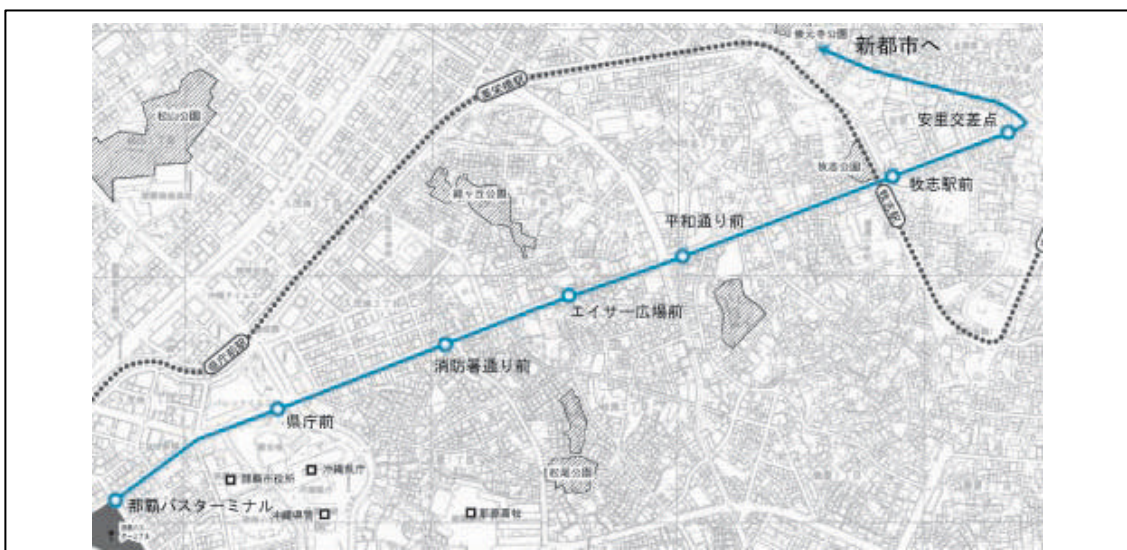


図 5.5 トランジットモールのイメージ

図 5.6 LRV の停車場の配置



5.2 マチグラーゾーン計画

(1) マチグラーゾーン計画のねらい

- ・沖縄の工芸（焼物、琉球ガラス、漆器、紅型、織物、銀細工）と Tシャツアート等のファッションをテーマとした若者を対象とした通りを形成する。
- ・現在の空き店舗の解消のため、若いインディーズファッションの店舗や、アーティストのアトリエ兼店舗として定着させる。

(2) マチグラーゾーンの位置

マチグラーゾーンの位置は以下のとおり。

図 5.7 マチグラーゾーンの位置図

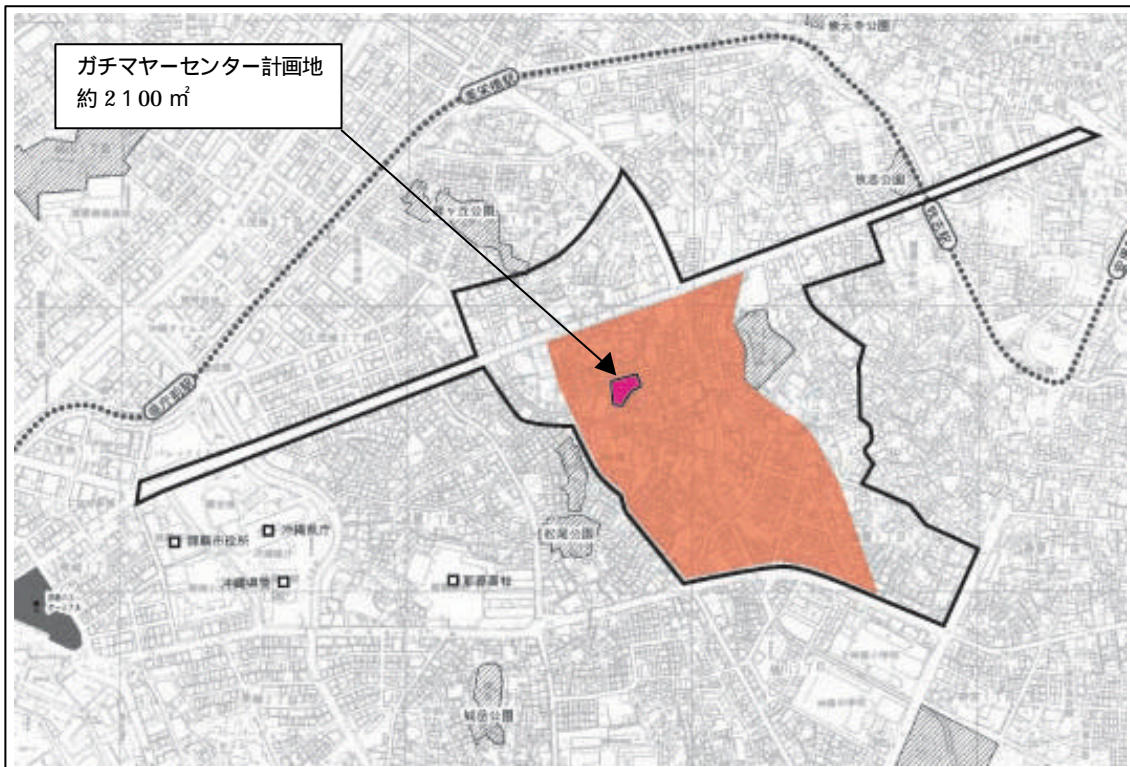
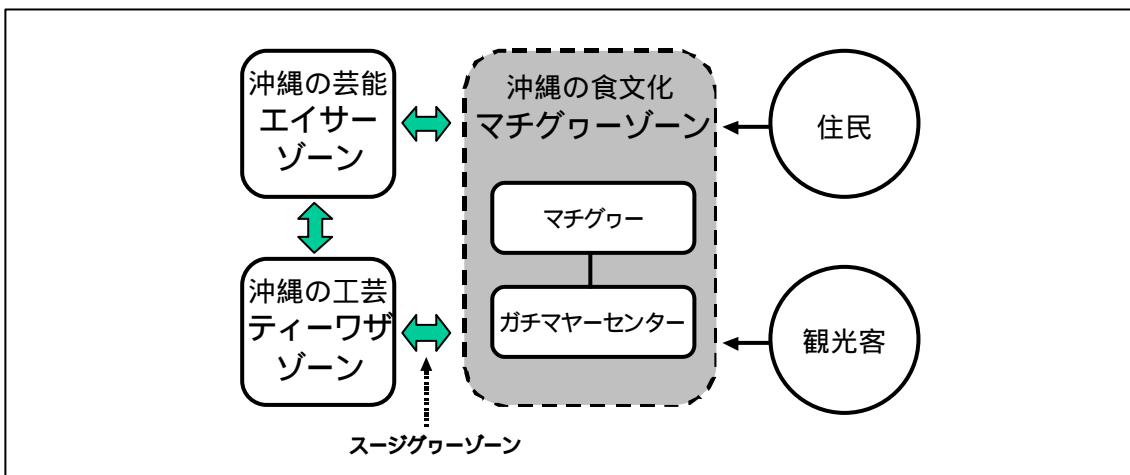


図 5.8 マチグラーゾーンの位置づけ



(3) マチグワーゾーン計画内容

マチグワー整備計画

マチグワー整備計画では、表5の整備を行う。国際通りの魅力の一つであるマチグワーであるが、内部は迷路のように入組んでいる。初めて訪れる人も安心、快適に買い物ができるように整備する。

表 5.3 マチグワー整備計画

計画	内容	整備事項
誘導サイン	迷いやすいマチグワーを歩きやすいように、誘導サインを設置する。	<ul style="list-style-type: none"> ・観光情報を書いた誘導サインの設置する。 ・ユニバーサルデザインを基本とする。
空き店舗の利用	空き店舗を利用したマチグワーのオジイ、オバアと観光客が交流できるスペースや、ギャラリーを設置する。買い物に疲れても休憩でき、ウチナータイムを体験できるスペースを整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗利用による休憩スペースを設置する。 ・ギャラリーを設置する。



写真 2 賑わう牧志公設市場



写真 3 様々な食材がならぶ

ガチマヤー（食いしん坊）センター計画 那覇市牧志2丁目 旧第2牧志公設市場跡地

ガチマヤーセンター計画では、沖縄の食を体験するための施設を計画する。センター施設に調理実習室を設けることにより、食べるだけではなく、食材からつくるところまで体験できる施設となっている。

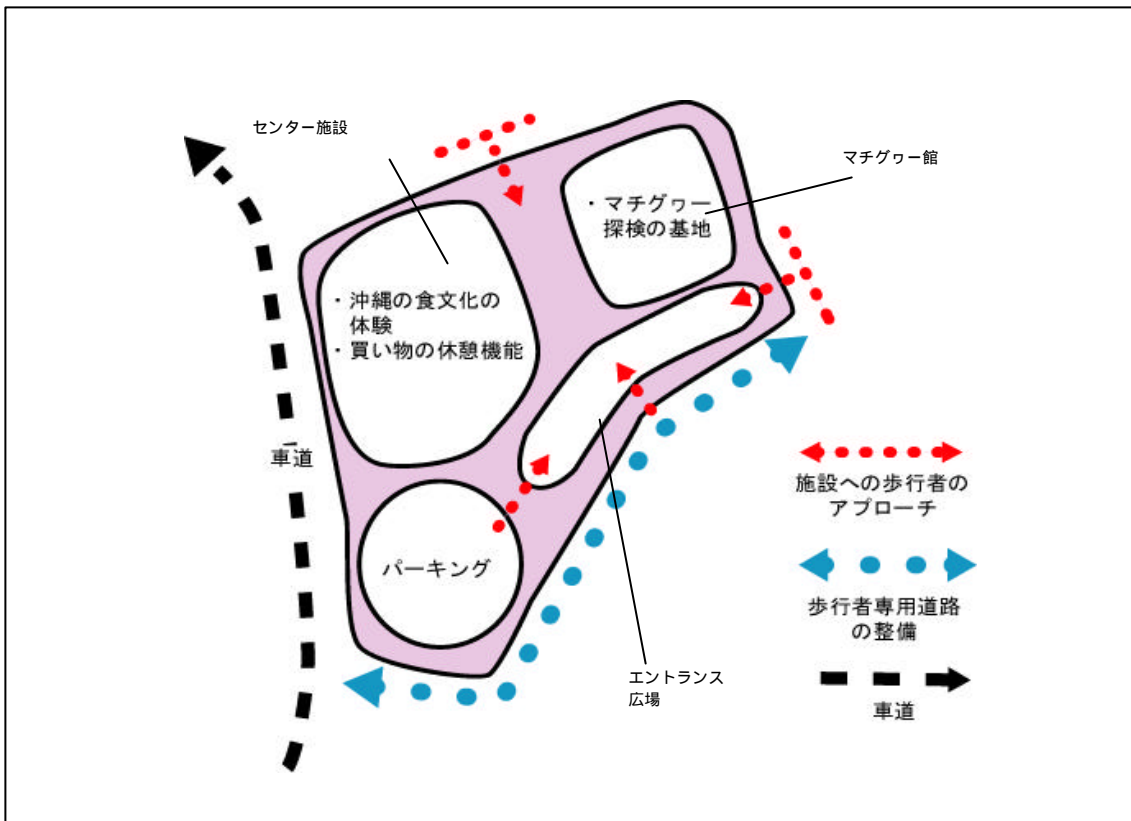
表 5.4 ガチマヤーセンター計画内容

計画	内容	整備事項
センター施設	「沖縄の食文化の体験」を柱に観光客、修学旅行生などが沖縄の食材および料理について体験学習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習台10程度の調理室実習室を設置する。 ・50席程度の食堂を設置する。 ・沖縄の料理屋食材を紹介するコーナーを設置する。
	「買い物の休憩機能」を柱に休憩ができるカフェや荷物を預けて買い物ができるコインロッカーを設置する。	<ul style="list-style-type: none"> ・マチグワー歴史コーナーを設置する。 ・マチグワー案内コーナーを設置する。
マチグワー館	「沖縄のマチグワー探検の基地」を柱に迷路のように入組んだマチグワーの見所を紹介、マチグワーの歴史の学習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェを設置する。 ・コインロッカーを設置する。

図 5.9 ガチマヤーセンター計画地現況図



図 5.10 ガチマヤーセンター計画ゾーニング図



5.3 ティーワザゾーン計画

(1) ティーワザゾーン（工芸）ゾーン計画

- ・沖縄の工芸（焼物、琉球ガラス、漆器、紅型、織物、銀細工）とTシャツアート等のファッションをテーマとした若者を対象とした通りを形成する。
- ・現在の空き店舗の解消のため、若いインディーズファッションの店舗や、アーティストのアトリエ兼店舗として定着させる。

(2) ティーワザゾーンの位置

ティーワザゾーンの位置は以下のとおり。

図 5.11 ティーワザゾーンの位置図

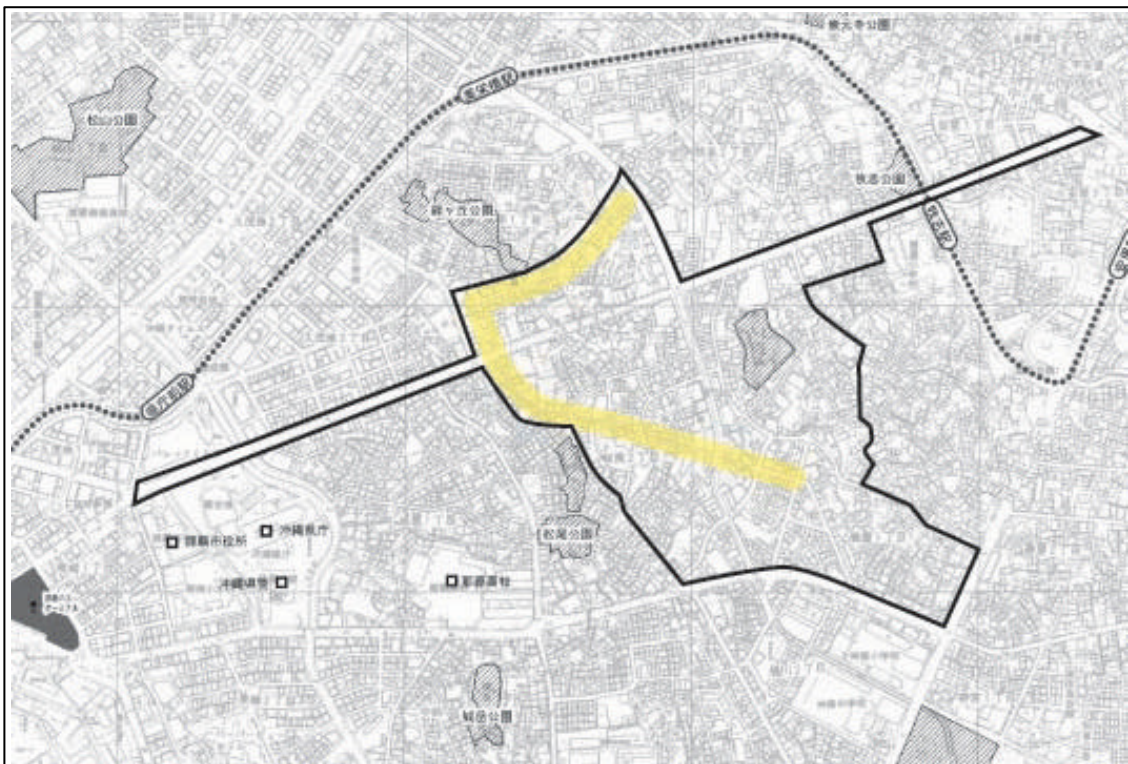
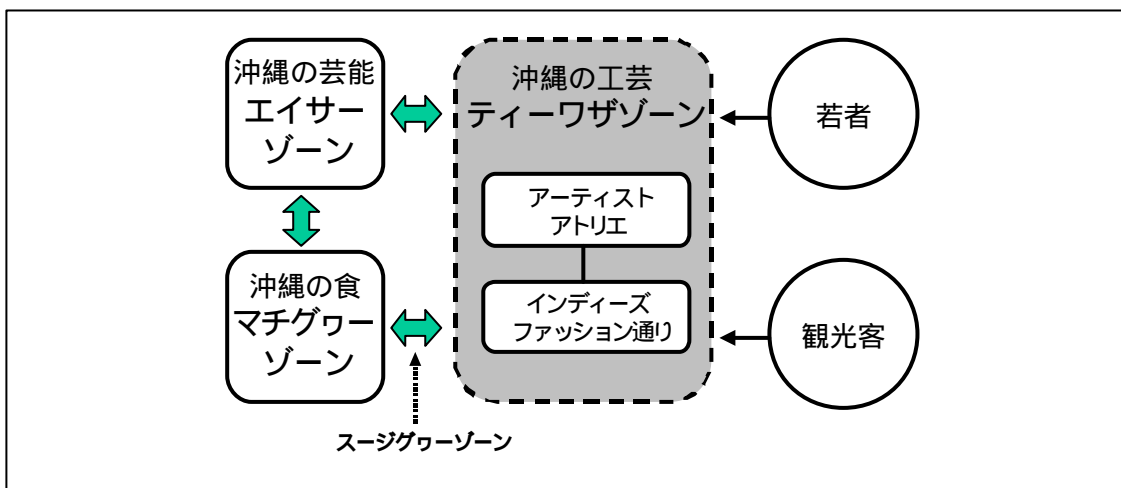


図 5.12 ティーワザゾーンの位置づけ



(3) ティーワザゾーン計画内容

アーティストアトリエの展開

沖縄は、「芸術の島」と呼ばれるほど、さまざまな芸術価値の高い工芸を生み出してきた。沖縄の工芸芸術をさらに高めるためにも、若いアーティストを育てる地盤づくりが求められる。その核となるアトリエ群を、空き店舗を利用し展開させる。

表 5.5 アーティストアトリエの展開

計画	内容	整備事項
アーティストアトリエ	沖縄の工芸をつくるアーティストのためのアトリエを空き店舗を利用し展開させ、市民や観光客などがアーティストと交流する空間とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には既存の空き店舗を利用する。 ・アーティストのためのギャラリーを設置する。 ・製作風景が通りから見えるように配慮する。
沖縄工芸紹介スペース	実物の工芸品と映像を用いて沖縄の工芸を紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> ・展示室と映像室をわける。 ・座席 20 程度とスクリーンを設置する。 ・落ち着いた雰囲気にする。 ・休憩スペースも設ける。
工芸製作体験スペース	工芸製作を体験できるスペースを設置し、沖縄の工芸をより深く体験することができるように図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・工芸ごとにスペースを設ける。

インディーズファッション通りの形成

現在、ティーワザゾーン地区に、若い店主による若者向けファッションの店が建ち並びつつある。この動きを助け、若者ファッションの発信地となるように、表 5.10 の整備を行う。

表 5.6 インディーズファッション通りの形成

計画	内容	整備事項
ファッションの通りの形成	若者のファッションの発信地となるインディーズファッションの通りを形成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には既存の空き店舗を利用する。
快適歩行空間	快く歩いて買い物ができる楽しさのある通りをめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ・石畳とする。 ・ポケットパークを設置する。 ・街路樹はデイゴとする。 ・電灯を配置する。 ・電柱を地中化する。

ソフト面からの仕掛けづくり

現在、空き店舗が目立つティーンワザゾーンを、賑やかなゾーンとするために、表9のソフト面からの仕掛けづくりをおこなう。

表 5.7 ソフト面からの仕掛けづくり

計画	内容	整備事項
空き店舗対策	空き店舗を減らし、にぎやかな通りを演出する。	<ul style="list-style-type: none"> ・工芸のアーティストや若いファッション関連店舗の経営者の募集。 ・アーティスト、店舗経営者に対する店舗賃貸料の補助。
イベントの開催	工芸市、ファッションショーなどのイベントの開催。	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントを企画・運営する団体の育成。 ・イベント開催費の補助
情報の発信	工芸、ファッション、イベントの情報を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・アンテナショップを設置する。 ・web等で情報を発信する。
工芸の指導者の育成	工芸の製作を観光客等に指導できる人材の養成、確保。	<ul style="list-style-type: none"> ・工芸のアーティストからの募集。 ・養成講座の開催。

5.4 スージグワー（路地）ゾーン計画

(1) スージグワーゾーン計画のねらい

- ・ 歩行者の国際通りと周辺の通りとの回遊性を向上させる。
- ・ 地域の人が「ユンタク」を楽しめるゆとりある道を創出する。
- ・ 地元根ざしたアーティストの発表の場となる道となるように、ベンチ、外灯等のストリートファニチャーには、アーティストの作品を配置する。

(2) スージグワーゾーンの位置

スージグワーの整備計画の内容は、以下のとおり。

図 5.13 スージグワーの位置図

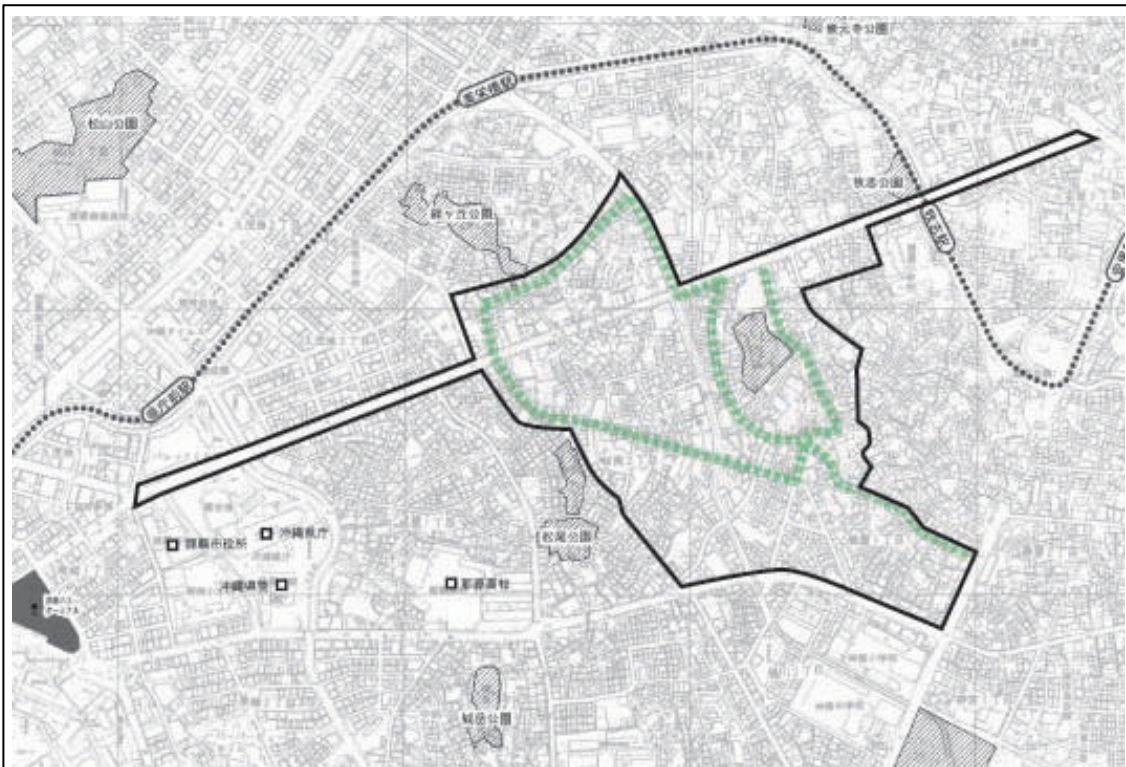
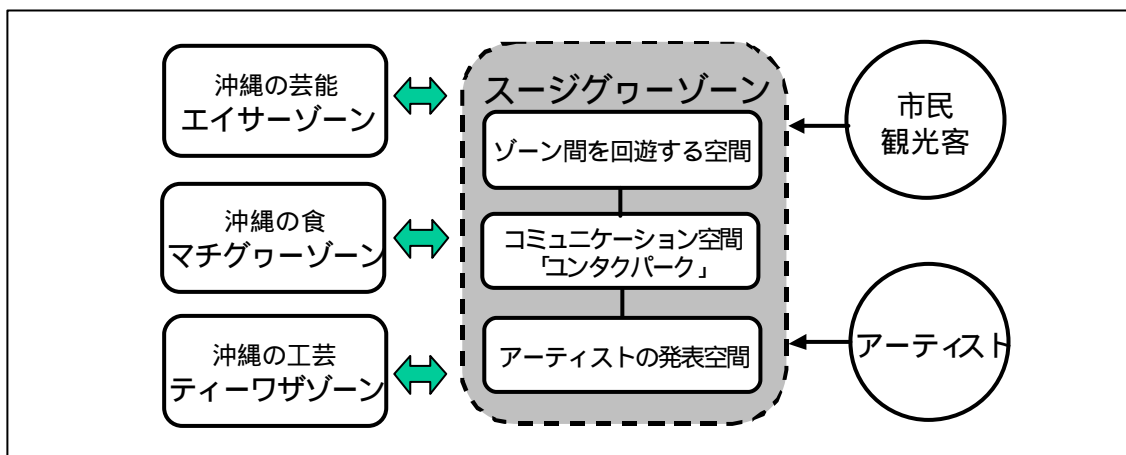


図 5.12 スージグワーの位置づけ



(3) スージグワゾーン計画の内容

古くから沖縄の生活路であり、コミュニケーションの場であったスージグワとして、国際通り一帯の回遊路を表5.8のように整備する。

表5.8 スージグワゾーン計画内容

計画	内容	整備事項
車道および歩道	沖縄の古くからあるコミュニケーションの場であったスージグワでさまざまな交流が発生する空間とする。	<ul style="list-style-type: none">・石畳とする。・街路樹はデイゴとする。・ベンチを設置する。・サインの充実。
ユンタクパーク	ユンタク(おしゃべり)ができる涼しい木陰をもつポケットパークを整備する。	<ul style="list-style-type: none">・空き地の利用・四季折々の花が咲きそろうスペースとする。

整備イメージ



写真 6、写真 7 アーティストによりデザインされたベンチ

おわりに

今回のニライカナイプランでは、コンセプト及び整備内容を計画した。残された課題としては、本計画を行うための事業可能性の検討（事業主体の設定、事業費の算出、事業プログラムの設定等）がある。

これらについては、沖縄のコンサルタントに就職し、沖縄のまちづくりを行っていくことが決定しており、これらは、私自身の今後のテーマとしたいと思っている。

資料編

1 . 那覇市の現況

1.1 自然条件

1.1.1 位置

沖縄県は、北緯 24～28 度、東経 122～133 度の南北約 400km、東西約 1,000km の海上に弧を描いて連なる 161 の島嶼の内、有人島 41 からなる。その中で那覇市は最大の島、沖縄本島の南部に位置する。また、本市は鹿児島島と台北のほとんど中間にあり、那覇を中心とする 1,500km の円周域には、東京、ピョンヤン、香港、ソウル、北京、マニラなどの主要な都市があり、交通通信機能の上からも東南アジアの各都市を結ぶ要衝の地点であり、わが国の南の玄関として地理的に好条件の位置にある。

1.1.2 地形

那覇市は、西方に東シナ海を擁し南北及び東の三方は、他の市町村と隣接している。地形は、旧市内を中心とする中央部においてほぼ平坦をなし、これを取り巻くように周辺部には小高い丘陵地帯が展開する。また、市内を東から西に国場川と安里川が流れ、前者は那覇埠頭、後者は泊埠頭を経て東シナ海に注いでいる。

地質構造は、全体として北側に単純傾斜構造をなしているが、真和志中央部においては、盆状構造の断面に似た地質が見られ、首里地区ではドーム型地質構造をなす地域も見受けられる。

また、市内にはいくつかの断層があり、その主なものに首里断層があり、泊、大道、首里の南側、南風原町新川を経て与那原を結ぶ線があり、これから分岐して、大道、首里、西原を結ぶ線も断層となっている。

地質は大別して第三紀中新世の島尻層、第三紀新世から第四紀洪積世にかけて琉球石灰岩及び沖積世の隆起珊瑚礁からなっているが、旧市内においては海浜堆積物からなるところもある。その分布状況は、旧市街地及び首里から天久、安謝における一帯並びに識名あたりで琉球石灰岩が露出し、その他の地域の地表面は島尻層からなる。

1.1.3 気象

亜熱帯モンスーン地帯に属する沖縄の気候は、四季を通じて平均気温 22 、平均湿度が 77% で、春秋の季節の特徴は、はっきりしていない。しかし、連日、気温 30 度前後の蒸し暑く長い夏と気温 16～17 の暖かく短い冬に分けられる。

春から夏にかけては雨量が比較的多く、夏から秋には熱帯低気圧の通過路となって、毎年数個の台風が来襲し、沖縄近海が台風の進路変更点になっているため、台風通過の際、長時間にわたり強風におそわれることが多い。

表 1-1 那覇市の気象

年	平均気温 ()	最高気温 ()	最低気温 ()	平均湿度 (%)	総降水量 (mm)	台風接近数 (那覇より 300km 以内)
1986	22.2	33.2	8.6	73	1,579.00	4
1987	23.1	33.6	7.1	76	2,109.00	2
1988	23	34.7	9.1	74	2,302.00	5
1989	22.7	33.9	10	74	1,685.00	6
1990	23	33.7	11	74	2,028.50	5
1991	23.4	34.9	10	74	1,611.50	7
1992	22.9	33	10.6	75	2,403.00	3
1993	23.1	33.1	9	74	1,330.50	5
1994	23	33.7	10.3	74	1,570.00	1
1995	22.6	33.3	9.1	74	1,763.00	3
1996	22.8	33.9	8.5	74	1,886.50	2
1997	23	32.8	9.3	73	2,018.00	4
1998	24.4	34.7	10.9	76	3,322.00	2
1999	23.5	33.3	10.1	74	2,247.50	4

資料：沖縄気象台

1.2 社会条件

1.2.1 那覇市の沿革

表 1-2 那覇市の沿革

1451 年	尚金福が長虹提を築く
1853 年	ペリー提督が来覇
1879 年	廃藩置県により那覇に県庁が置かれた
1896 年	特別区制の施行により那覇区となる
1903 年	土地整理事業の完了にともない、真和志より牧志、小禄より垣花を編入
1941 年	壺屋を真和志村から、埋め立てた旭町を加え、24ヶ町となる
1921 年	特別区制が廃止、一般市制が施行され那覇市となる
1944 年	大空襲で市域の 90%を焼失
1945 年	陶器製造産業先遣隊が壺屋一帯に入域
1946 年	糸満地区管内壺屋区役所が設置され、那覇復興が始まる
1949 年	米軍政官シーツ少尉、那覇を沖縄の首都とすると発表
1950 年	みなと村編入
1954 年	首里市、小禄村を合併
1957 年	真和志市と合併
1972 年	祖国復帰、日本国憲法適用
1998 年	第 3 次総合計画「創造・共生そして交流のまち・那覇」を制定

1.2.2 人口等

表 1-3 那覇市の人口及び世帯数、世帯人員の推移

	実 数					増 加 率			
	S55	S60	H2	H7	H12	S55～60	S60～H2	H2～7	H7～12
人口	1,106,559	1,179,097	1,222,398	1,273,440	1,318,220	6.6%	3.7%	4.2%	3.5%
人口密度	491.8	523.1	539.9	562.1	580.4	6.4%	3.2%	4.1%	3.3%
世帯数	294,229	332,687	371,852	407,150	450,628	13.1%	11.8%	9.5%	10.7%
1世帯当たり 人員数	3.76	3.54	3.28	3.09	2.91	-5.8%	-7.5%	-5.8%	-5.8%

資料：国勢調査

図 1-1 那覇市の人口及び世帯数、世帯人員の推移

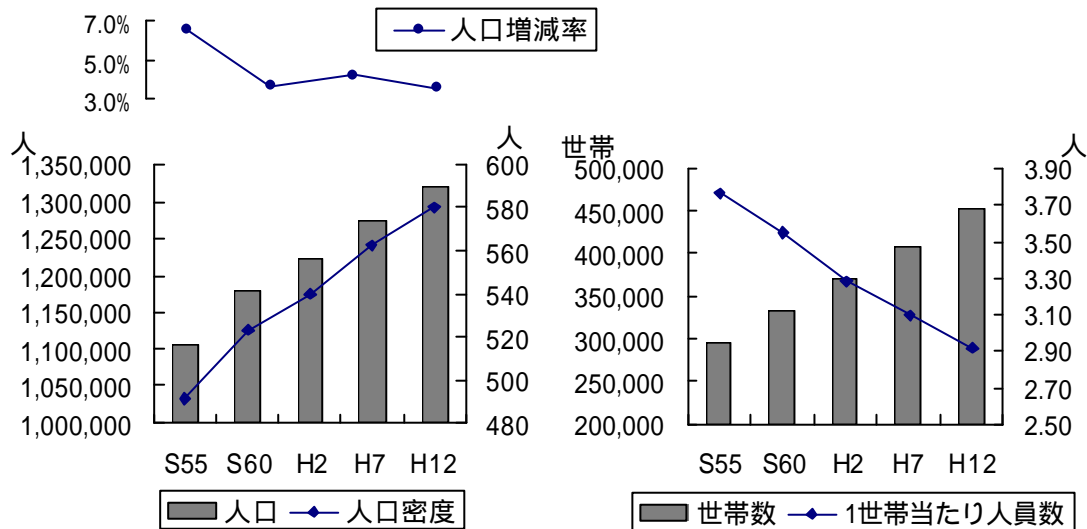


表 1-4 那覇市における年齢別人口の推移

年齢	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
総数	1,106,559	1,179,097	1,222,398	1,273,440	1,318,220
10歳未満	219,739	207,401	194,524	180,494	169,794
10代	200,294	211,484	210,674	200,420	189,997
20代	180,225	171,736	161,791	182,281	185,179
30代	151,939	191,843	194,869	181,292	177,368
40代	139,254	137,081	147,940	186,079	193,415
50代	94,122	117,665	132,888	131,334	143,079
60代	62,234	68,730	88,028	110,797	126,775
70代以上	57,579	69,649	83,491	35,384	45,533
不詳	1,173	508	8,193	819	9,558

資料：国勢調査

2 . 国際通りの現況

2.1 国際通りの沿革

表 2-1 国際通りの沿革

1934 年	真和志村安里から泉崎まで新県道開通
1948 年	アーニー・パイル国際劇場オープン
	平和通りに市場が立つ
1949 年	シーツ軍政長官、那覇市を沖縄の首都にすると発表
1950 年	国際大通り団結成
1952 年	那覇の公設市場建設
1953 年	国際大通り団を国際大通り会に改称
1954 年	国際通りの開通式
1955 年	沖縄山形屋松尾でオープン
	平和通り、桜坂通り、市場通りをアスファルトで舗装
1956 年	国際中央通り会、国際本通り会、蔡温橋通り会（現国際蔡温橋通り会）結成
1959 年	那覇バスターミナル落成
1965 年	那覇市庁舎完成
	国際通り、琉球政府道として認定
1969 年	沖縄三越オープン
	牧志第二公設市場オープン
1972 年	国際通り、県道 39 号線に指定
	沖縄の施政権が日本に返還され沖縄県となる
	牧志第一公設市場オープン
1973 年	国際通りで、沖縄で初めての歩行者天国が実施される
1975 年	沖縄国際海洋博覧会開幕
1981 年	国際通り、車道を狭め歩道を広げる
	平和通り、アーケードが完成
	牧志公設市場完成
1987 年	一般公募で那覇市が「国際通り」を正式に愛称として決定
1990 年	県庁行政棟落成式
1991 年	沖縄三越、売り場面積を 2 倍に増やして新装開店
	久茂地再開発ビル「パレットくもじ」オープン
1999 年	山形屋閉店
	マキシー倒産
2000 年	国際ショッピングセンター取り壊し
2002 年	トランジットマイル社会実験

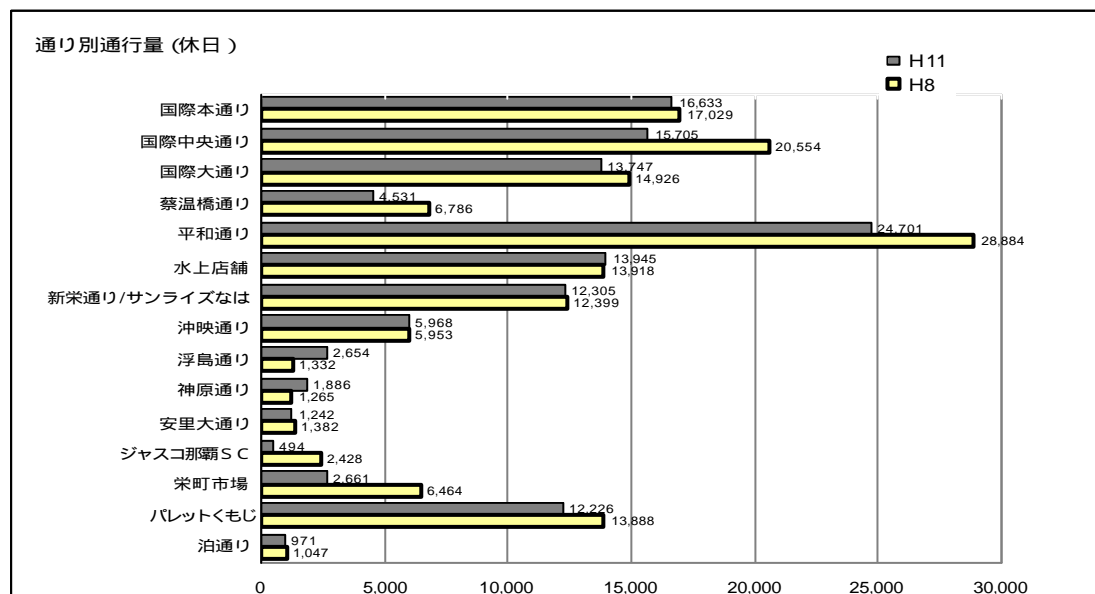
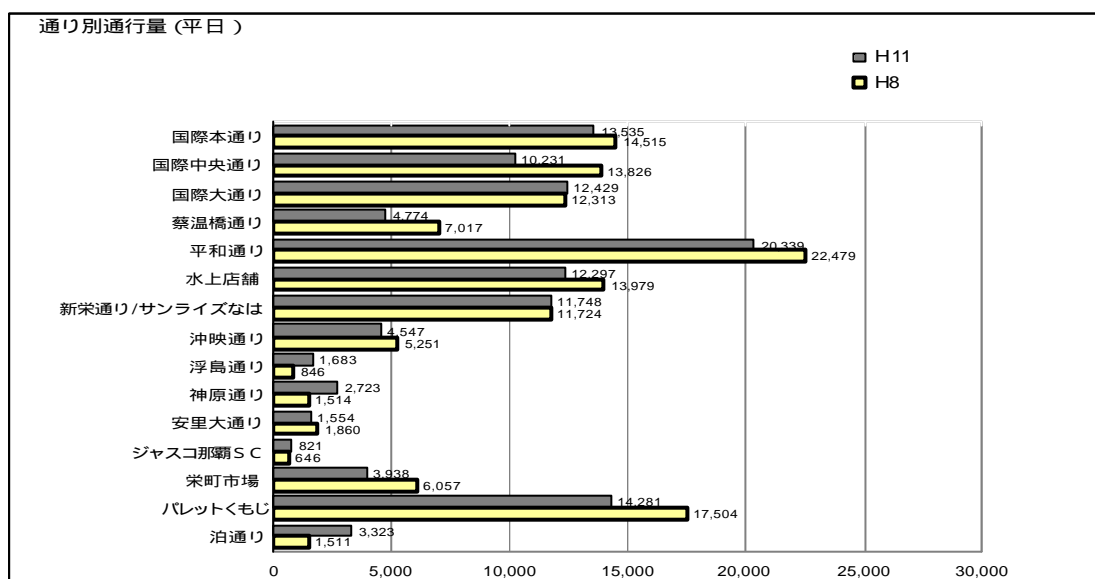
2.2 来街者通行料及び意識調査

2.2.1 来街者通行料調査

・通行量は平和通りが最も多く、次いで国際本通りとなっているが、全体的に前回調査より減少傾向にある。

H11年の通行量調査では平日休日ともに平和通りがもっとも多く平日 20,339 人、休日 24,701 人となっている。休日では平和通りに次いで国際本通り 16,633 人、国際中央通り 15,705 人、平日ではパレットくもじが14,281人、国際本通り 13,535 人となっている。しかし、どの通りも平成8年より減少している。

図 2-1 通り別通行量



資料：那覇市中心商店街通行量調査報告書 H12.3

2.2.2 来街者意識調査

那覇市来街・来店者調査報告書（平成 11 年 11 月実施那覇市）をもとに国際通り等の来街者意識をまとめると、下記のように整理される。

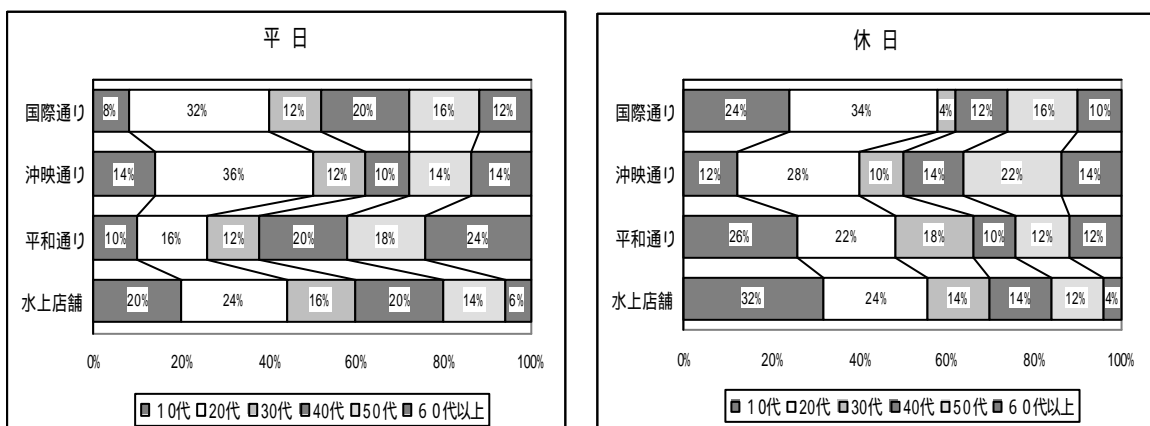
年代別：平日では 20 代が最も多く、休日では 10 代、20 代で半数以上占めている。
 来外手段：徒歩とバスの占める割合が多い。
 購買品目：飲食料品と衣料品の割合が多い。
 購買理由：近いのと交通が便利であるという理由が多い。
 商店街のイメージ 1（活気がある）：半数の人が活気があると答えている。
 商店街のイメージ 2（品揃えがよい）：半数以上が品揃えのよさに満足している。
 商店街のイメージ 3（歩道の整備状況）：国際通りは不満度が高い。
 商店街に対する要望：休憩施設、トイレ、駐車場の要望が高い。

資料：那覇市来街・来店者調査報告書 H13.3

年代別

年代別来街者を見ると、全体的に平日休日とも 20 代の占める割合が最も高い。平日には平和通りで 40 代以上が 62%を占めているものの、それ以外では 10 代、20 代で 40%前後を占めている。休日では 10 代の割合が増えて、10 代、20 代で半数以上を占めている。

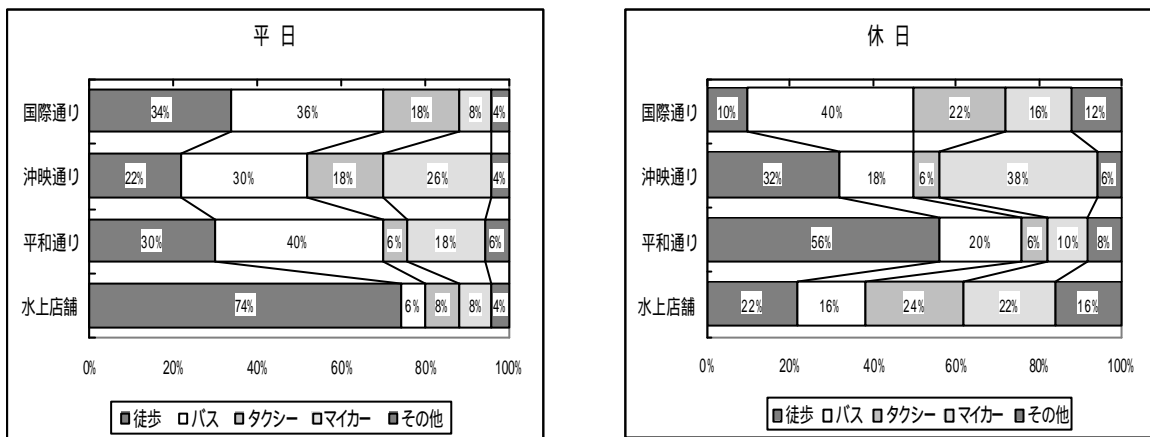
図 2-2 年代別来街者構成



来街手段

国際通りは平日休日ともバス利用の占める割合が多い。平日にはどの通りも徒歩の占める割合が30%前後あり、特に平和通りと水上店舗は徒歩の占める割合が多い。平日の水上店舗では74%、休日の平和通りには56%の人が歩いて来ている。交通機関の利用として休日にはマイカーの割合が増えるもののバス、タクシーの割合が高い。沖映通り他の通りよりマイカー利用が多く、特に休日は38%と高くなっている。

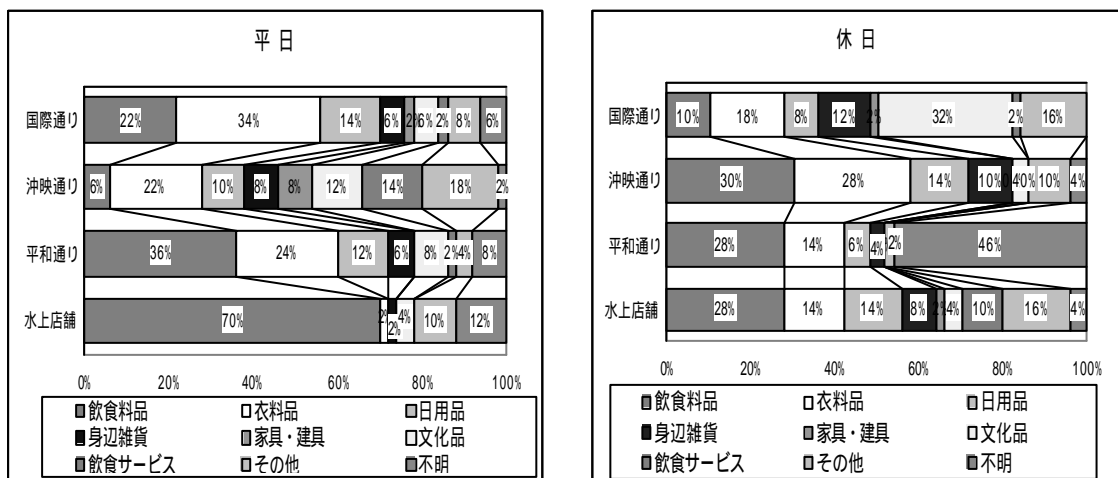
図 2-3 来街手段



購買品目

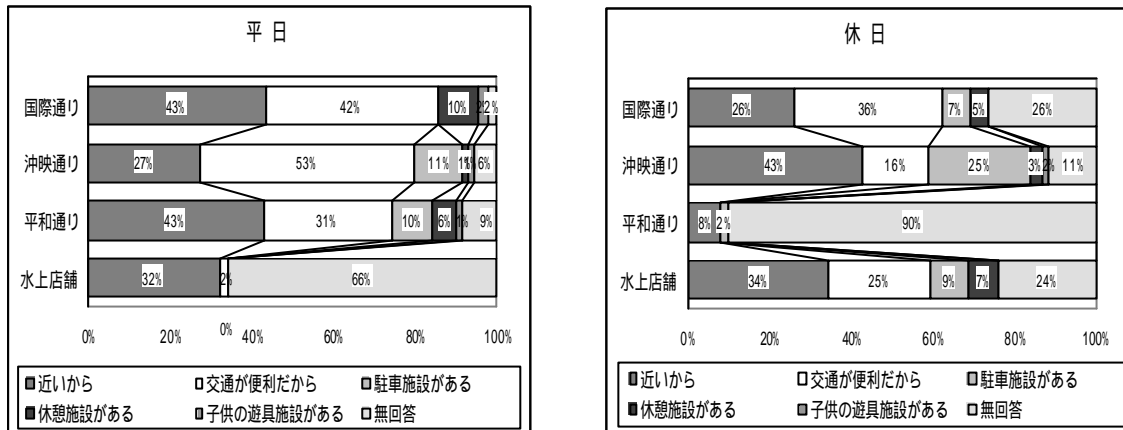
購買品目では飲食料品と衣料品が主体となっている。特に牧志公設市場等の食料品売場を中心とした水上店舗では飲食料品が74%と高い。平日衣料品の占める割合が高い国際通りでは休日には文化品の占める割合が高くなっている。

図 2-4 購買品目



購買理由では「近いから」と「交通が便利」だからという理由が占める割合が高い。平日の国際通り、沖映通り、平和通りではこの2つの理由で80%前後の割合を占めている。休日では平和通りの90%、また国際通り、水上店舗でも25%前後の人が無回答となっている。

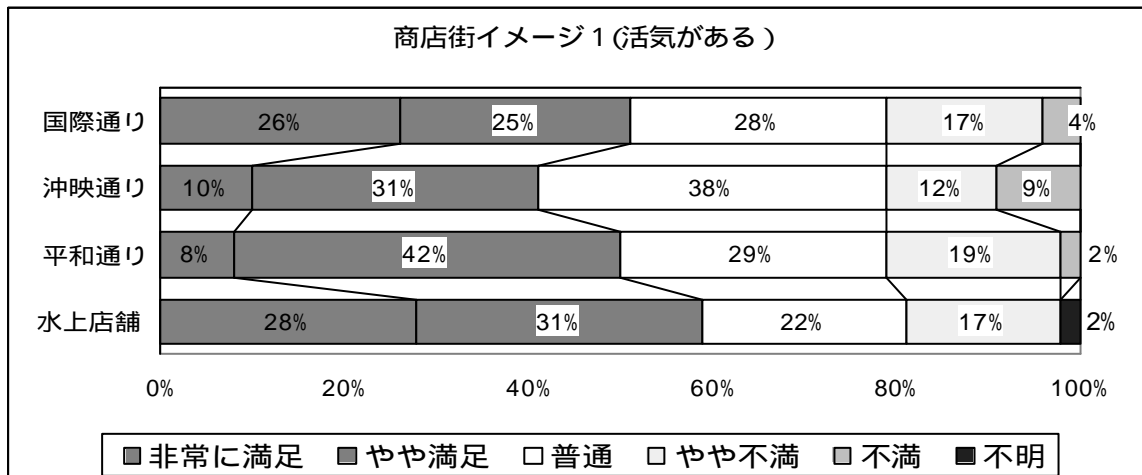
図 2-5 購買理由



商店街のイメージ 1：活気がある

半数の人が各通りとも満足している。最も満足度が高いのは水上店舗 59%、次に国際通り 51%で、どちらも非常に満足が28%、26%と他の通りより高い値になっている。

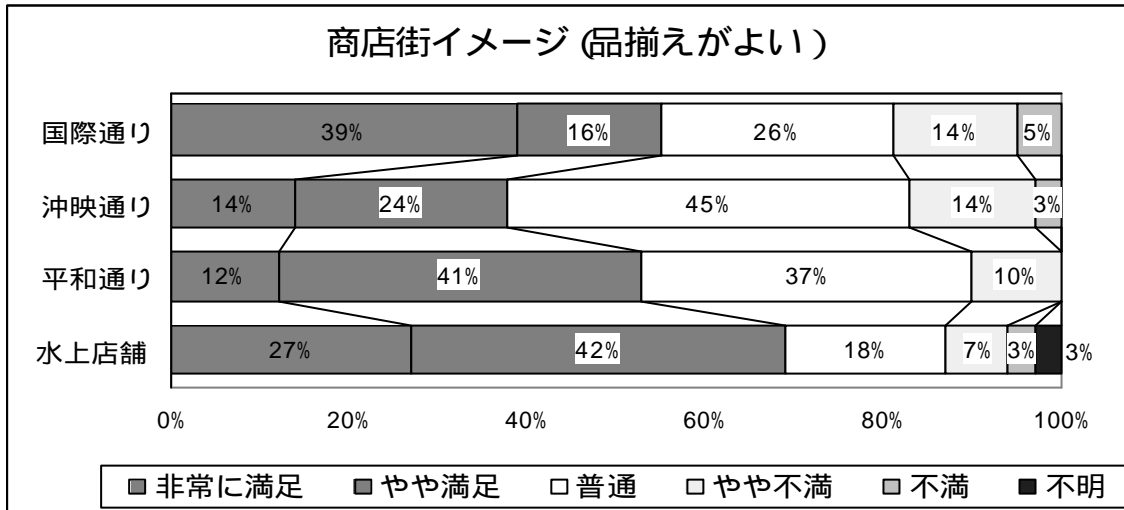
図 2-6 商店街イメージ 1



商店街のイメージ 2：品揃えがよい

国際通り、平和通り、水上店舗では半数以上の方が満足と答えている。特に水上店舗では満足と答えた人が 69% と多い。国際通りでは非常に満足と答えた人が 39% と最も多いものの不満と答えた人も 19% あり、他の通りより多い。

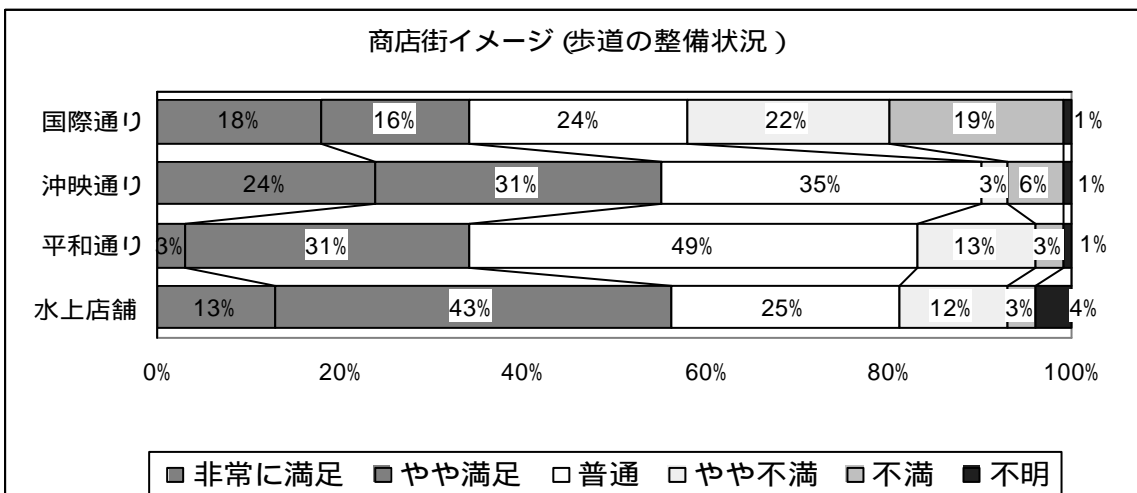
図 2-7 商店街イメージ 2



商店街イメージ 3：歩道の整備状況

水上店舗、沖映通りで歩道の整備状況に対して半数以上が満足している。国際通りは不満の割合が 41% と高い数値を示している。国際通りと平和通りは満足している割合は共に 34% で同じであるが平和通りの不満の割合は 17% とそれほど高くない。街路整備をした沖映通りでは満足度が最も高い。

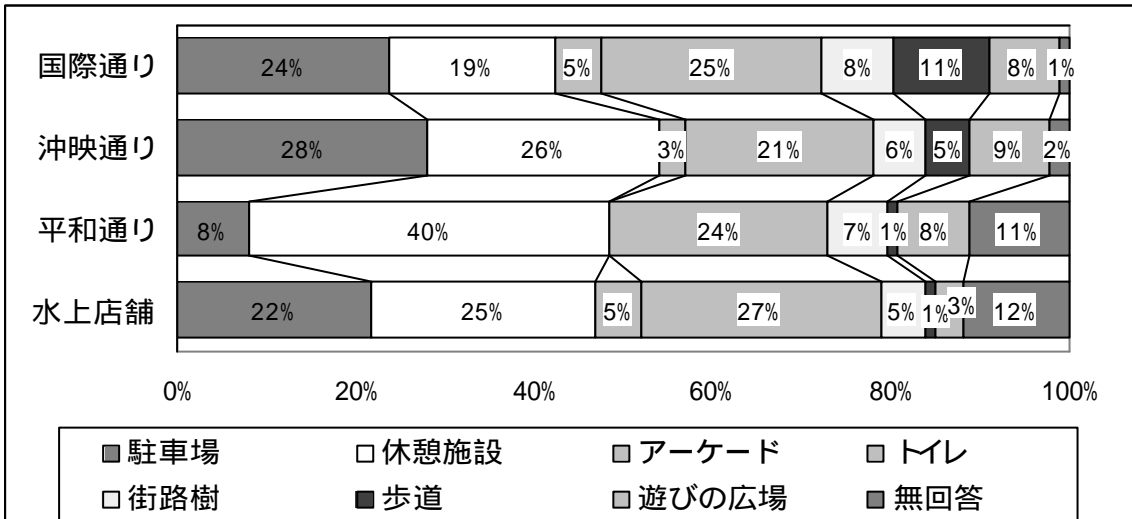
図 2-8 商店街イメージ 3



商店街への要望

各通り共に共通して、要望の高いのは休憩施設、トイレ、駐車場となっている。平和通りでは休憩施設が40%と最も高く、次にトイレの要望が多い。国際通りではトイレの要望が最も高く、次いで駐車場となっている。水上店舗はトイレの要望が27%と最も高く、次いで休憩施設となっている。沖映通りでは駐車場で28%と最も高い。

図 2-9 商店街への要望



3 . 関連計画からみた国際通りの整備方針

3.1 那覇市都市計画マスタープランからみた国際通りの整備

那覇市都市計画マスタープラン（平成 11 年 4 月策定）では、国際通りの整備について「地域まちづくり方針」の中の「那覇中央地域」の項目において、「土地利用方針」・「市街地の修復と保全の方針」・「道路・交通形成方針」・「アメニティ・景観形成方針」の 4 つについて以下のよう示されている。

表 3-1 那覇市都市計画マスタープランからみた国際通りの整備方針

土地利用方針	・沖縄県の中心商業地として、商業サービス機能及び観光商業施設が集積する地区とする。
市街地の修復と保全の方針	・沖縄県の魅力ある中心商業地及び観光拠点として、地区計画等による建物の壁面後退、意匠及び形態等の制限を行い、ゆとりある歩行者空間を創出することでシンボリックな通りへと誘導する。
道路・交通形成方針	・商業・観光地の重要な役割を担う道路として、商業再生計画に併せて電線類地中化やポケットパーク等の多様なオープンスペースの創出を図り、人中心の魅力ある道づくりを推進する。 ・国際通りのモール化に向け、東西へ通過する交通を処理し、地区内の主要な道路として周辺環境に配慮した道路整備を図る。
アメニティ・景観形成方針	・那覇の顔としての風格を備え、中心商業空間の賑わいを演出する街並みをつくる。

また、上記計画における中心市街地の道路体系整備方針は、図 5-18 に示すようになっている。

県道 39 号線（国際通り）は将来、バス及びタクシーなど公共性の高い車両のみ通行させるトランジットモール化の方向が打ち出されている。そのため県道 39 号線を補完する代替道路として、県道 39 号線と平行して北側と南側に都市計画道路を計画している。

また、真地・久茂地線は、広域的な幹線として拡幅が位置付けられていることから、線形を修正し直線的に現在の開南線につなぐ形とし、ガープ川線は南に延伸し、修正された真地・久茂地線に接続させている。

さらに、対象地区の東を縦断する既存の都市計画道路牧志・壺屋線と対照な西側の位置に、新しい地域幹線となる都市計画道路を計画している。

3.2 那覇市観光コンベンション振興計画

那覇市観光コンベンション振興計画（平成12年3月策定）において、国際通りの整備の方向は、「観光拠点地区の形成」の中の「国際通り周辺地区」にあげられている。また、その実施計画としては、那覇市の観光の目玉となっている国際通り周辺の活力と賑わいを回復するため、中心市街地活性化基本計画で提言されている各種事業との連携を図りながら表5-4のように進めるとされている。

表3-2 国際通り整備の施策（ハード施策）

区分	内容	関係機関		スケジュール	
		実施主体	関係課等	短期	長期
ハード 施策	・観光地としての景観形成 国際通りの電柱の地中化及びグレードアップを図る。また、花と緑であふれる道づくりなど、那新市のメインストリートとしての景観形成や、沖縄文化を思わせる市場の保全を推進する。	県、市、民	都市計画課、 経済政策課、 観光課、 観光協会、 公園緑地課、 産業振興課		
	・歩行者が快適に歩ける道路空間の形成 歩行者天国の実施や国際通りのトランジットモール化、街路樹植栽などにより、歩行者が歩きやすい空間をつくる。休憩所を兼ねたポケットパークや障害者用トイレを備えた情報案内所などを設ける。	県、市	都土計画課、 経済政策課、 都市再開発課		(モ-ル)
	・高齢者や障害者に優しい街づくり 高齢者や障害者が安心して訪れることのできるバリアフリーの街づくりを推進する。	県、市、民	社会課、 建築指導課、 道路管理課		
	・複雑な裏通りの界隈性を活用したイベント 水上店舗界隈を活用した迷路探検スタンプラリーを展開する。歩いて楽しい街並みを形成し、チェックポイントして地域に埋もれている資源・施設を活用する。	市、民	観光課、 経済政策課		
	・常時、伝統芸能が見られる施設整備 第二牧志公設市場再開発と連携し、沖縄の芸能がいつでも楽しめる施設整備を推進する。	市	観光課、 企画調整室、 文化振興室		
	・夜も安心して歩ける市街地整備 夜の観光を推進するため、安心して歩けるよう裏通りへの保安灯設置やライトアップによる空間演出を行う。	市、民	道路管理課、 市民活動課、 経済政策課		
	・壺屋地区の活用 やちむん通りの再整備にともない観光地としての魅力が高まりつつある壺屋地区を焼物文化を中心としたミニテーマパークとして、一層の充実を図る。	市、民	観光課		
	・国際通りの慢性的な交通渋滞の解消 道路網体系の整備に加え、駐車場整備や駐車場案内システムの導入などを推進し、交通混雑の解消を図る。	県、市	都市計画課、 都市再開発課、 経済政策課		
	・インフォメーションセンターの設置 空き店舗を利用した外国人にも対応できるインフォメーションセンターを設置し、地元の店舗情報や観光情報の提供及び観光施設のチケット購入などが行えるようにする。	国、県、市、 民	観光課		

表 3-3 国際通り整備の施策（ソフト施策）

ソフト 施策	・商店街が一体となった商業戦略の展開 商業地としての魅力を高めるため、商品の品揃えや個性ある通りの形成、イベントの企画など、商店街や通り会が一体となった戦略の展開を促す。	市、民	経済政策課		
	・観光関連業者の意識向上 観光客の苦情に対し、各小売業者の接客の向上を促す。小売店・飲食店での観光情報誌の設置や軽易な観光案内など、インフォメーション協力店の設置を促す。	市、民	観光課、 産業振興課		
	・トイレの開放 観光客へのサービス向上の一環として、地元店舗のトイレの開放を促進する。	民	観光課、 経済政策課		
	・ナイトマーケットの開催 閉店後の平和通りを活用し、観光客だけでなく、地元の人も集まるフリーマーケットや沖縄の食が楽しめる安くておいしいフードマーケットなどの開催を促す。	市、民	観光課、 経済政策課		
既計画 事業と の整合	・都市計画マスタープランとの整合 土地利用方針：国際通りを中心とした商業観光ゾーンの形成。				
	・中心市街地活性化基本計画との整合				
その他	・通り会や行政及び観光関連産業の連携と協力		観光課、 経済政策課、 観光協会		
	・タウンマネージメントの早期成立		経済政策課、 商工会議所		

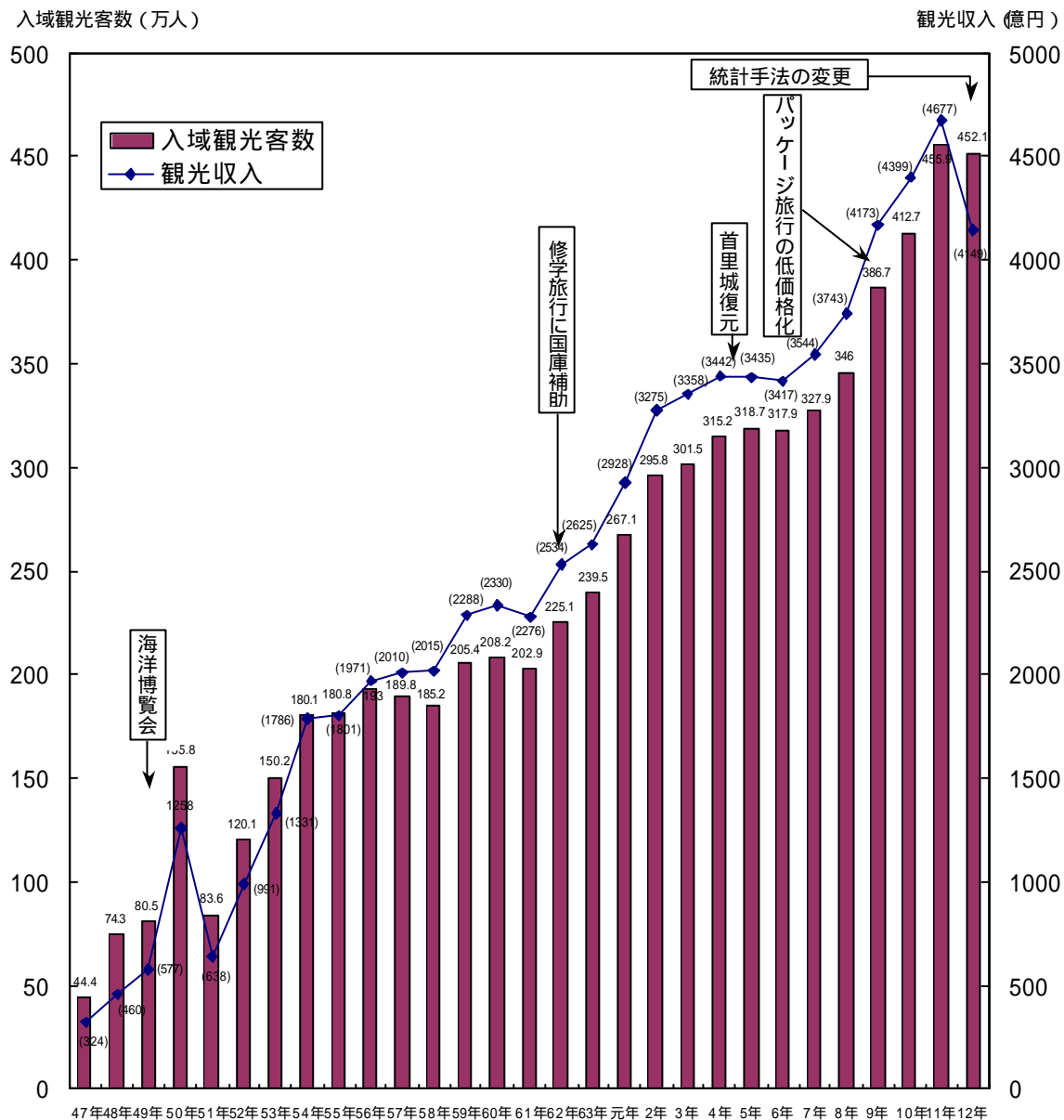
4 . 観光の動向と特性

4.1 沖縄観光の動向

4.1.1 観光客は増加傾向

沖縄県は、観光リゾート産業を本県経済を支える重要な基幹産業として位置づけ、その振興に取り組んでいる。平成 12 年の入域観光客は、景気の低迷により国内観光需要が低迷する中であって、約 452 万人と前年を下回ったものの、10 年間で約 150 万人、50%の増加を示している。その要因としては、「観光リゾート沖縄」のイメージの浸透、航空路線の拡充と本土路線の航空運賃の低減、低価格旅行商品の流通、2000 年サミットの九州・沖縄開催とマスメディアによる沖縄情報の発信、修学旅行や各種コンベンション誘致効果などが挙げられる。表 2-1 に沖縄観光の推移を示す。

図 4-1 年次別観光客数及び観光収入



資料：観光要覧 / 平成 12 年版 (沖縄県)

表 4-1 沖縄観光の推移

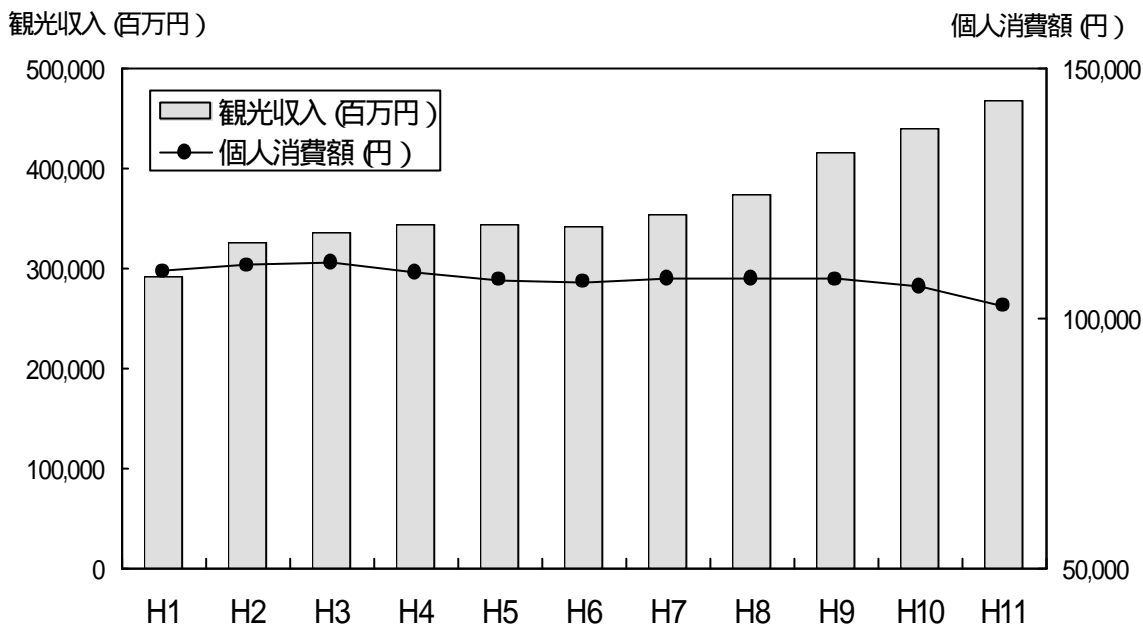
年	事 項
昭和 45	海中展望塔オープン
47	ANAによる沖縄路線イメージキャンペーン。
50	沖縄国際海洋博覧会開催。那覇空港ターミナルビル完成。「ホテルムーンビーチ」オープン。
51	(財)アクアポリス管理財団設立
52	団体包括旅行割引運賃の実施。「沖縄久米島イーフビーチホテル」オープン。JAL 沖縄キャンペーン開始。日本ハムファイターズ沖縄デーを設定。
53	海開き宣言開始(S53~63)。「ヴィラオクマリゾート」オープン。ANA 沖縄キャンペーン開始
54	沖縄県観光振興条例制定。「はいむるぶし」オープン。日本ハムファイターズ沖縄キャンプ開始。
55	航空運賃引き上げ。
57	航空運賃引き上げ。広島東洋カープ沖縄キャンプ開始。
58	「万座ビーチリゾートホテル」オープン。
59	花のカーニバルの開催。「宮古島東急リゾート」オープン。
60	JAL 札幌便(1~3月)開設。ANA 大分便開設。日航空機墜落事故。
61	沖縄県観光振興基本計画(第2次)策定(S61~H3)。国際観光モデル地区指定。(財) 沖縄コンベンションセンター設立。SWAL 松山便開設。ANA 広島便開設。
62	海のカーニバル開催。海邦国体開催。沖縄コンベンションセンター大展示棟オープン。「サンマリーナホテル」「かりゆしビーチホテル」オープン。横浜大洋ホエールズ、中日ドラゴンズ沖縄キャンプ開始。
63	サントピア沖縄開催。コンベンションシティ指定。航空機利用修学旅行に国庫補助可。「ラマダ・ルネッサンス・リゾートオキナワ」「残派岬ロイヤルホテル」オープン。JAS 東京便参入。SWAL 岡山便開設。
平成 元	通行税廃止。オリックスブルーウェーブ沖縄キャンプ開始。SWAL 東京~宮古便開設。
2	「リゾート沖縄マスタープラン」策定。(財)アクアポリス管理財団解散。JAL 名古屋便開設。「かりゆしウェア」発表。
3	「沖縄トロピカルリゾート構想」承認。SWAL 小松便開設。
4	SWAL 名古屋~山形便開設。アジアナ航空韓国便開設。「ラグナガーデンホテル」オープン。SWAL 大阪~宮古便開設。沖縄県観光振興基本計画(第3次)策定。首里城公園開園。
5	「ロワジールホテル」「リザンシーパークホテル」オープン。JTA 東京~石垣便開設。ANA 高松便開設。
6	JTA 大阪~石垣便開設。JAL 福島便開設。「ホテル日航アリビラ」オープン。(財) 沖縄ビクターズビューローと(財)台湾観光協会が「観光協力に関する協定書」を締結。パレットくもじ観光案内所設置。
7	「沖縄県観光振興基本計画中期行動計画」策定。JAS 大阪便開設。「かりゆしアーバンリゾート那覇」オープン。「美ら島沖縄観光宣言」。「大琉球・まつり王国」の開催。第1回世界のウチナーンチュ大会の開催。ANA 新潟便開設。
8	(財)沖縄ビクターズビューロー、(財)沖縄コンベンションセンター、オキナワコンベンションビューローの観光3団体を統合し(財)沖縄コンベンションビューロー発足。「玉泉洞王国村」オープン。プロ野球教育リーグ「ハイサイ沖縄リーグ」開催。
9	ANK 福岡~石垣便ほか10路線開設。「世界帆船フェスティバル in 沖縄」開催。「カヌチャベイホテル」「ザ・プセナテラス ビーチリゾート」オープン。プロ野球「ファーム日本選手権」開催。
10	ANK 福岡便、JAS 青森便、JTA 高知便開設。「島嶼観光政策フォーラム」開催。「第10回アジアベテランズ陸上競技選手権大会」。沖縄出身アーティストの躍進。
11	沖縄特定免税店オープン。「九州・沖縄サミット」首脳会合の沖縄開催決定。
12	「九州・沖縄サミット」開催。

資料：観光要覧/平成12年版(沖縄県)

4.1.2 観光収入は増化しているが個人消費は減少

沖縄県の観光収入は、観光客の増加に伴い増加しており、平成元年には 2,927 億 5300 万円であったものが、平成 10 年には 4,677 億 2300 万円と 6 割近い伸びを示している。一方、個人消費額は平成 3 年の 111,400 円をピークに漸次減少し、平成 11 年には 102,600 円にまで減少している。

図 4-2 沖縄県の観光収入と個人消費額



資料：観光要覧 / 平成 12 年版（沖縄県）

表 4-2 沖縄県の観光収入と個人消費額

	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11
観光収入 (百万円)	292,753	327,473	335,815	344,187	343,537	341,732	354,449	374,318	417,271	439,885	467,723
個人消費額 (円)	109,600	110,700	111,400	109,200	107,800	107,500	108,100	108,200	107,900	106,600	102,600

資料：観光要覧 / 平成 12 年版（沖縄県）

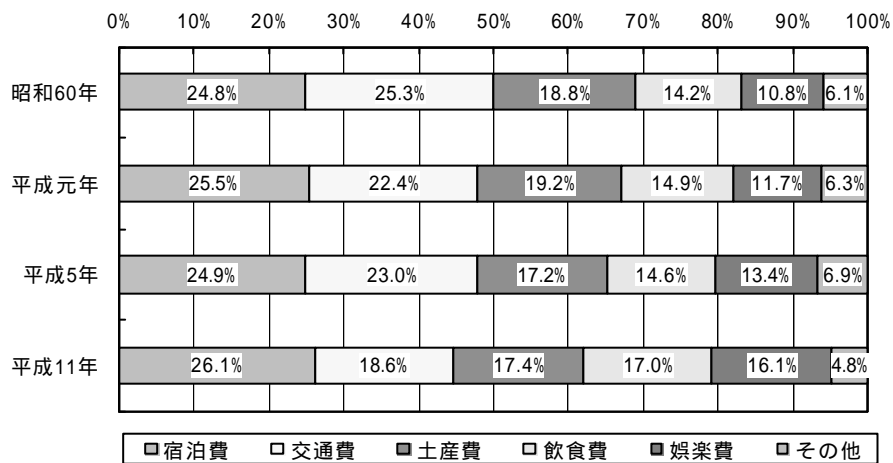
4.1.3 観光客 1 人当たりの県内消費額は飲食娯楽にシフト

観光客 1 人当たりの県内での消費額の内訳をみると、「宿泊費」はほぼ横這いに推移しているが、「交通費」は、昭和 60 年には交通費は 25.3%であったが、平成 11 年では 18.6%と 6.7 ポイント減少しており、安い旅費での観光が主流となってきている。

「飲食費」は、昭和 60 年には 14.2%だったが、平成 11 年度には 17.0%にまで増加している。

「娯楽費」は、昭和 60 年の 10.8%が、平成 11 年には 16.1%となっており、飲食・娯楽に費やす傾向が強まっている。

図 4-3 観光客 1 人当たり県内消費額内訳の推移



資料：観光要覧 / 平成 12 年版（沖縄県）

表 4-3 観光客 1 人当たり県内消費額内訳の推移

	宿泊費		交通費		土産費		飲食費		娯楽費		その他	
昭和 63 年	27,800	24.8%	28,300	25.3%	21,000	18.8%	15,900	14.2%	12,100	10.8%	6,800	6.1%
平成元年	27,900	25.5%	24,600	22.4%	21,100	19.2%	16,300	14.9%	12,800	11.7%	7,000	6.3%
平成 5 年	26,800	24.9%	24,800	23.0%	18,600	17.2%	15,700	14.6%	14,500	13.4%	7,400	6.9%
平成 11 年	26,800	26.1%	19,100	18.6%	17,900	17.4%	17,400	17.0%	16,500	16.1%	4,900	4.8%

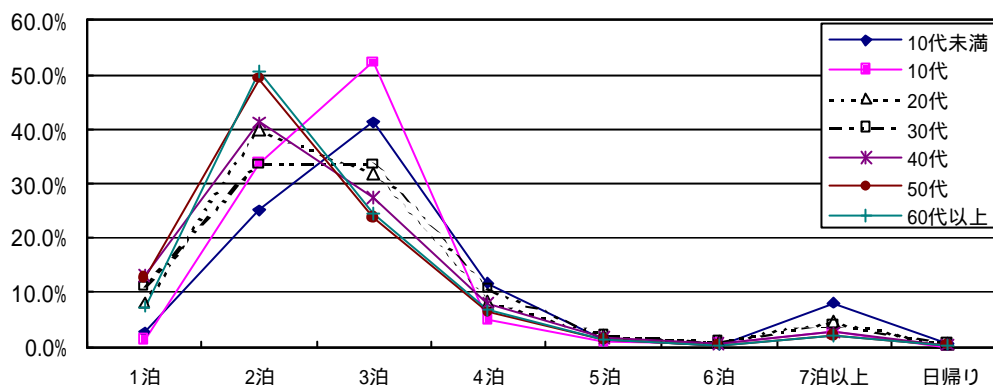
資料：観光要覧 / 平成 12 年版（沖縄県）

4.1.4 観光客の動向

県外客の滞在日数は2泊3日が中心

県外客の滞在日数は、「2泊」が最も多く、全体で41.2%。特に50代では49.3%が「2泊」となっている。「2泊」に次いで多いのが「3泊」であるが、これは10代に多い。また、「5泊」以上の長期滞在は5%以下と低い値となっている。

図4-4 県外客の年代別滞在日数



資料：観光要覧 / 平成12年版（沖縄県）

表4-4 県外客の年代別滞在日数

	総計	1泊	2泊	3泊	4泊	5泊	6泊	7泊以上	日帰り	不明
合計	35,430	3,180	14,580	11,436	2,716	543	221	1,118	144	1,492
	100.0%	9.0%	41.2%	32.3%	7.7%	1.5%	0.6%	3.2%	0.4%	4.2%
10代未満	431	12	108	177	50	6	1	35	3	39
	100.0%	2.8%	25.1%	41.1%	11.6%	1.4%	0.2%	8.1%	0.7%	9.0%
10代	5,597	79	1,898	2,927	282	63	32	158	7	151
	100.0%	1.4%	33.9%	52.3%	5.0%	1.1%	0.6%	2.8%	0.1%	2.7%
20代	6,237	502	2,494	1,995	521	124	53	296	27	225
	100.0%	8.0%	40.0%	32.0%	8.4%	2.0%	0.8%	4.7%	0.4%	3.6%
30代	5,997	659	2,017	2,002	642	113	56	246	33	229
	100.0%	11.0%	33.6%	33.4%	10.7%	1.9%	0.9%	4.1%	0.6%	3.8%
40代	5,755	757	2,371	1,585	470	87	29	162	24	270
	100.0%	13.2%	41.2%	27.5%	8.2%	1.5%	0.5%	2.8%	0.4%	4.7%
50代	6,154	782	3,034	1,459	400	78	29	115	30	227
	100.0%	12.7%	49.3%	23.7%	6.5%	1.3%	0.5%	1.9%	0.5%	3.7%
60代以上	5,259	389	2,658	1,291	351	72	21	106	20	351
	100.0%	7.4%	50.5%	24.5%	6.7%	1.4%	0.4%	2.0%	0.4%	6.7%

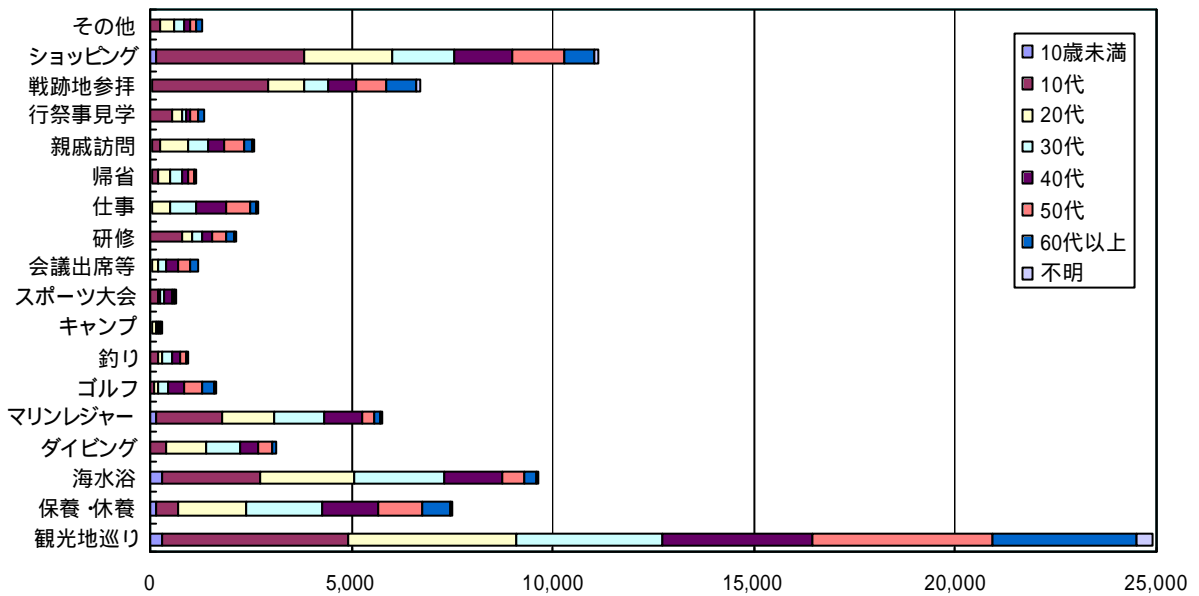
資料：観光要覧 / 平成12年版（沖縄県）

旅行目的は観光地巡りが大半

県外客の旅行目的については「観光地巡り」が圧倒的に多く、全体で73.7%、次いで「ショッピング」「海水浴」「保養・休養」「戦跡地参拝」「マリンレジャー」「ダイビング」「仕事」という順になっている。

年代別にみても、「観光地巡り」はいずれの年代でも6割以上となっている。

図 4-5 県外客の年代別旅行目的



資料：観光要覧 / 平成 12 年版 (沖縄県)

表 4-5 県外客の年代別旅行目的

	合計	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明
総数	33,792	406	5,346	6,014	5,785	5,469	5,876	4,331	565
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
観光地巡り	24,911	294	4,618	4,198	3,645	3,685	4,494	3,563	414
	73.7%	72.4%	86.4%	69.8%	63.0%	67.4%	76.5%	82.3%	73.3%
保養・休養	7,518	124	542	1,755	1,862	1,370	1,145	636	84
	22.2%	30.5%	10.1%	29.2%	32.2%	25.1%	19.5%	14.7%	14.9%
海水浴	9,616	295	2,429	2,330	2,241	1,464	509	278	70
	28.5%	72.7%	45.4%	38.7%	38.7%	26.8%	8.7%	6.4%	12.4%
ダイビング	3,126	22	379	1,009	808	493	303	92	20
	9.3%	5.4%	7.1%	16.8%	14.0%	9.0%	5.2%	2.1%	3.5%
マリレジャー	5,782	130	1,652	1,311	1,214	923	370	145	37
	17.1%	32.0%	30.9%	21.8%	21.0%	16.9%	6.3%	3.3%	6.5%
ゴルフ	1,633	15	83	118	232	358	503	288	36
	4.8%	3.7%	1.6%	2.0%	4.0%	6.5%	8.6%	6.6%	6.4%
釣り	972	22	157	130	202	194	156	93	18
	2.9%	5.4%	2.9%	2.2%	3.5%	3.5%	2.7%	2.1%	3.2%
キャンプ	274	12	59	66	33	29	42	24	9
	0.8%	3.0%	1.1%	1.1%	0.6%	0.5%	0.7%	0.6%	1.6%
スポーツ大会	618	18	154	80	87	166	59	40	14
	1.8%	4.4%	2.9%	1.3%	1.5%	3.0%	1.0%	0.9%	2.5%
会議出席等	1,225	3	50	132	209	277	330	211	13
	3.6%	0.7%	0.9%	2.2%	3.6%	5.1%	5.6%	4.9%	2.3%
研修	2,101	6	752	289	236	272	322	190	34
	6.2%	1.5%	14.1%	4.8%	4.1%	5.0%	5.5%	4.4%	6.0%
仕事	2,693	5	33	433	660	720	625	182	35
	8.0%	1.2%	0.6%	7.2%	11.4%	13.2%	10.6%	4.2%	6.2%
帰省	1,130	36	148	293	294	198	115	26	20
	3.3%	8.9%	2.8%	4.9%	5.1%	3.6%	2.0%	0.6%	3.5%
親戚訪問	2,596	43	220	669	489	416	448	267	44
	7.7%	10.6%	4.1%	11.1%	8.5%	7.6%	7.6%	6.2%	7.8%
行祭事見学	1,358	12	528	208	134	132	179	139	26
	4.0%	3.0%	9.9%	3.5%	2.3%	2.4%	3.0%	3.2%	4.6%
戦跡地参拝	6,676	37	2,877	865	628	702	773	694	100
	19.8%	9.1%	53.8%	14.4%	10.9%	12.8%	13.2%	16.0%	17.7%
ショッピング	11,142	129	3,677	2,215	1,513	1,453	1,325	706	124
	33.0%	31.8%	68.8%	36.8%	26.2%	26.6%	22.5%	16.3%	21.9%
その他	1,322	10	232	319	238	188	181	132	22
	3.9%	2.5%	4.3%	5.3%	4.1%	3.4%	3.1%	3.0%	3.9%

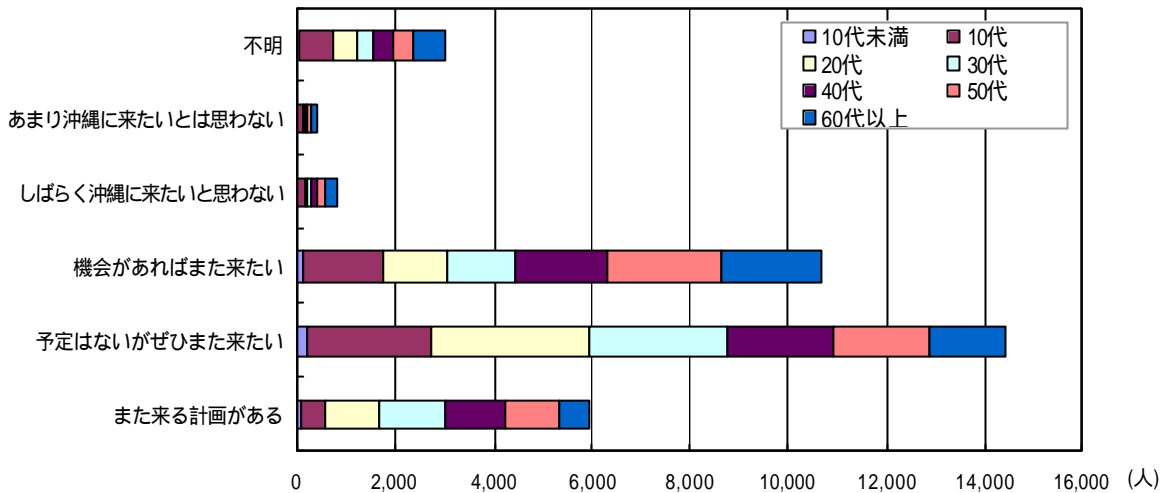
資料：観光要覧 / 平成 12 年版 (沖縄県)

沖縄に約9割が「また来たい」

沖縄観光の印象をみると、また来たいと答えた人の割合は全体の9割近くにのぼり、その中で「予定はないがぜひまた来たい」と答えた人が全体の4割を占めている。

一方、来たいとは思わないと答えた人は全体の3.5%であり、年代別で見ると60代で6.5%の人が「しばらく沖縄に来たいと思わない」もしくは「あまり沖縄に来たいとは思わない」と答えている。

図 4-6 沖縄観光の印象



資料：観光要覧 / 平成 12 年版 (沖縄県)

表 4-6 県外客の年代別旅行目的

	回答者総数	また来る計画がある	予定はないがぜひまた来たい	機会があればまた来たい	しばらく沖縄に来たいと思わない	あまり沖縄に来たいとは思わない	不明
合計	35,430	5,986	14,426	10,752	819	413	3,034
	100.0%	16.9%	40.7%	30.3%	2.3%	1.2%	8.6%
10代未満	431	72	204	102	1	3	49
	100.0%	16.7%	47.3%	23.7%	0.2%	0.7%	11.4%
10代	5,597	474	2,539	1,662	137	106	679
	100.0%	8.5%	45.4%	29.7%	2.4%	1.9%	12.1%
20代	6,237	1,120	3,237	1,292	78	32	478
	100.0%	18.0%	51.9%	20.7%	1.3%	0.5%	7.7%
30代	5,997	1,339	2,786	1,416	72	32	352
	100.0%	22.3%	46.5%	23.6%	1.2%	0.5%	5.9%
40代	5,755	1,225	2,129	1,833	101	53	414
	100.0%	21.3%	37.0%	31.9%	1.8%	0.9%	7.2%
50代	6,154	1,113	1,986	2,327	190	87	405
	100.0%	18.1%	32.3%	38.6%	3.1%	1.4%	6.6%
60代以上	5,259	634	1,545	2,074	240	100	657
	100.0%	12.1%	29.4%	39.4%	4.6%	1.9%	12.5%

資料：観光要覧 / 平成 12 年版 (沖縄県)

4.2 沖縄観光の特性

「沖縄観光満足度調査」(財)沖縄コンベンションビューロー・平成13年)によると、沖縄観光の特徴として以下の点が指摘されている。

リピーター率の増加 フリープラン型観光の増加 家族同伴の増加 参加体験型への関心増加

表4-7 沖縄観光市場の特徴(まとめ表)

項目	特徴
リピーター率 ・上昇している	5割台後半のリピーター率で、特に夏場は62.8%にまで上昇している 若者は初回が5割強であり、リピーター率は低くなっている 個人マーケットのリピーター率は7割台後半に上る。特に6回以上が3割を超えている
旅行形態 ・フリープランが多い	・夏は、フリープランが圧倒的に多く、観光付きのパッケージや団体旅行の割合はかなり低い。一方、秋、冬は観光付きパッケージや団体の割合が夏場に比較すると大きく増えており、パターンが違っている ・フリープラン型パッケージ旅行が5割強に上り、これに個人旅行の15%を加えるとフリー行動型は全体の6割強に上り、主流となっている 観光付きパッケージ旅行は全体の2割である
同伴者 ・家族同伴が多い	・「同伴者」について最も多かったのは「家族・親戚」と、523件(36.7%)、次いで「友人・知人」と347件(24.4%)、「夫婦」で236件(16.6%)、「職場・業務関係者」と163件(11.4%)、「その他の団体(招待旅行や町内会など)」50件(3.5%)となっている。 ・このことから、沖縄観光市場においては家族マーケットが重要なウェイトを持っていることがわかる。
旅行日程	・「旅行日程」には「2泊」644件(45.2%)、「3泊」517件(36.3%)、「4泊」117件(8.2%)、「7泊以上」40件(2.8%)、「5泊」35件(2.5%)となっている。 季節別にみると、短期滞在(1泊、2泊の割合)は、夏が30%、秋が33.4%、冬が24.4%で、秋、冬の短期滞在の割合が大きい。一方、3泊以上の滞在は夏が68.8%、秋が34.6%、冬が36.4%で、夏場の滞在日数が長くなっている。
訪問地域	・「訪問地域」は「那覇」1,063件(74.6%)、「中部」898件(63.0%)、「南部(那覇を除く)」669件(46.9%)、「北部」484件(34.0%)、「石垣」179件(12.6%)となっている。 那覇市の訪問割合が7割強で際立っている。空港所在地としての有利性もさることながら、沖縄観光に占める那覇市の存在の大きさが改めて浮き彫りになっている。 季節別にみると、訪問回数の1人当たりの平均が夏は2.3ヶ所、秋は2.6ヶ所、冬2.8ヶ所となり、秋、冬の訪問回数が夏に比較すると多くなっている。本島周辺離島は、夏場に比較し、秋、冬の訪問割合が顕著に減少している
観光動機 ・リフレッシュ願望	全体の7割がリフレッシュ願望であり、旅行を通して心身をリフレッシュするとい観光の本源的な動機が強く出ている 思い出づくり願望が全体の6割強に上り、特に若者は57%に上っている 冬場は避寒願望が5割強であり、特に高齢者及びリピーターマーケットに避寒願望が強く出ている
観光目的 参加体験型が増えている	高齢者及び団体マーケットで「観光地めぐり」が85%以上を占めるのに対し、個人リピーター、家族、若者マーケットは観光地めぐりに加え、保養・休養、海浜リゾートを楽しむなどダイビング保養や海浜レジャーへの志向性が強くなっている。 離島への滞在を楽しむという点は、個人及びリピーターマーケットに相対的に多い。その他の回答を見ると、沖縄料理を楽しむことや焼物などの工芸などへの体験があげられる。

4.3 全国的な観光動向

平成12年版観光白書によると、最近の国内の観光動向として、以下のような特徴的傾向が見られる。

表 4-8 全国的な観光動向

<p>ア 都市型観光が人気</p> <p>従来、観光資源というと美しい自然、歴史的に価値のある神社・仏閣や温泉がイメージされるが、最近ではこの種の観光魅力以外に、都市の持つ複合的な機能や各種の文化、情報の発信機能そのものが観光客にとって高い観光魅力の対象となっていることが多い。</p> <p>例えば、東京都の臨海副都心では、都市の魅力を生かしたアミューズメント施設やテーマパーク型ショッピングセンターが続々誕生し、従来の観光客や若年層のみならず、幅の広い女性層全体にも人気を呼んでおり、臨海副都心への来街者は、近年大幅に増加している。また、横浜市のみなとみらい21地区、福岡市のキャナルシティ博多等も人気を呼んでいる。</p> <p>こうした都市型観光による社会・文化・経済的な波及効果は、観光産業をはじめ、地域産業など広く産業全般に及び、来訪者と居住者との交流による新たな都市文化の発展にもつながるため、今後、多様な魅力を持つ都市づくりとして期待されている。</p>
<p>イ 個人・グループ旅行が好調</p> <p>個人消費の足踏み状態が続く中で、個人の観光はツアー価格の低下や航空運賃の割引効果を背景に、ツアー商品を中心に取扱額、取引人数ともに好調を維持している。中でも特に、家族旅行の需要が高い。</p> <p>これに対し、団体・法人の旅行需要は、景気の先行き不安等を背景に引き続き低迷状況が続いている。</p>
<p>ウ 「安・近・短」旅行と「安・遠・短」旅行の傾向が続く</p> <p>国民の宿泊旅行については、従来より「安」(旅行商品の低廉化)、「近」(近距離)、「短」(短い日数)のいわゆる「安・近・短」旅行の傾向が指摘されてきた。</p> <p>このような旅行とともに、沖縄・奄美、北海道方面を中心に遠距離方面の旅行も引き続き好調で、「安・遠(遠距離)・短」の傾向が続いており、国内市場の回復を支えている。この「安・遠・短」旅行の要因としては、低価格商品の販売、官民一体となった積極的な観光キャンペーンの展開に加え、航空運賃の自由化による航空機を利用した旅行商品の人気も挙げられる。</p>
<p>エ 旅行需要の平準化の傾向</p> <p>近年の観光と兼観光を合わせた宿泊観光・レクリエーション旅行の月別回数を見ると、8月が最も多く、次いで5月の順となっている。</p> <p>月別旅行回数について、最近2年間(10年、11年)と過去5年間の平均(5年から9年)を各年の旅行回数の月別構成比率で比較すると、8月及び1月の旅行が減少しているのに対し、その他の月は概ね増加しており、年間を通じた旅行需要の平準化の傾向が見られる。その背景としては、週休二日制の普及、年次有給休暇の取得の促進、交通基盤施設の整備等によって旅行しやすい社会環境が徐々に整いつつあることが考えられる。</p>
<p>オ 体験型レクリエーション等旅行ニーズの多様化</p> <p>観光地での行動は、「都市の散策」、「伝統文化とのふれあい」、「買物、飲食」、「テーマパーク、遊園地」、「海洋性レクリエーション」、「スキー」などの体験型レクリエーションも人気を呼んでいる。</p> <p>これらに加えて、近年の自然環境の保全・保護に関する関心の高まりなどから、少人数で自然や野生生物とのふれあい等を通じて自然保護に対する理解・認識を深めていくエコツーリズムへの関心も高まっている。</p> <p>さらに、近年の自然志向への高まりを背景に、旅行業者と各地域の観光協会、農林漁業者や農協等との連携により、農山漁村地域を中心に自然、文化、人々との交流等を目的とした滞在型の余暇活動である、グリーンツーリズムへの関心も高まっている。</p>
<p>カ 旅行商品の更なる低価格化の進展</p> <p>取扱額の伸び率は取扱人数の伸び率を下回る状況が続いている。これは、景気の低迷による影響等を背景として、格安で短期間の旅行商品等に対する消費者の志向が高まっていること、また、これに近年、主要旅行業者50社の国内旅行ブランド商品の取扱人数が対前年比で増加しているものの、その対応して厳しい経営状況にある旅行業者、ホテル、旅館等の観光関連産業が売上の確保を図るため、各関連産業間での連携の強化、経費の節約等によって、低価格商品の開発に引き続き取り組み、販売競争が激化していることによるものと考えられる。</p>

5 . 現地写真

5.1 エイサー広場計画地 那覇市牧志1丁目 旧沖縄山形屋跡地



5.2 ガチマヤーセンター計画地 那覇市牧志2丁目 旧第2牧志公設市場跡地



引用・参考文献

- ・粟田房穂（2002年）最先端観光企業・ディズニーテーマパーク 一色清 『AERA Mook 観光学がわかる。』朝日新聞社
- ・池澤夏樹（1992年）ニライカナイ ナイチャーズ 『沖縄いろいろ辞典』新潮社 p90-91 猪爪範子（1989年）『まちづくり文化産業の時代』ぎょうせい
- ・大谷英人（2002年）『テキストまちづくり入門』若竹まちづくり研究所
- ・大濱聡（1998年）『沖縄・国際通り物語 - 「奇跡」と呼ばれた1マイル - 』ゆい出版
- ・寛計画編（2002年）『観光振興のための中心市街地活性化方策の検討調査報告書』寛計画
- ・酒田哲（1991年）『地方都市・21世紀への構想』日本放送出版協会
- ・白幡洋三郎（2002年）都市観光古代ギリシャからの観光の王道 一色清 『AERA Mook 観光学がわかる。』朝日新聞社
- ・高草木光一（1999年）共生空間の変容 慶応義塾大学経済学部編 『変わりゆく共生空間』弘文堂 序論：3-22
- ・ドロレス・ハイデン（2002年）『場所の力』学芸出版社 24-36
- ・那覇市企画部文化振興課（1987年）『那覇市史 資料篇第3巻1 戦後の都市建設』那覇市役所
- ・比屋根照夫（2000年）近代沖縄における同化と自立 太田朝敷・伊波普猷を中心に 慶応義塾大学経済学部編 『マイノリティからの展望』弘文堂 第 部：157-176
- ・和宇慶朝太郎（1999年）『近世・近代那覇における商空間の成立と展開に関する研究』和宇慶朝太郎

謝辞

私はこの計画を立てることによって、実に多くの方々のやさしさに触れることができました。

大谷英人教授には、研究室で長きにわたり温かいご指導を頂きました。また、お忙しい中、副査にあられた荒木英昭教授、吉田晋助教授に大変感謝しております。そして、沖縄の地理的特性と台湾の事柄についてご指導いただいた、大内雅博助教授にも感謝しております。

沖縄では、寛計画の謝花寛営氏、謝花奈津子氏、兼城健作氏、仲田文子氏には、現地での研究の場をいただくとともに、沖縄の事柄について多くの助言をいただきました。さらに、何も沖縄のことを知らない私を温かく迎え入れ、沖縄を直撃した台風からも匿っていただいた村田邦雄氏、村田功氏にも大変お世話になりました。

また、研究室から沖縄へ飛び出した私に代わり、様々な研究室の作業をしていただいた大谷研究室の皆様感謝いたします。

そして、挫けそうな私の良き支えになってくれた父と母、良き友人である福田道也君、木村卓嗣君、濱津陽一君にも感謝しています。ありがとう。

2003年1月10日 研究室にて